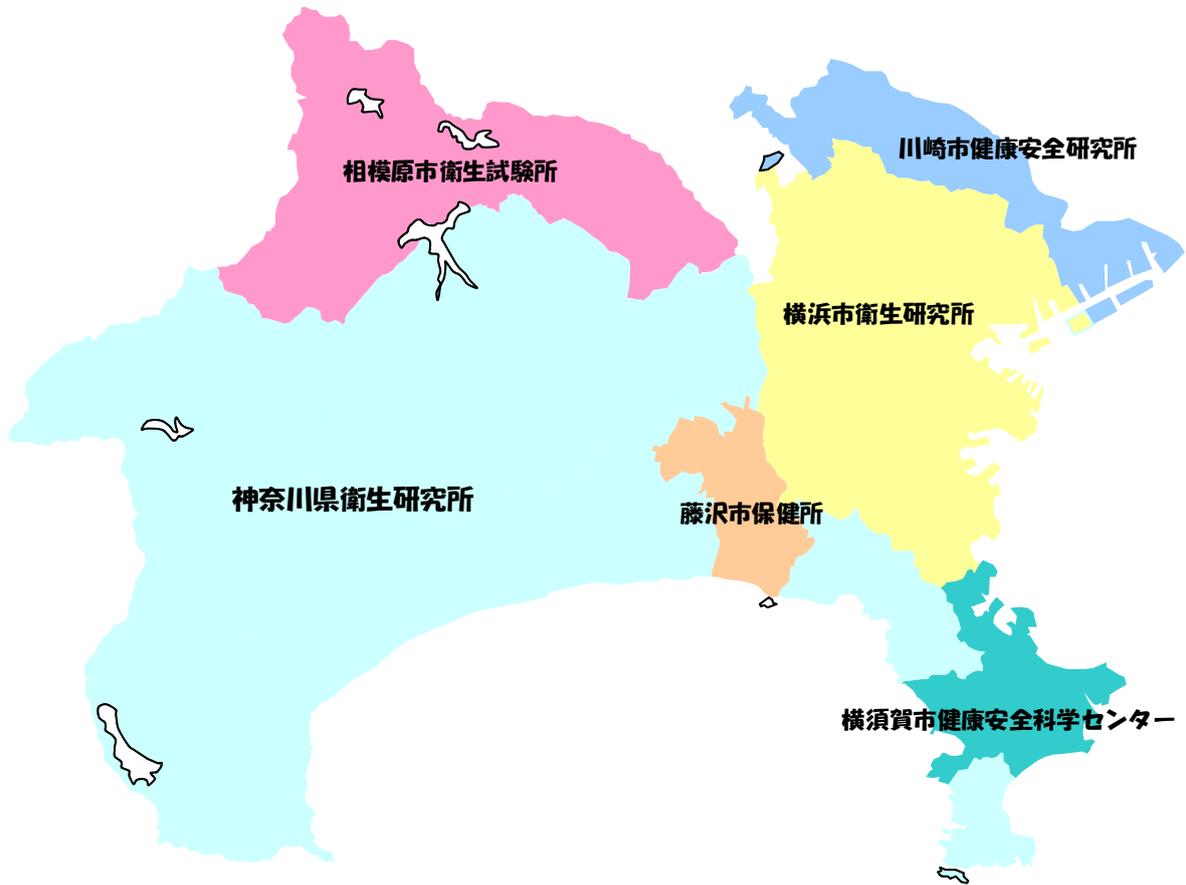


平成 26 年

# 神奈川県感染症

PART I 平成 26 年神奈川県感染症発生動向調査の概要

PART II 平成 26 年地域における感染症発生状況の概要



神奈川県衛生研究所

## はじめに

平成 26 年は、海外ではエボラ出血熱、中東呼吸器症候群（MARS）や高病原性鳥インフルエンザの報告が注目されました。また、国内では 70 年ぶりに国内感染が確認されたデング熱の発生や薬剤耐性菌の問題などがあり、感染症に対する健康危機管理対策の重要性はより増してきています。

また、国では、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（感染症予防法）について、5 年ごとの見直しによる改正も、平成 26 年 11 月 14 日の衆議院本会議で可決成立しました。この改正の趣旨は、最近の海外における感染症の発生状況、国際交流の進展、保健医療を取り巻く環境の変化をふまえ、感染症の拡大予防と情報収集の整備や検体採取等の制度の創設等の措置を講ずるものです。

神奈川県衛生研究所（以下、当所）では、こうした状況のなかで、神奈川県の基幹感染症情報センターとしての役割を果たすとともに、健康危機管理や感染症対策に向けて、本庁や保健福祉事務所、保健所をはじめ、県内 33 市町村の担当課や神奈川県医師会や病院協会及び関係機関の方々との連携を強化するとともに、感染症発生動向調査事業を中心とした情報収集や原因究明のための検査、今後の感染症対策に向けた研究とともにホームページ等による情報発信や研修会など、感染症対策のさらなる充実にむけて日々取り組んでおります。

『神奈川県の感染症』は、横浜市衛生研究所、川崎市健康安全研究所、相模原市疾病対策課・衛生試験所(平成 27 年 4 月 1 日より衛生研究所)、横須賀市健康安全科学センター、藤沢市保健所及び当所が協力し、神奈川県における感染症発生動向調査、微生物検出情報等についてまとめ、感染症発生動向調査の概要を中心とした P A R T I と、各地域における感染症発生状況の概要を中心とした P A R T II に分けて収録いたしました。感染症対策の参考にして頂ければ幸いです。

『神奈川県の感染症』の作成に当たり、関係機関の方々から、貴重な研究資料をご提供いただきましたことに厚くお礼申し上げます。

平成 27 年 4 月

神奈川県衛生研究所長

岡 部 英 男

# 目 次

## < PART I > 平成 26 年神奈川県感染症発生動向調査の概要

### I 感染症発生動向調査

1 全数把握対象疾患	7
2 定点把握対象疾患	
(1) 定点	10
(2) 週報対象疾患(神奈川県全県)	11
(3) 月報対象疾患(神奈川県全県)	21
3 トピックス	
<神奈川県の HIV/エイズの概要> (速報値)	25
【資料】	
資料 1 平成 26 年全数把握対象の感染症 保健所別報告数	26

## < PART II > 平成 26 年地域における感染症発生状況の概要

### I 病原微生物検出状況

1 ウイルス検出概況	27
2 病原細菌検出概況	28
3 ウイルス等の検出状況表(ヒト由来)	29
4 病原細菌検出状況表(ヒト由来)	40

### II 地域における感染症発生状況の分析

1 ウイルス性感染症	
(1) インフルエンザ	
① 神奈川県(横浜市・川崎市・相模原市及び横須賀市を除く)の インフルエンザの動向(神奈川県衛生研究所)	45
② 横浜市のインフルエンザの動向(横浜市衛生研究所)	47
③ 川崎市のインフルエンザの動向(川崎市健康安全研究所)	55
④ インフルエンザ感受性調査(神奈川県衛生研究所)	56
(2) HIV/エイズ	
① 神奈川県(横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く)における HIV 検査の実施状況(神奈川県衛生研究所)	59
② 藤沢市における HIV 即日検査の実施状況(藤沢市保健所)	61
(3) ウイルス性感染性胃腸炎	
(3) -1	

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）の感染性胃腸炎患者からの原因ウイルス検出状況（神奈川県衛生研究所）	62
(3) -2	
① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）のウイルスによる集団胃腸炎の検査結果（神奈川県衛生研究所）	64
② 横浜市のウイルスによる集団胃腸炎の検査結果（横浜市衛生研究所）	65
③ 川崎市のウイルスによる集団胃腸炎の検査結果（川崎市健康安全研究所）	68
④ 相模原市のウイルスによる集団胃腸炎の検査結果（相模原市衛生試験所）	68
⑤ 横須賀市のウイルスによる集団胃腸炎の検査結果（横須賀市健康安全科学センター）	69
⑥ 藤沢市のウイルスによる集団胃腸炎の検査結果（藤沢市保健所）	69
(4) 手足口病、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱、無菌性髄膜炎	
① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市及び横須賀市を除く）の検出状況（神奈川県衛生研究所）	70
② 川崎市の検出状況（川崎市健康安全研究所）	71
(5) 蚊媒介感染症	
① 横浜市のウエストナイル熱等媒介蚊のサーベイランス（横浜市衛生研究所）	72
② 川崎市のウエストナイル熱等媒介蚊のサーベイランス（川崎市健康安全研究所）	74
③ 横須賀市のウエストナイル熱等媒介蚊のサーベイランス（横須賀市健康安全科学センター）	75
(6) その他のウイルス性感染症	
(6)-1	
① 神奈川県の日本脳炎感染源調査（神奈川県衛生研究所）	76
(6)-2	
① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市及び横須賀市を除く）の麻疹疑い患者からの麻疹ウイルス検出状況（神奈川県衛生研究所）	76
② 川崎市の麻疹ウイルス検出状況（川崎市健康安全研究所）	77
③ 相模原市の麻疹ウイルス検出状況（相模原市衛生試験所）	77
(6)-3	
① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市及び横須賀市を除く）の麻疹ウイルス抗体保有状況（神奈川県衛生研究所）	77
(6)-4	
① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）の風疹ウイルス抗体保有状況（神奈川県衛生研究所）	79
(6)-5	
① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市及び横須賀市を除く）のデングウイルス検出状況（神奈川県衛生研究所）	80
2 細菌性感染症	
(1) 腸チフス・パラチフス	

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）の チフス菌等のフェージ型別結果（神奈川県衛生研究所）	81
② 横浜市のチフス菌等のフェージ型別結果（横浜市衛生研究所）	81
③ 川崎市のチフス菌等のフェージ型別結果（川崎市健康安全研究所）	81
(2) 細菌性腸管系感染症	
① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）の 腸管出血性大腸菌検出状況（神奈川県衛生研究所）	82
② 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）の 赤痢菌及びコレラ菌検出状況（神奈川県衛生研究所）	82
③ 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）の 散発下痢症患者からの病原菌検出状況（神奈川県衛生研究所）	83
④ 横浜市の腸管出血性大腸菌検出状況（横浜市衛生研究所）	83
⑤ 横浜市の赤痢菌及びコレラ菌検出状況（横浜市衛生研究所）	84
⑥ 川崎市の腸管出血性大腸菌検出状況（川崎市健康安全研究所）	85
⑦ 相模原市の腸管病原菌検出状況（三類感染症発症者の家族等の病原菌検索） （相模原市衛生試験所）	85
⑧ 横須賀市の散発下痢症・接触者等からの腸管系病原菌検出状況 （横須賀市健康安全科学センター）	86
⑨ 藤沢市の腸管病原菌（三類感染症）検出状況（藤沢市保健所）	87
(3) A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	
① A 群溶血レンサ球菌の分離及び T 型別成績（神奈川県衛生研究所）	88
② 横浜市の A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎（横浜市衛生研究所）	90
③ 川崎市の A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎（川崎市健康安全研究所）	90
(4) 結核	
① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）における QFT 検査成績（神奈川県衛生研究所）	90
② 川崎市における T-SPOT. TB 検査成績（川崎市健康安全研究所）	91
(5) 百日咳	
① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）の 百日咳検査成績（神奈川県衛生研究所）	92
② 横浜市における百日咳検査成績（横浜市衛生研究所）	94
(6) マイコプラズマ肺炎	
① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）の 肺炎マイコプラズマ検出状況（神奈川県衛生研究所）	95

### 3 その他の感染症

(1) つつが虫病

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）で発生した つつが虫病（神奈川県衛生研究所） .....	96
【参考資料】 予防接種実施状況 .....	98
感染症関係機関 .....	99

# < PART I > 平成 26 年神奈川県感染症発生動向調査の概要

(平成 27 年 3 月)

## I 感染症発生動向調査

感染症発生動向調査事業では、平成 10 年 9 月に「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」（以下「感染症法」という。）が成立し、平成 11 年 4 月から施行されたことに伴い、感染症の予防とまん延防止の施策を講じるため、感染症の情報を医療機関から収集し、その内容の分析、公表を行っている。

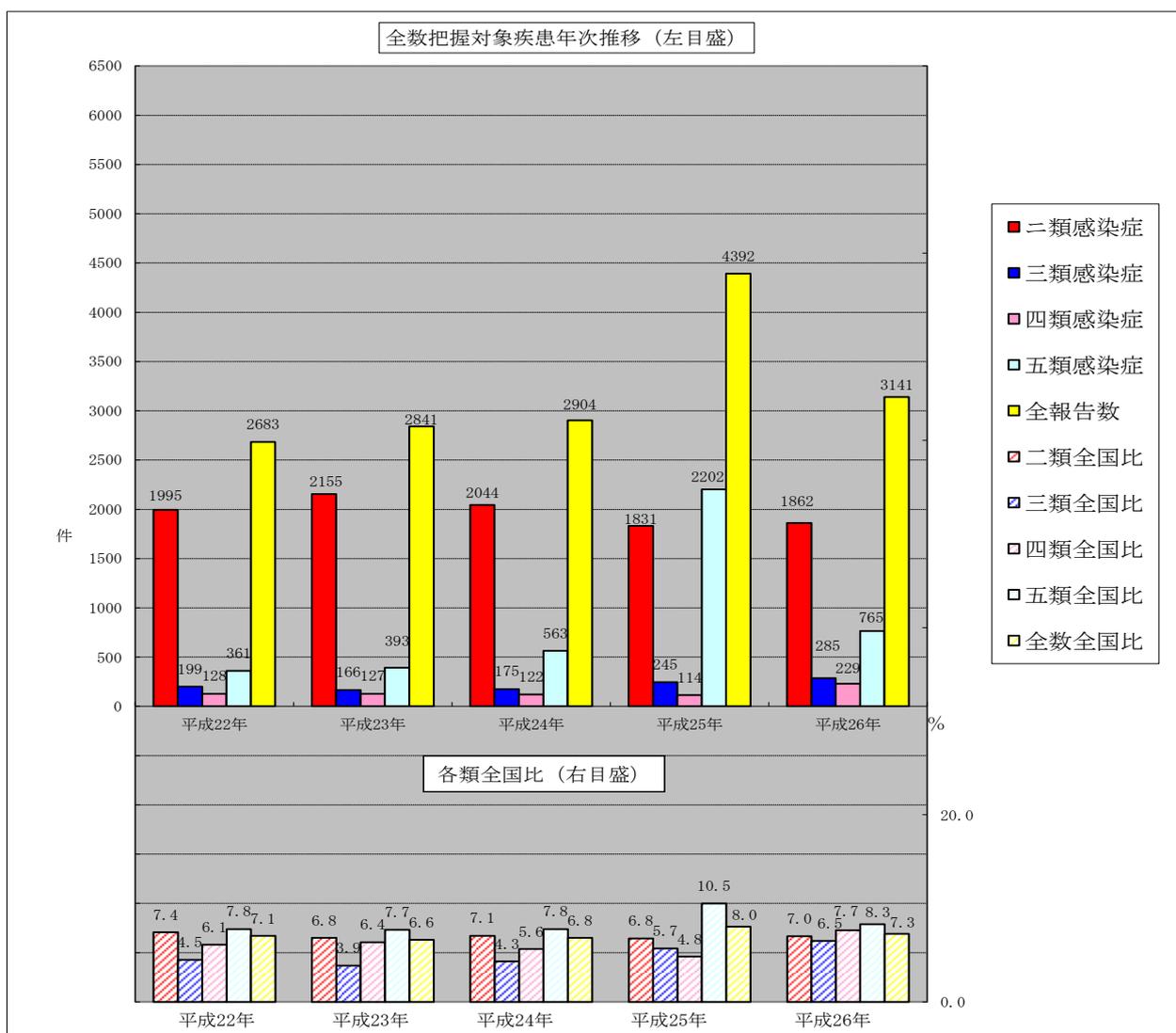
### 1 全数把握対象疾患

平成 26 年に県内で報告のあった全数把握対象疾患は、3141 件と前年より 1251 件減少した。

類別では、二類感染症 1862 件、三類感染症 285 件、四類感染症 229 件、五類感染症 765 件であった。平成 26 年報告総数の全国に占める割合は、前年から減少し 7.3%であった。最も割合の高かった類は五類感染症で 8.3%を占めた。

全数把握対象疾患の年別推移等は、資料 1「平成 26 年全数把握対象感染症保健所別報告数」を参照。

図 1 全数把握対象疾患の推移



《一類感染症》

報告はなかった。

《二類感染症》

結核 1862 件であり、前年より増加した。

《三類感染症》

報告数は、前年よりも 40 件増加して 285 件であった。最も報告の多かった疾患は腸管出血性大腸菌感染症が 273 件で、前年より 55 件増加した。

表 1 三類感染症報告数（件）

疾患名	平成 22年	平成 23年	平成 24年	平成 25年	平成 26年							全国
	神 奈 川 県	神 奈 川 県	神 奈 川 県	神 奈 川 県	神 奈 川 県	(横 浜 市)	(川 崎 市)	(相 模 原 市)	(横 須 賀 市)	(藤 沢 市)	神 奈 川 県 (左 を 除 く)	
15 コレラ		3	2									5
16 細菌性赤痢	22	29	13	13	8	3			1		4	158
17 腸管出血性大腸菌感染症	168	132	149	218	273	117	63	10	5	19	59	4149
18 腸チフス	6		8	8	3	1	1				1	53
19 パラチフス	3	2	3	6	1						1	16
合 計	199	166	175	245	285	121	64	10	6	19	65	4381

※件数は国立感染症研究所感染症発生動向調査による

※擬似症・無症状病原体保有者を含む

《四類感染症》

12 疾患の報告があり、報告数は前年よりも 115 件増加して 229 件であった。最も報告の多かった疾患はレジオネラ症で 131 件、続いて、デング熱 31 件であった。

表 2 四類感染症報告数（件）

疾患名	平成 22年	平成 23年	平成 24年	平成 25年	平成 26年							全国
	神 奈 川 県	神 奈 川 県	神 奈 川 県	神 奈 川 県	神 奈 川 県	(横 浜 市)	(川 崎 市)	(相 模 原 市)	(横 須 賀 市)	(藤 沢 市)	神 奈 川 県 (左 を 除 く)	
20 E型肝炎	1	3	4	7	11	2	3	2	1	1	2	154
22 A型肝炎	28	10	16	11	25	8	10	3		1	3	433
23 エキノコックス症	1				1	1						28
25 オウム病		1			4		4					8
38 チクングニア熱		2	2	1	1		1					16
39 つつが虫病	21	29	13	11	12						12	320
40 デング熱	14	10	19	16	31	20	3	2		1	5	341
44 日本紅斑熱					1		1					240
49 ブルセラ症				1								10
54 マラリア	6	7	11	2	8	4		1		1	2	60
56 ライム病	1				1						1	17
59 類鼻疽	1	1										
60 レジオネラ症	55	64	54	63	131	51	14	6	5	5	50	1246
61 レプトスピラ症			3	2	3	2	1					48
合 計	128	127	122	114	229	88	37	14	6	9	75	2990

※件数は国立感染症研究所感染症発生動向調査による

※擬似症・無症状病原体保有者を含む

※全国合計値は掲載疾病以外の疾病も含む

※平成23年2月よりチクングニア熱が追加された

《五類感染症》

19 疾患の報告があり、報告数は 765 件であった。最も報告の多かった疾患が侵襲性肺炎球菌感染症で 163 件、次いでアメーバ赤痢が 117 件、梅毒が 110 件であった。

表 3 五類感染症報告数（件）

疾患名	平成 22年	平成 23年	平成 24年	平成 25年	平成 26年	（横 浜市）	（川 崎市）	（相 模原 市）	（横 須賀 市）	（藤 沢市）	（左 を 除 く 神 奈 川 県）	全 国
	神 奈 川 県	神 奈 川 県	神 奈 川 県	神 奈 川 県	神 奈 川 県							
63 アメーバ赤痢	81	85	82	88	117	66	19	9	3	5	15	1135
64 ウイルス性肝炎	13	12	4	19	9	2	3		1	1	2	228
65 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症					26	13	4	1	1	1	6	321
66 急性脳炎	12	11	13	17	39	21	14	2	2			469
68 クロイツフェルト・ヤコブ病	9	6	8	11	13	7	1	2		1	2	179
69 劇症型溶血性レンサ球菌感染症	12	10	13	16	25	14	1	4	1	1	4	280
70 後天性免疫不全症候群	79	92	90	120	97	58	22	7	2	2	6	1538
71 ジアルジア症	10	6	4	5	3	1	1				1	68
72 侵襲性インフルエンザ菌感染症				7	18	9	5		1	2	1	200
73 侵襲性髄膜炎菌感染症				1	4	1	1		1		1	37
74 侵襲性肺炎球菌感染症				101	163	79	37	16	11	4	16	1825
75 水痘（入院例）					9	3	3	1			2	142
76 先天性風しん症候群				3								9
77 梅毒	33	43	50	76	110	39	31	14	2	4	20	1683
78 播種性クリプトコックス症					2		2					36
79 破傷風	3	2	6	6	6	2	1	1	1		1	126
81 バンコマイシン耐性腸球菌感染症	22	17	7	9	5		1			2	2	57
82 風しん	8	64	259	1691	68	37	15	3	4	1	8	320
83 麻しん	78	45	24	31	48	11	13	2		6	16	462
84 薬剤耐性アシネトバクター					3	1		1		1		15
髄膜炎菌性髄膜炎	1		3	1								
合計	361	393	563	2202	765	364	174	63	30	31	103	9228

※件数は国立感染症研究所感染症発生動向調査による

※擬似症・無症状病原体保有者を含む

※全国合計値は掲載疾病以外の疾病を含む

※平成20年1月より風しん、麻しんが追加された

※平成25年4月より侵襲性インフルエンザ菌感染症、侵襲性髄膜炎菌感染症、侵襲性肺炎球菌感染症が追加された。それに伴い髄膜炎菌性髄膜炎は削除された

※平成26年9月よりカルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症、播種性クリプトコックス症、水痘（患者が入院を要すると認められるものに限る）、薬剤耐性アシネトバクター感染症が追加された

## 2 定点把握対象疾患

### (1) 定点

定点把握対象疾患は、疾患により5種類に分類され、予め指定された医療機関（定点）から報告される。定点の数は人口に応じて決められており、神奈川県内の定点の状況は下表のとおりである。

	県域	横浜市	川崎市	相模原市	計
インフルエンザ定点	116	152	54	23	345
小児科定点	73	92	33	15	213
眼科定点	16	19	7	4	46
STD(性感染症)定点	23	27	7	5	62
基幹定点	5	4	2	1	12

#### ○インフルエンザ定点

対象疾患名： インフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く）

#### ○小児科定点

対象疾患名： RSウイルス感染症・咽頭結膜熱・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎・感染性胃腸炎・水痘・手足口病・伝染性紅斑・突発性発しん・百日咳・ヘルパンギーナ・流行性耳下腺炎

#### ○眼科定点

対象疾患名： 急性出血性結膜炎・流行性角結膜炎

#### ○基幹定点

対象疾患名： クラミジア肺炎（オウム病を除く）・細菌性髄膜炎（インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く）・マイコプラズマ肺炎・無菌性髄膜炎・感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるものに限る）・ペニシリン耐性肺炎球菌感染症・メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症・薬剤耐性緑膿菌感染症

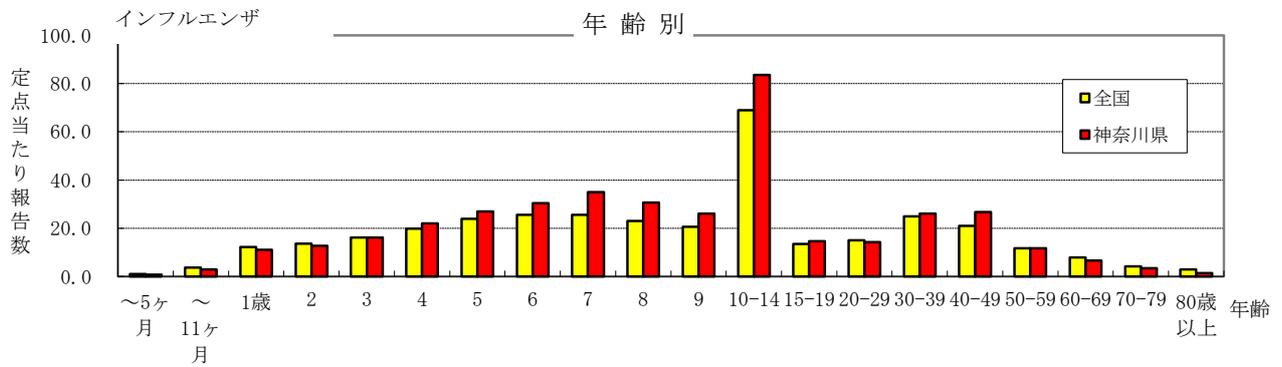
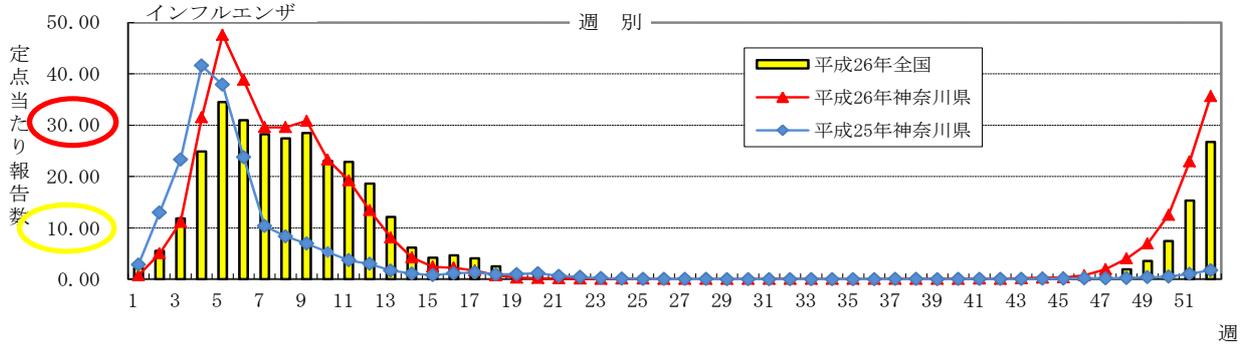
#### ○STD定点

対象疾患名： 性器クラミジア感染症・性器ヘルペスウイルス感染症・尖圭コンジローマ・淋菌感染症

(2) 週報対象疾患（神奈川県全体）

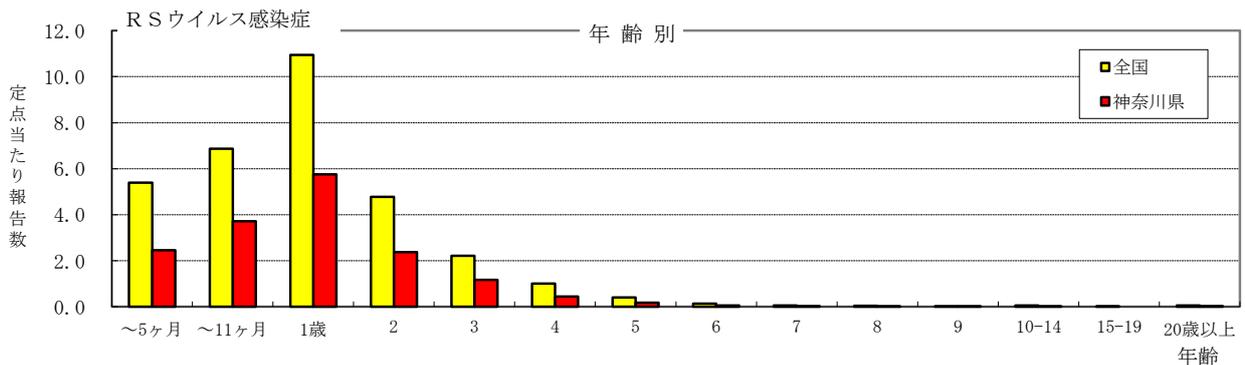
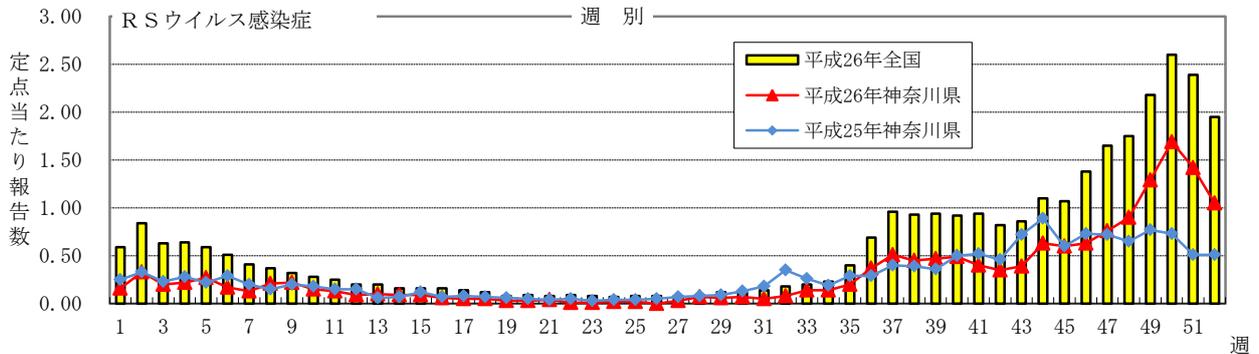
インフルエンザ

2013/2014 シーズンは第 5 週、2014/2015 シーズンは第 52 週に流行のピークがみられた。年齢別では、10 歳から 14 歳に報告が多かった。



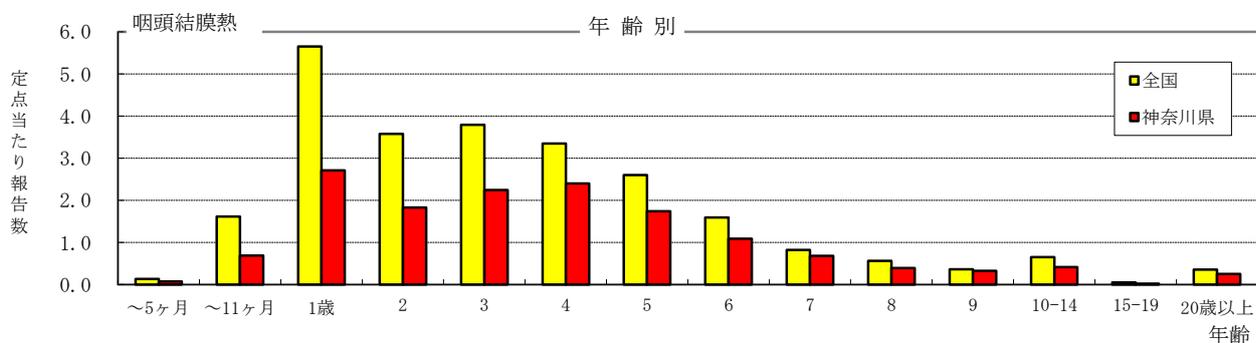
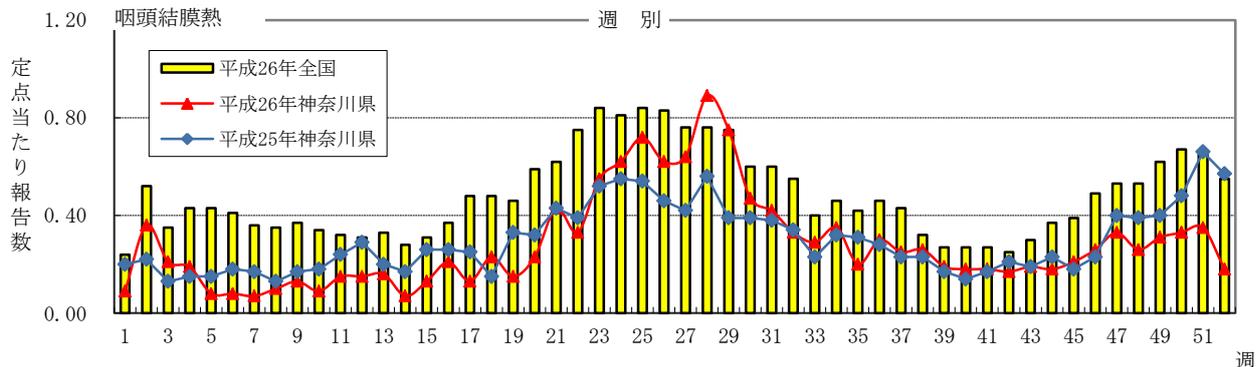
RS ウイルス感染症

第 35 週以降に報告が多く、第 50 週にピークがみられた。年齢別では、1 歳以下に報告が多かった。



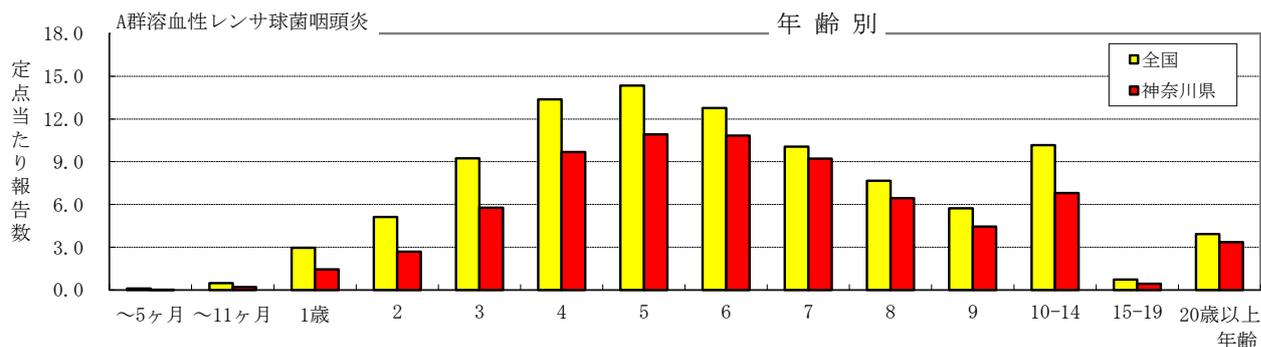
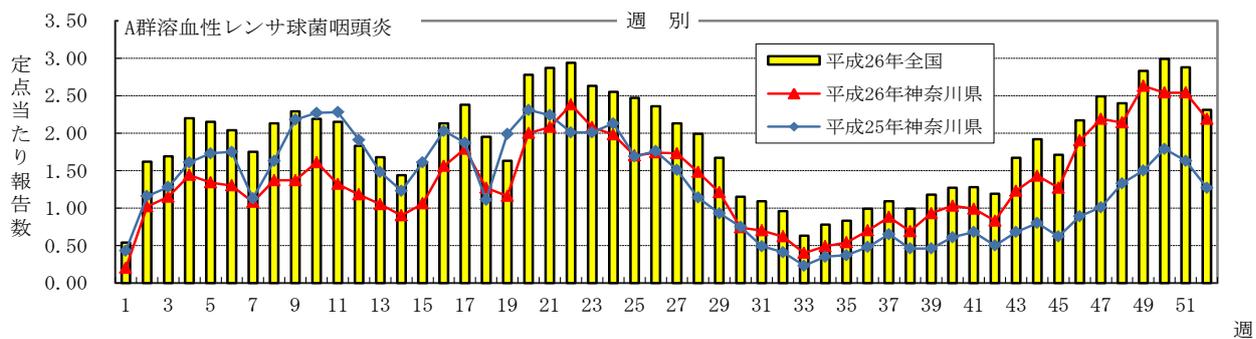
## 咽頭結膜熱

第23週から第25週に流行がみられたのち、第28週に流行のピークがみられた。年齢別では、1歳から5歳を中心に報告が多かった。



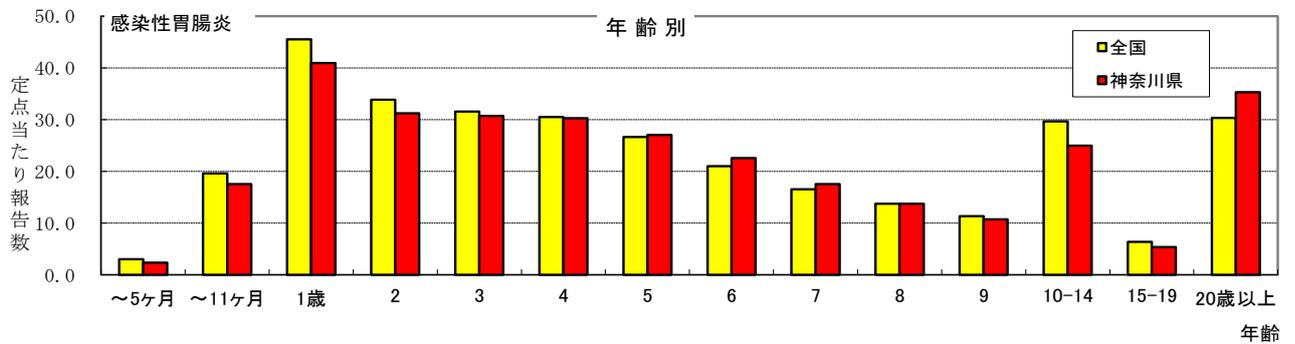
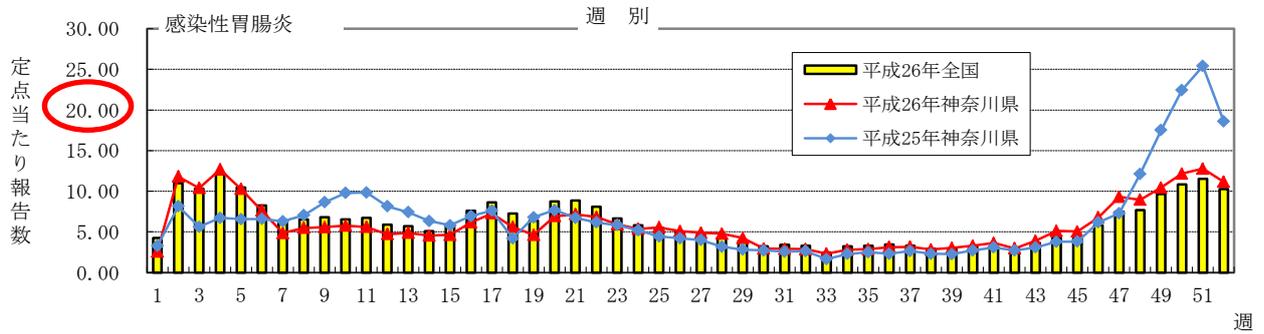
## A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

第20週から第24週と第46週から第52週に報告が多かった。年齢別では、5歳から6歳を中心に報告が多かった。



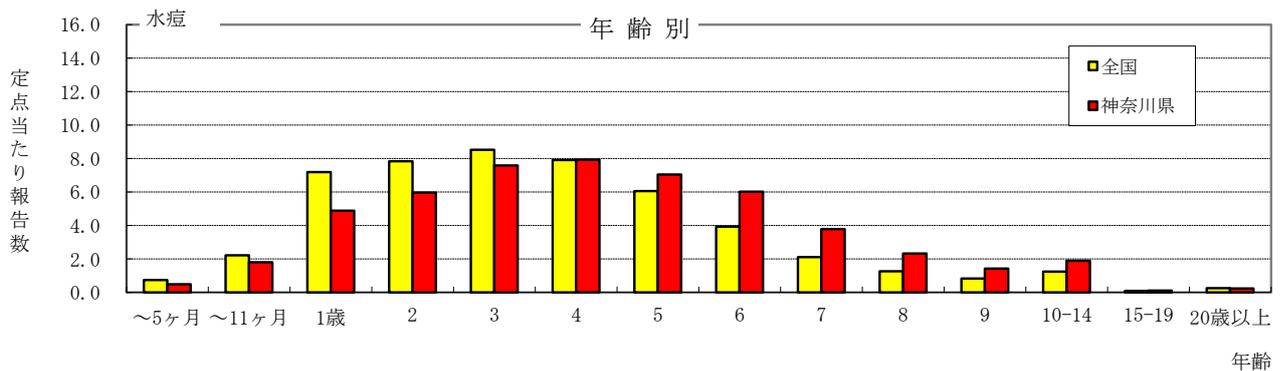
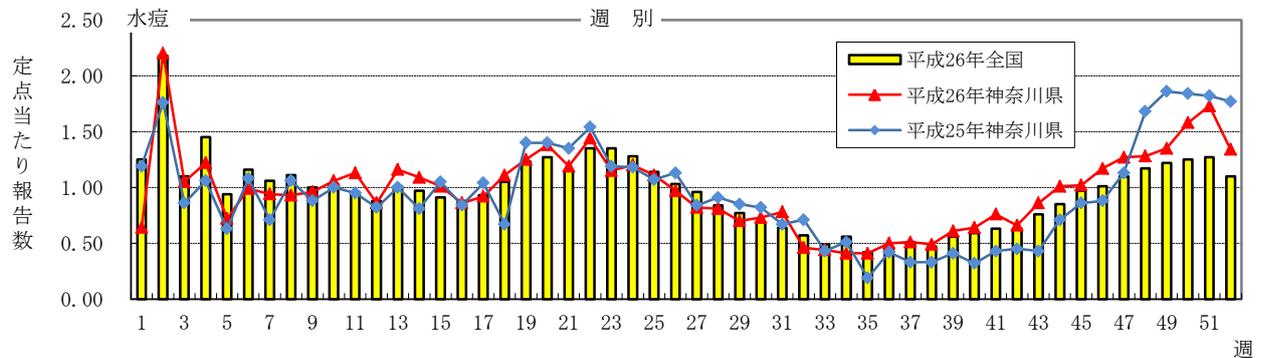
## 感染性胃腸炎

第 51 週に流行のピークがみられたが、例年より報告は少なかった。年齢別では、1 歳から 14 歳以下に多く見られた。



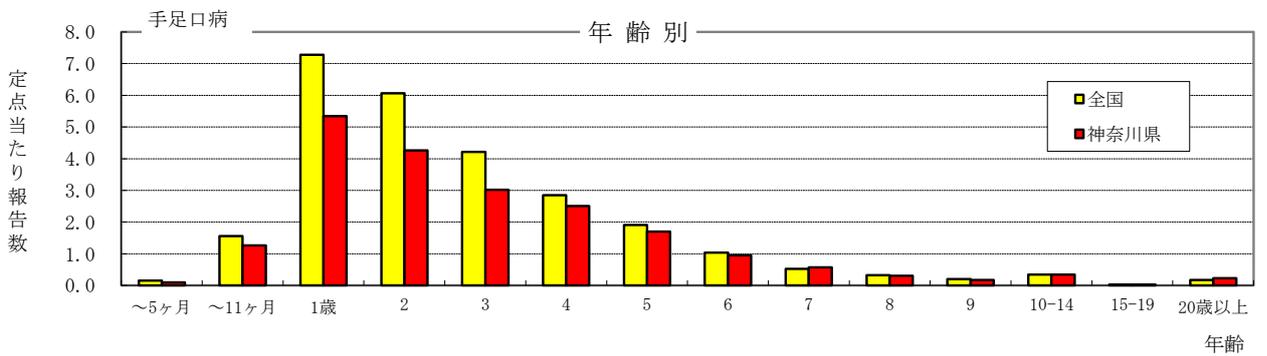
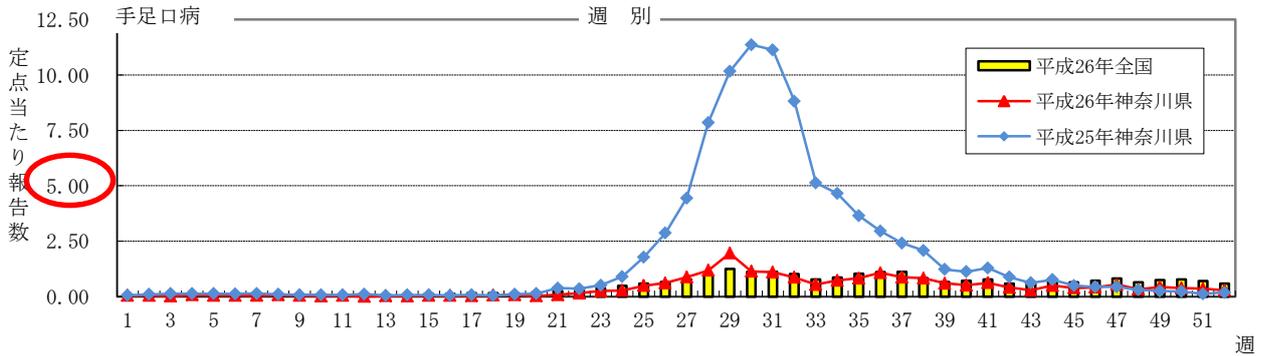
## 水痘

第 36 週から第 47 週は報告が多くなったが、例年と同様の流行であった。年齢別では、1 歳から 6 歳に報告が多かった。



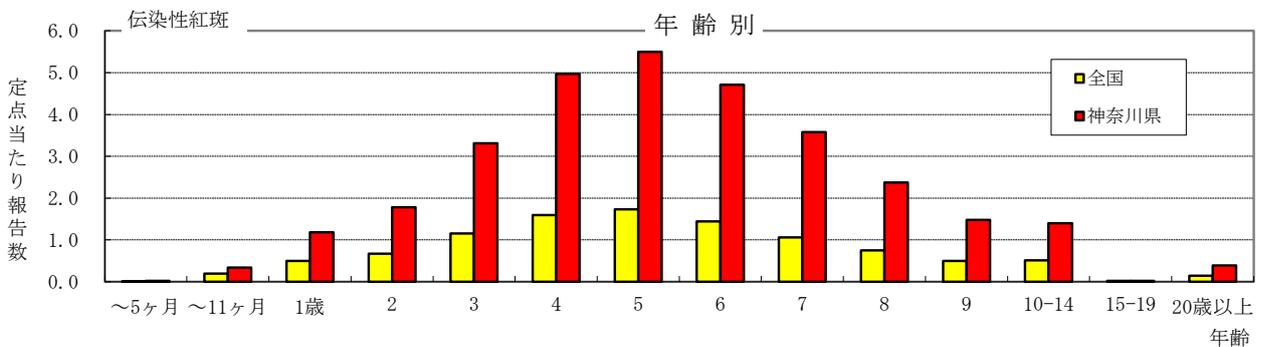
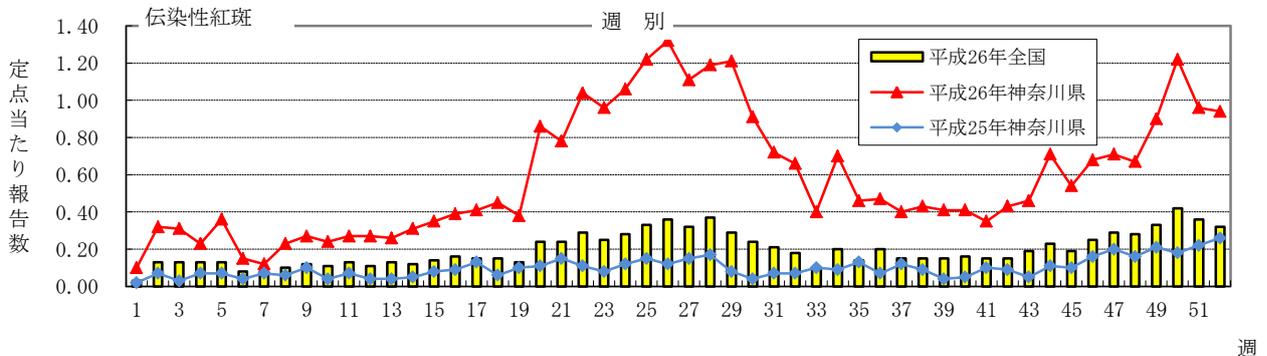
## 手足口病

平成 25 年のような明らかな流行はみられなかった。年齢別では、1 歳を中心に報告が多くみられた。



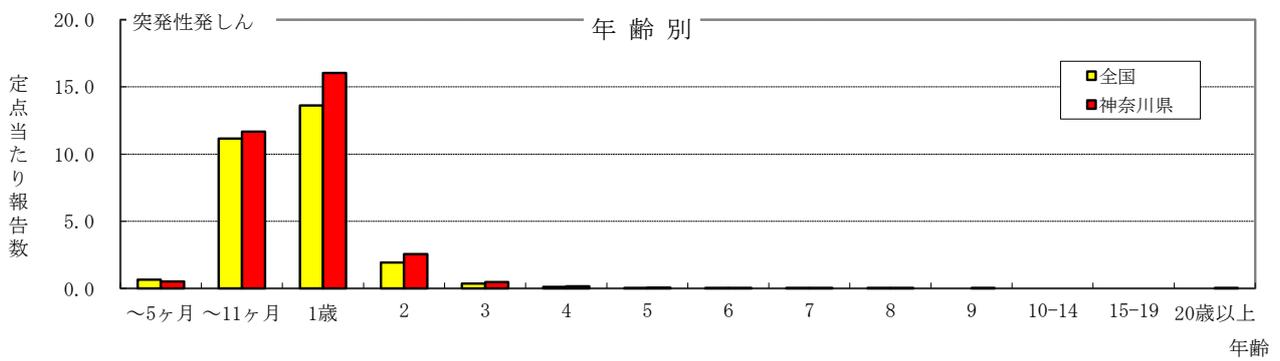
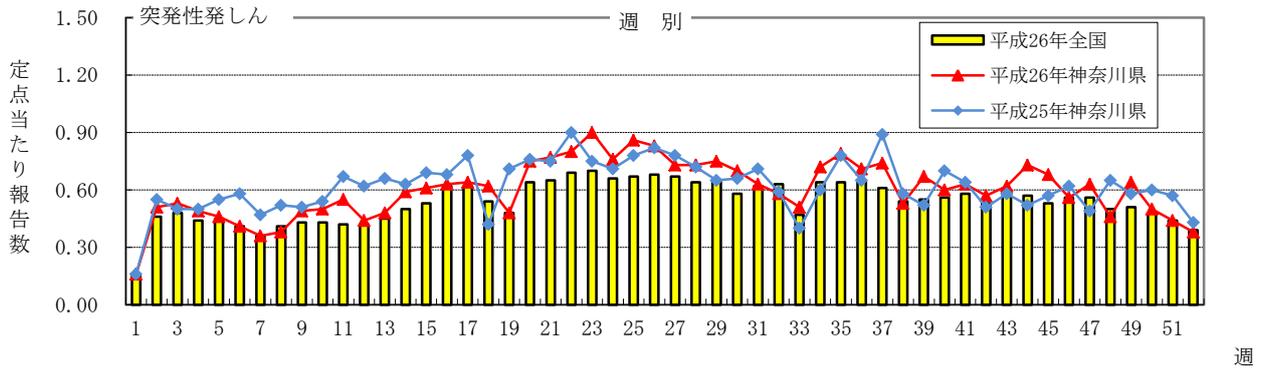
## 伝染性紅斑

年間をとおして報告が多かった。年齢別では、5 歳を中心とした報告がみられた。



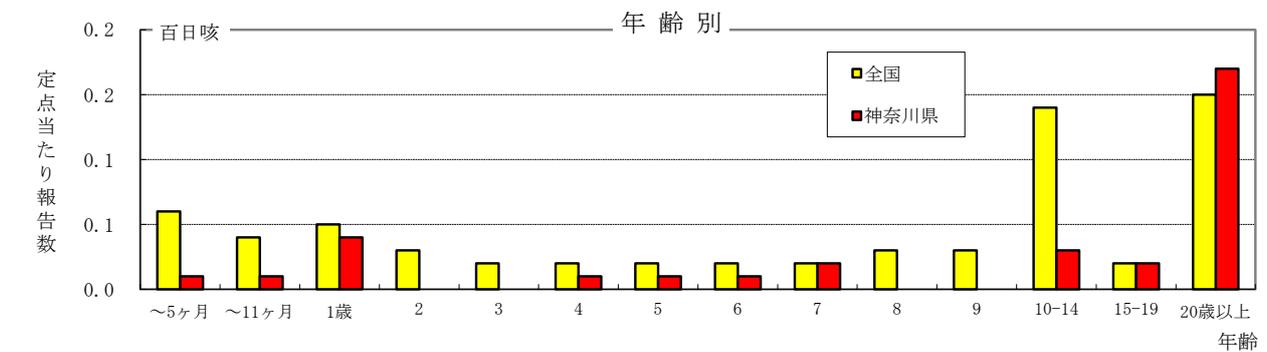
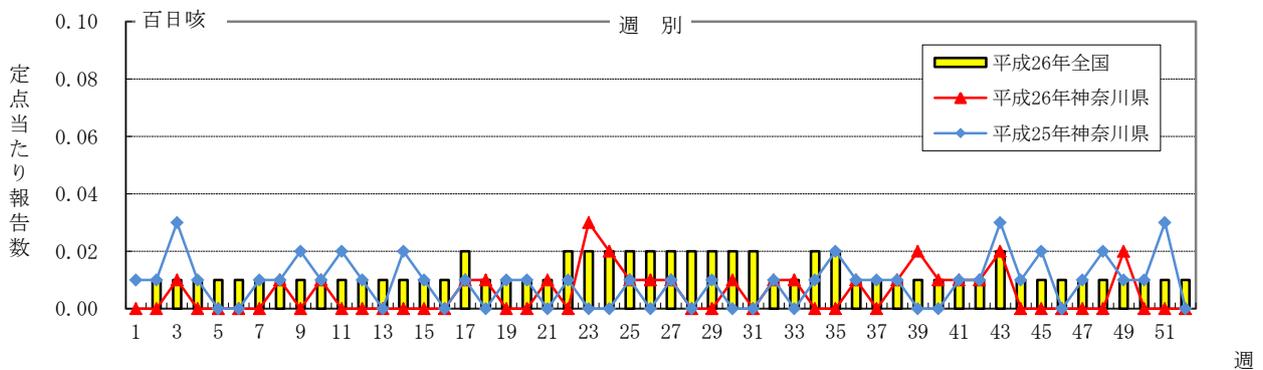
## 突発性発しん

例年と同様に、年間を通して報告がみられた。年齢別では、6ヶ月から1歳に多く報告がみられた。



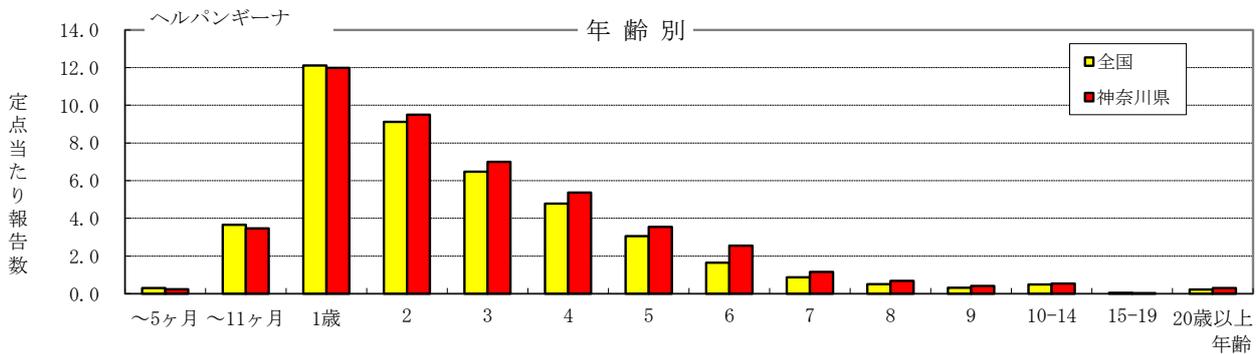
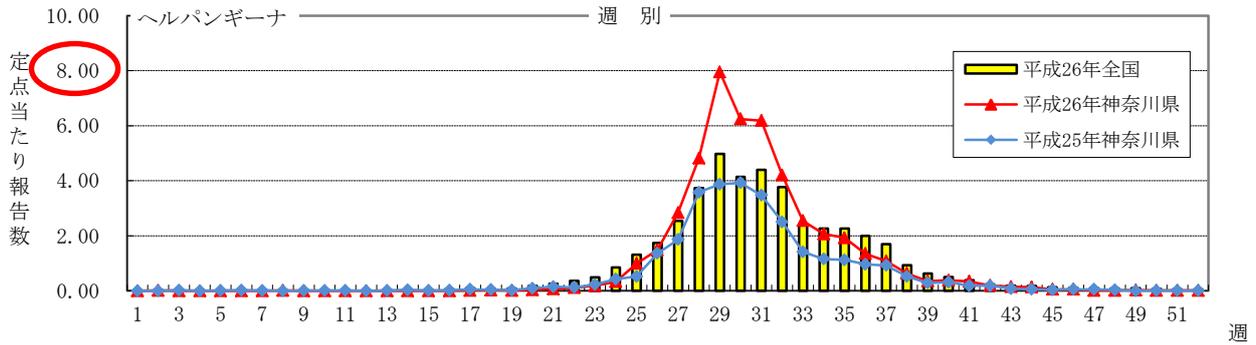
## 百日咳

平成 25 年と同様、報告は少なかった。年齢別では、20 歳以上の報告が多かった。



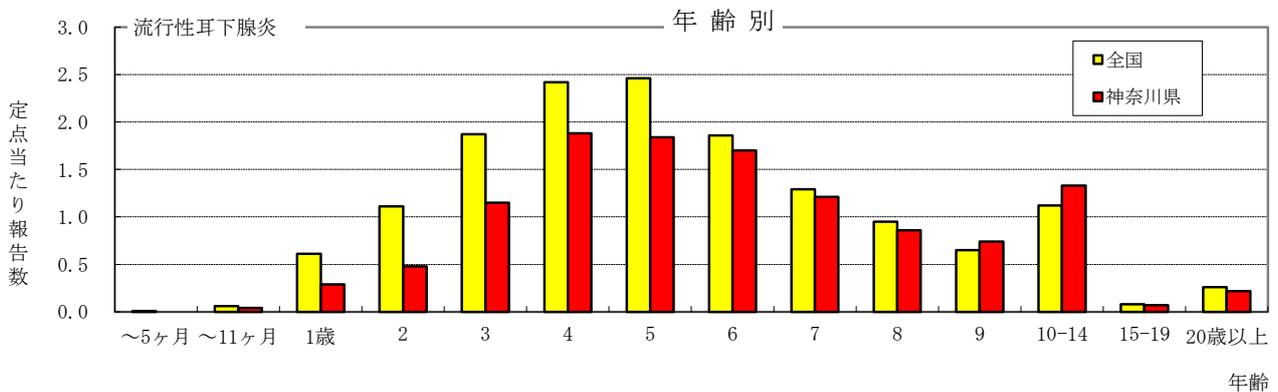
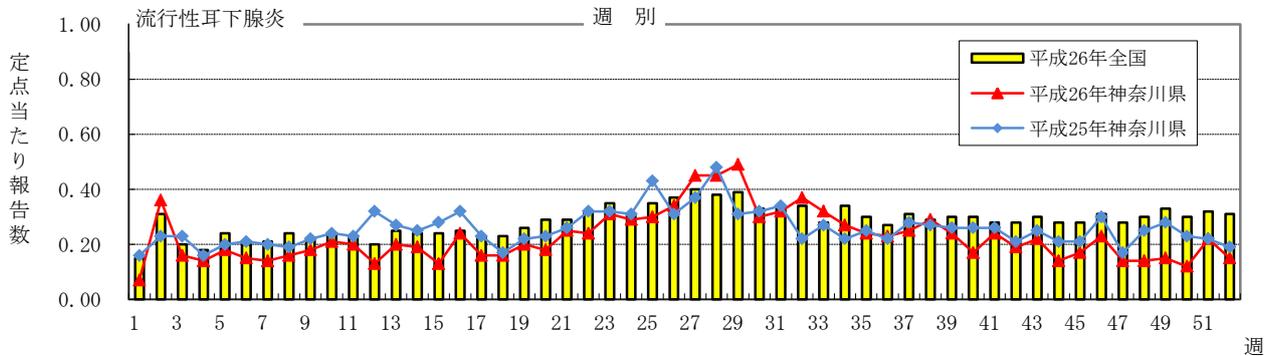
## ヘルパンギーナ

平成25年よりも報告が多く、ピークは第29週であった。年齢別では、1歳を中心に報告がみられた。



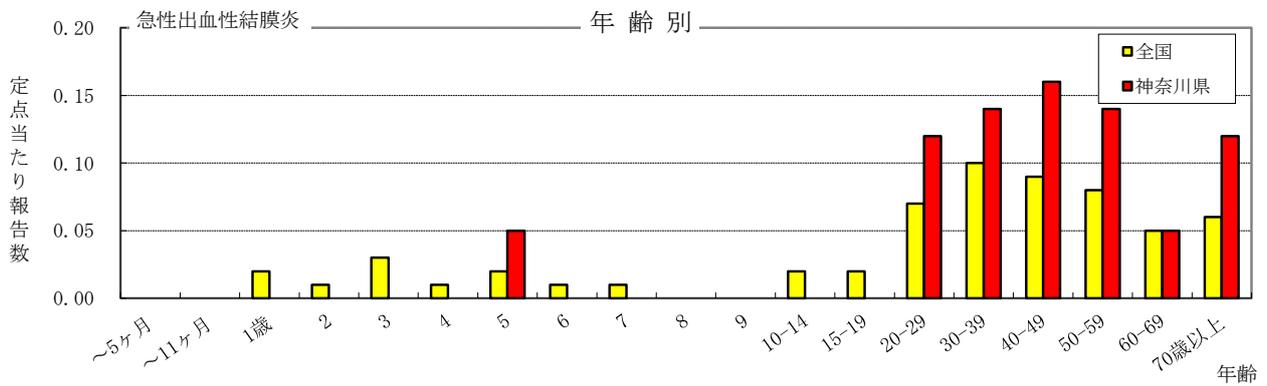
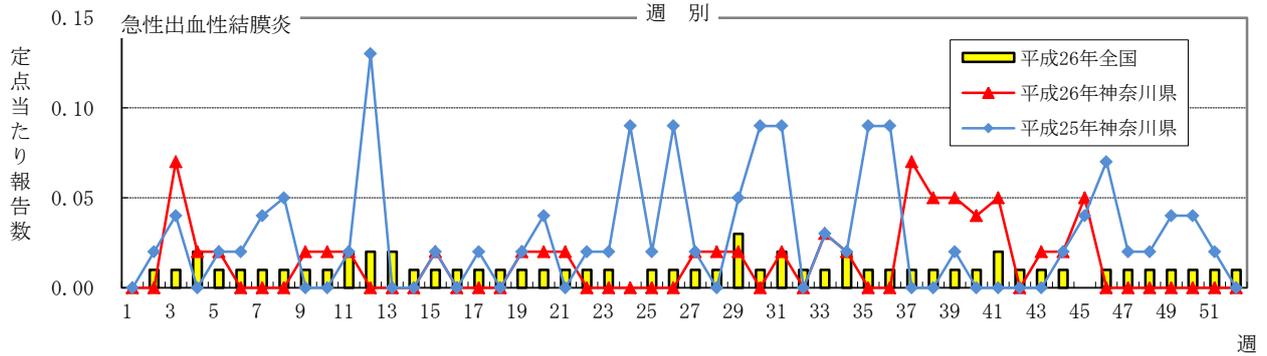
## 流行性耳下腺炎

年間を通して報告がみられた。年齢別では、4歳から6歳を中心に報告がみられた。



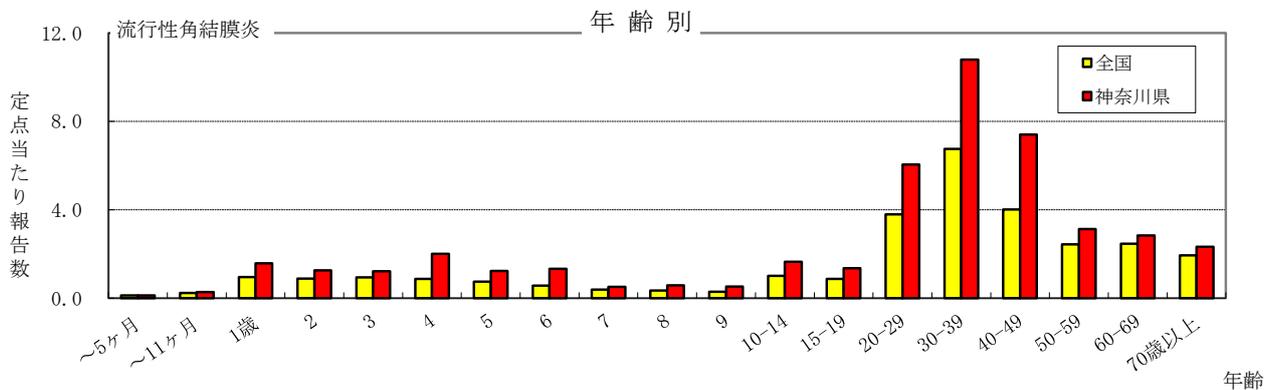
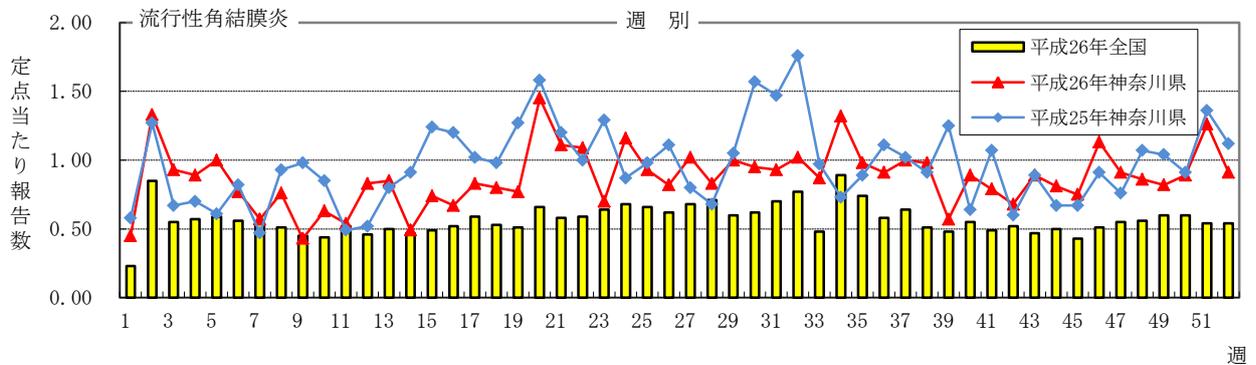
## 急性出血性結膜炎

散発的な報告がみられた。年齢別では、20歳から59歳に報告が多かった。



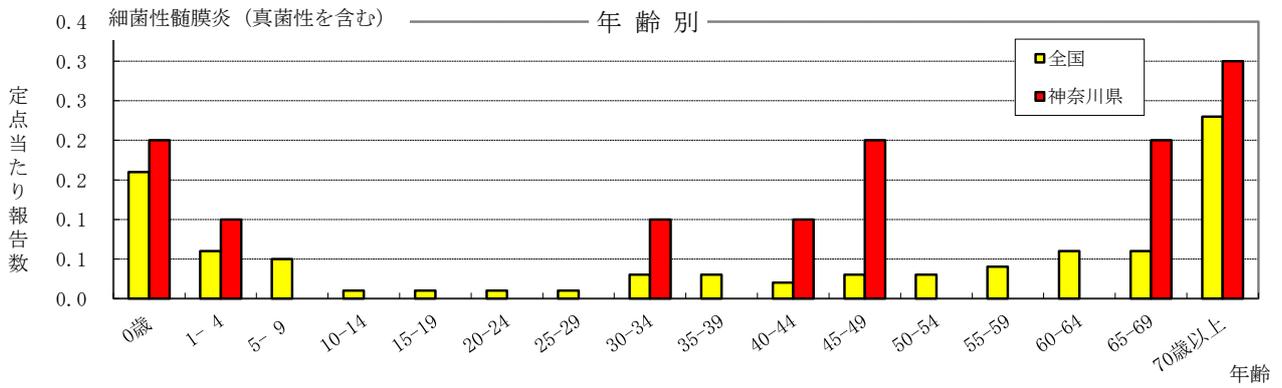
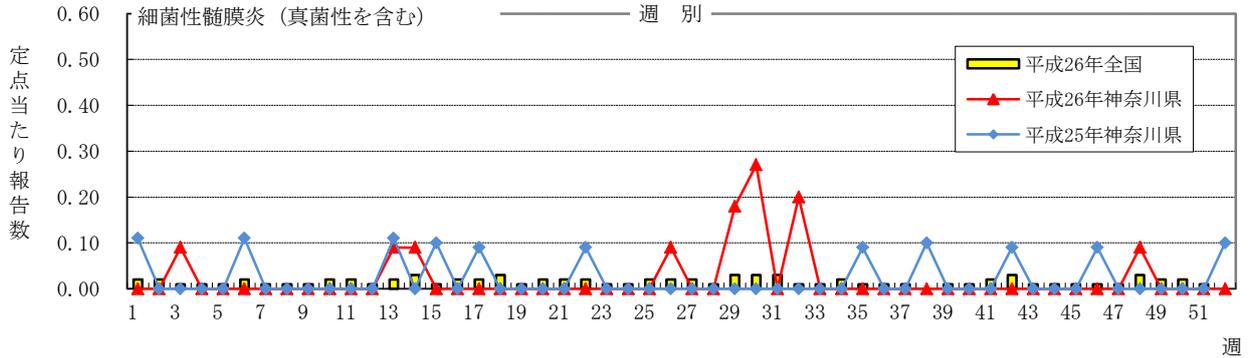
## 流行性角結膜炎

年間を通して報告がみられた。年齢別では、20歳から49歳に報告が多かった。



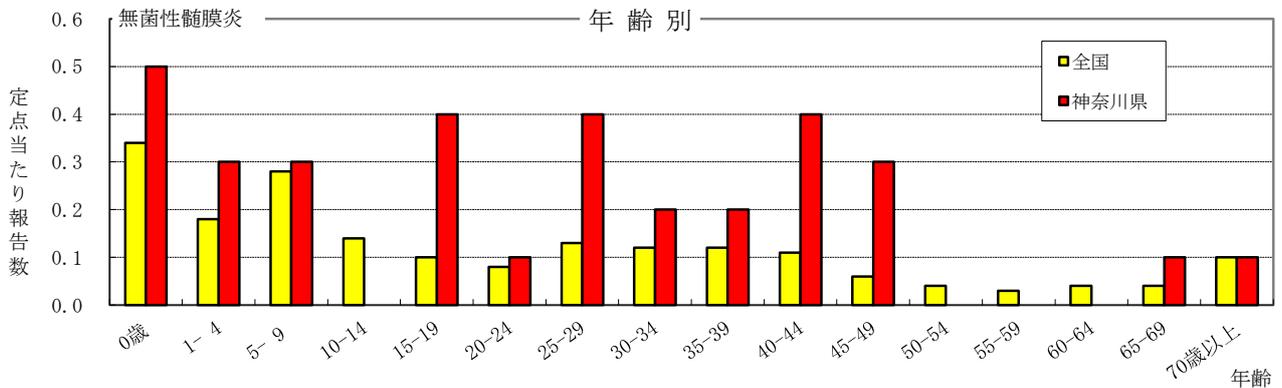
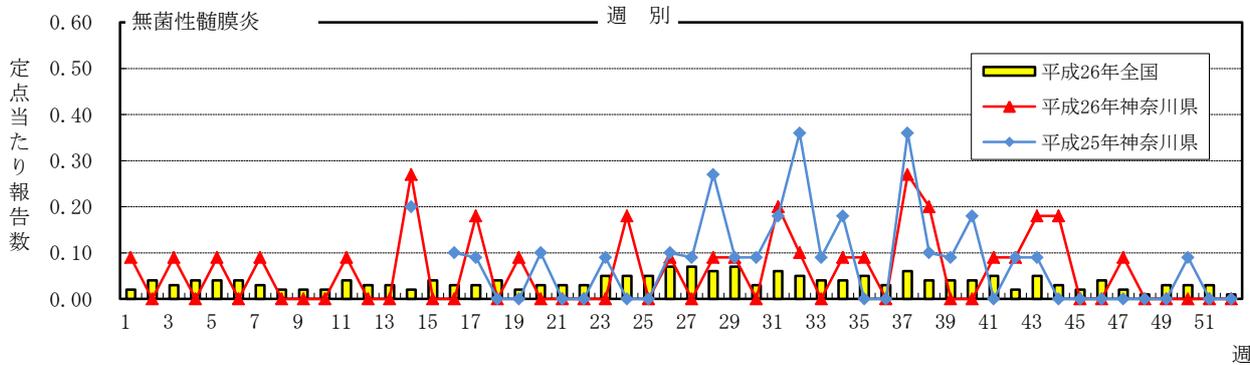
## 細菌性髄膜炎

散発的な報告がみられた。年齢別では、0歳、45歳から49歳、および65歳以上に報告が多かった。



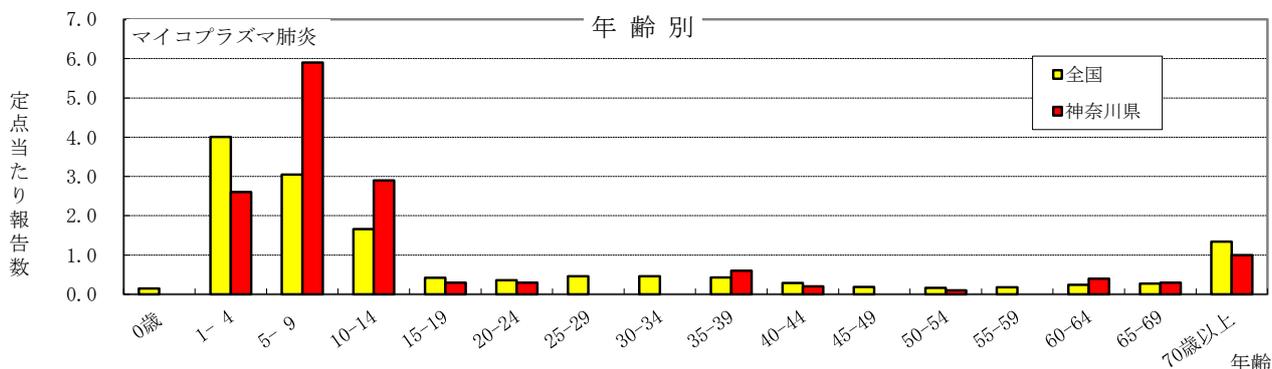
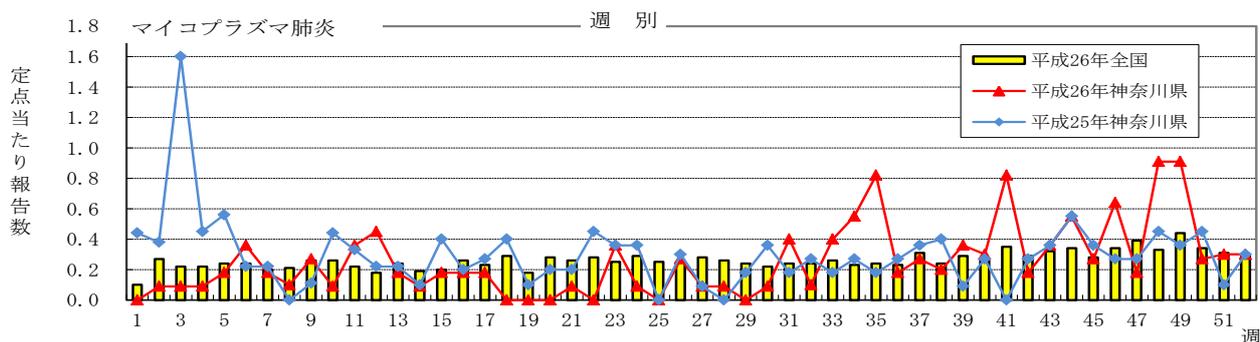
## 無菌性髄膜炎

散発的な報告がみられた。年齢別では、50歳未満に報告がみられた。



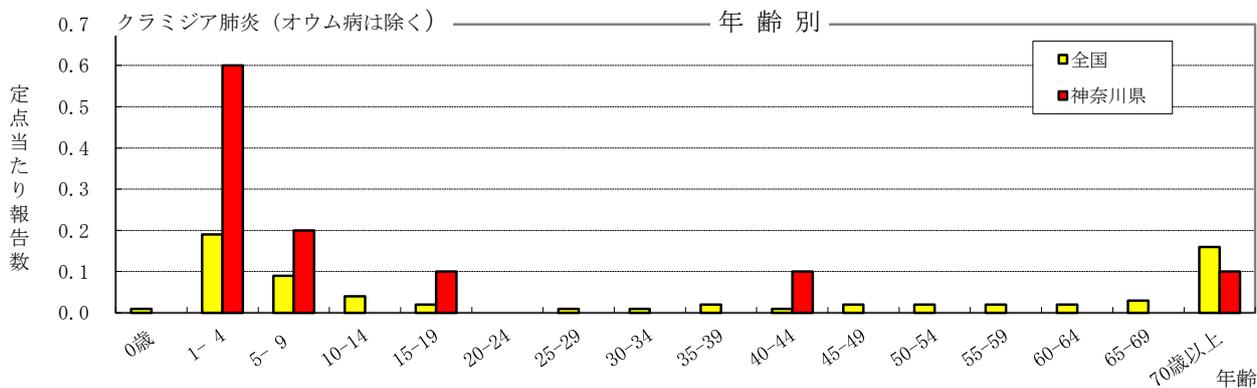
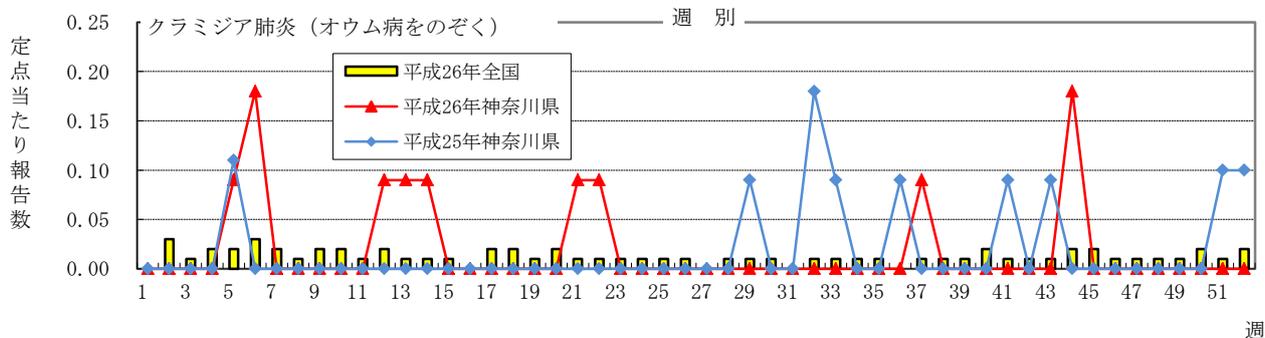
## マイコプラズマ肺炎

平成25年と比較し、報告が少なかった。年齢別では、5歳から9歳を中心とした報告がみられた。



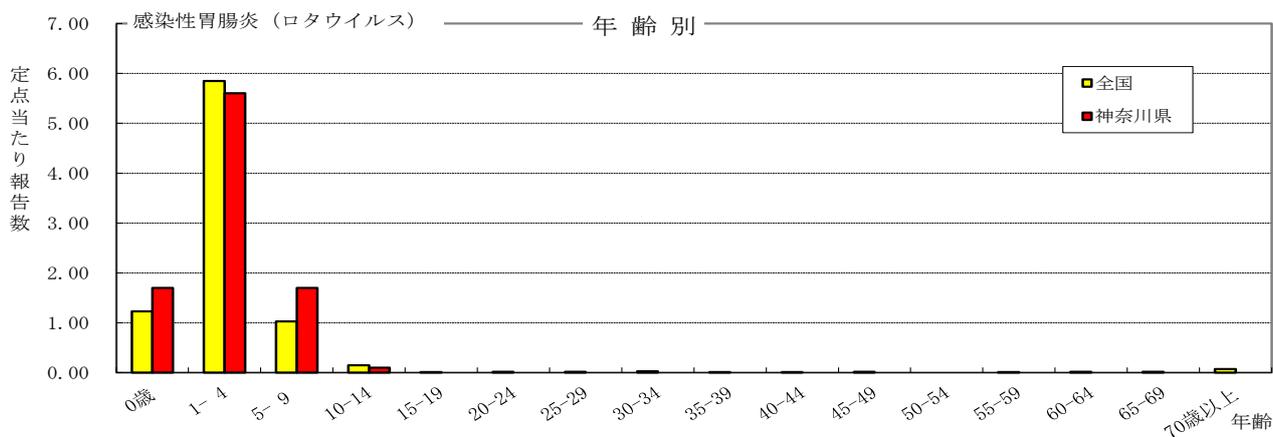
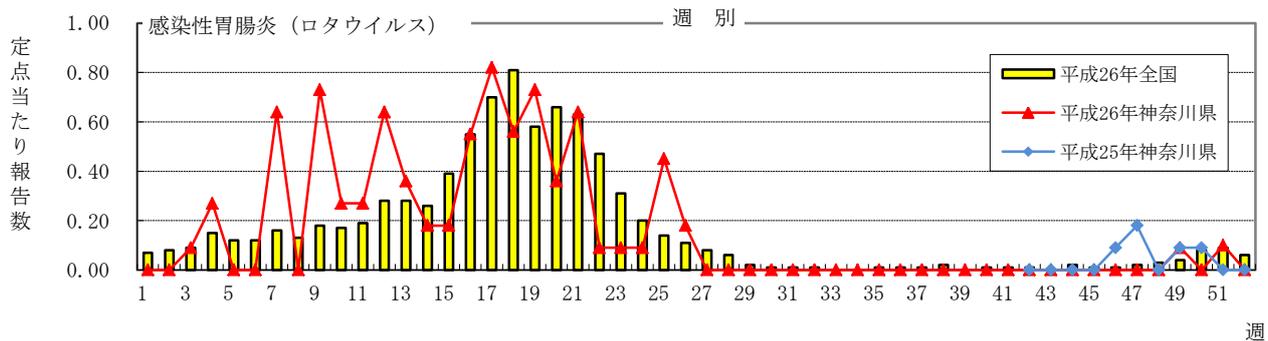
## クラミジア肺炎（オウム病を除く）

散発的な報告がみられた。年齢別では、1歳から4歳に報告が多くみられた。



## 感染性胃腸炎（ロタウイルス）

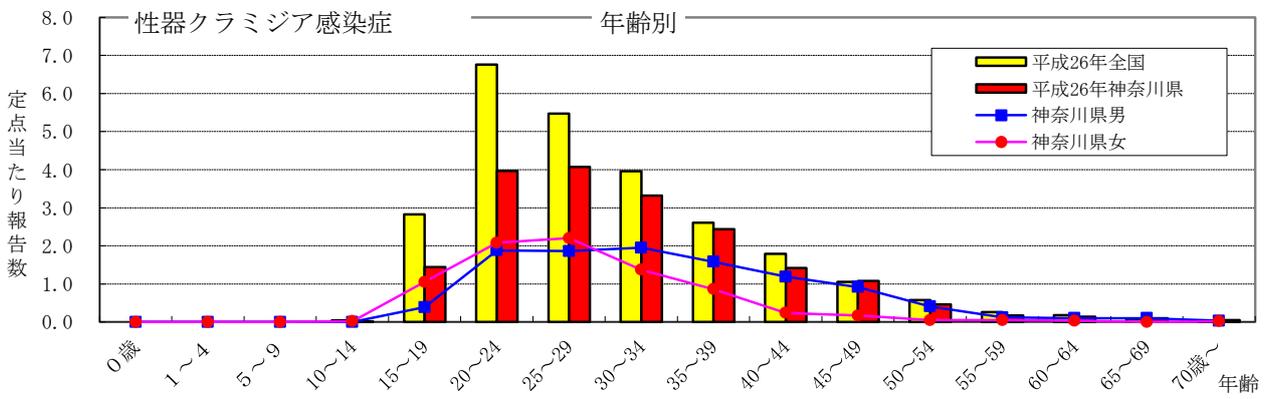
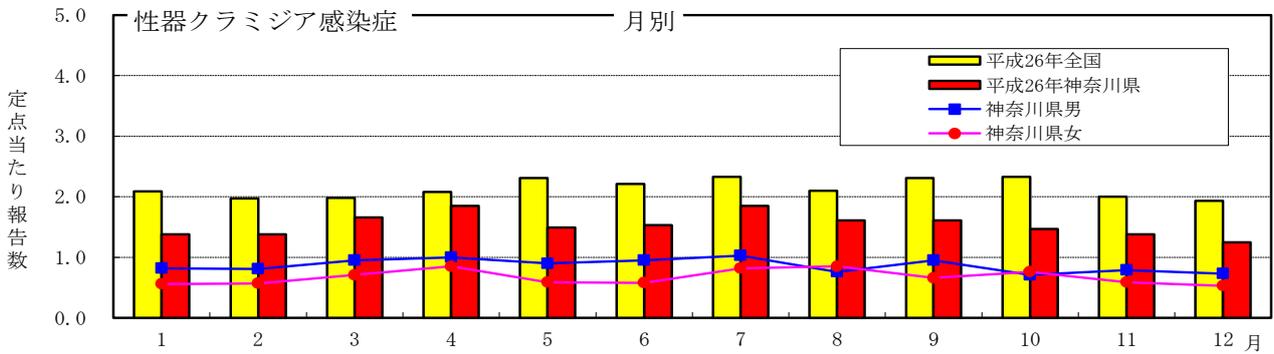
第3週から第26週にかけて散発的な報告がみられた。年齢別では、1歳から4歳の報告が多かった。



### (3) 月報対象疾患（神奈川県全体）

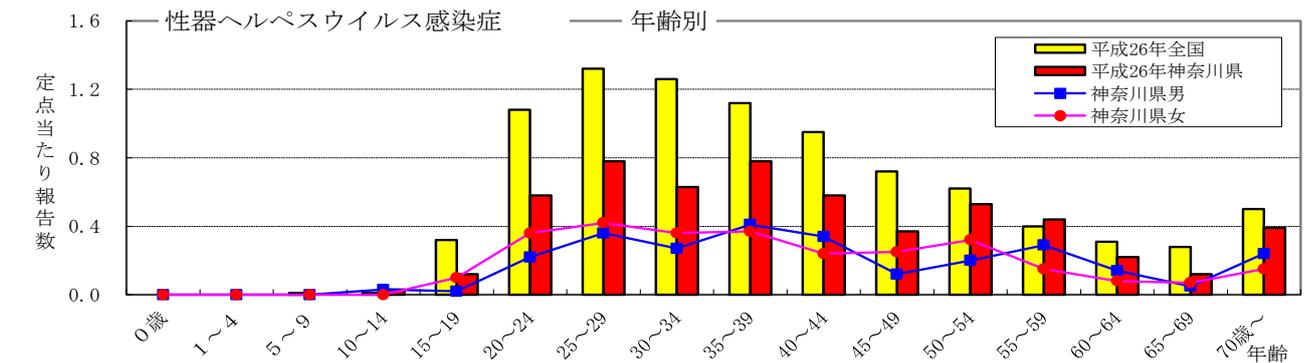
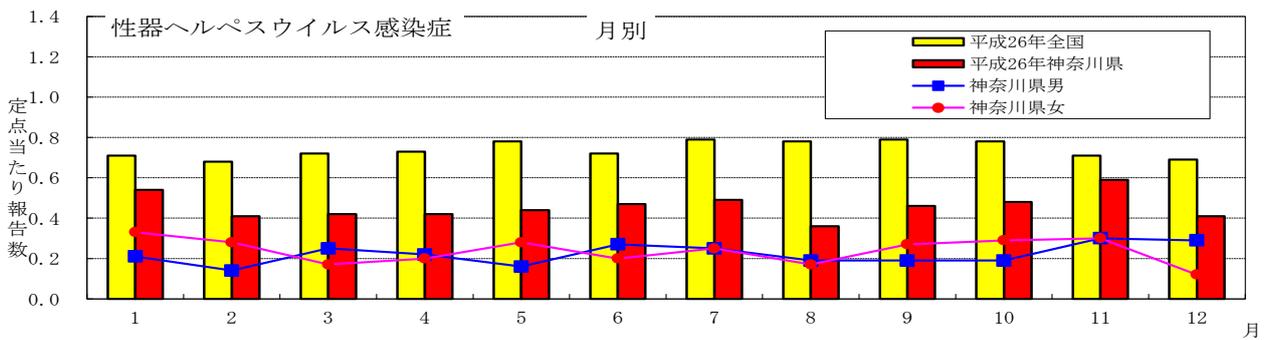
#### 性器クラミジア感染症

男女ともに年間を通して報告がみられた。年齢別では、男性が20歳から39歳、女性が20歳から29歳に報告が多かった。



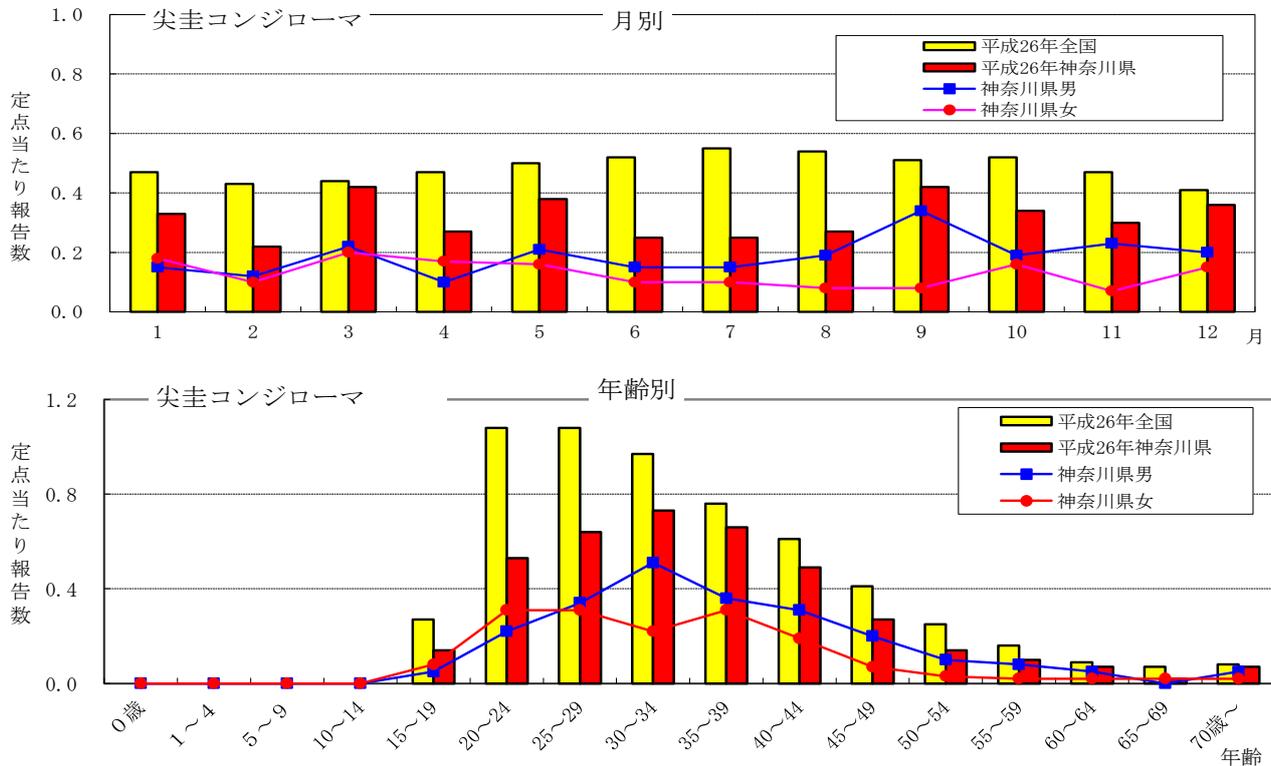
#### 性器ヘルペスウイルス感染症

男女ともに年間を通して報告がみられた。年齢別では、男性が25歳から44歳、女性が20歳から39歳に報告が多かった。



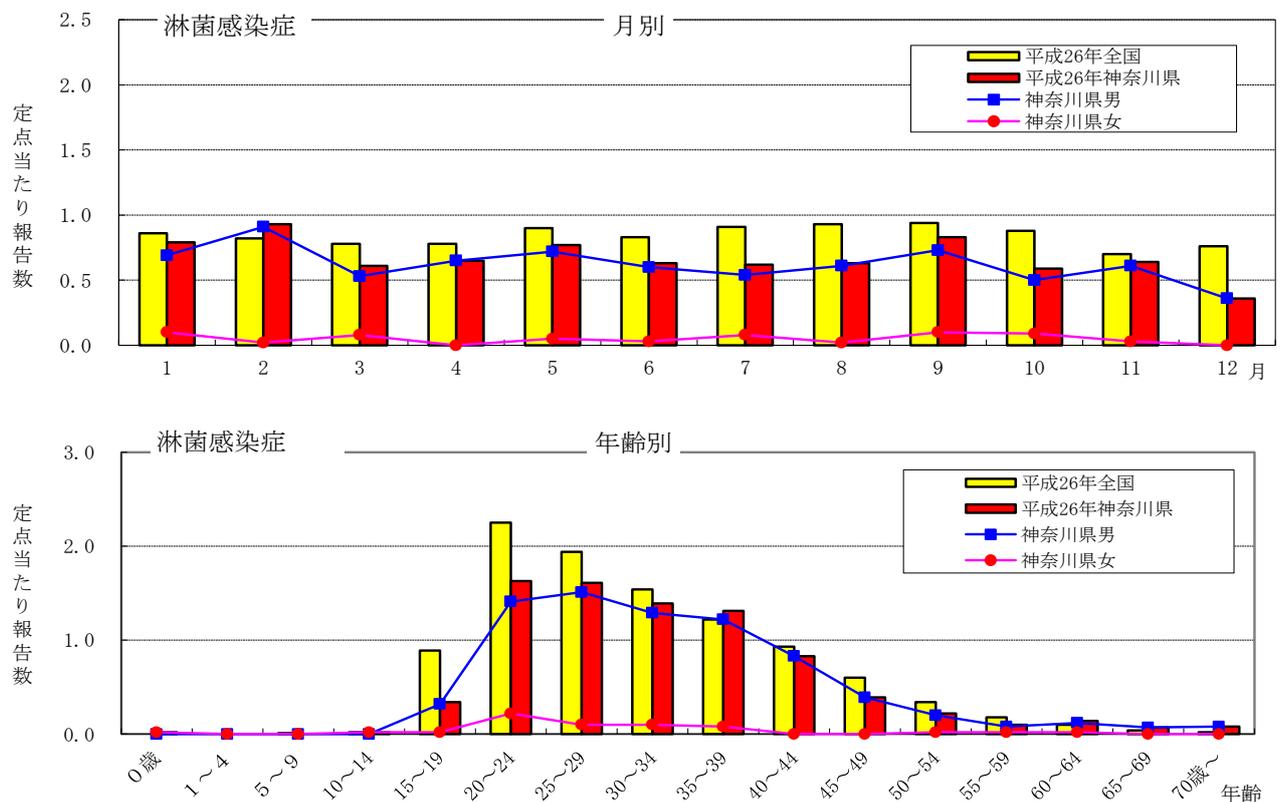
## 尖圭コンジローマ

男女ともに年間を通して報告がみられた。年齢別では、男性が30歳から34歳、女性が20歳から29歳と35歳から39歳に報告が多かった。



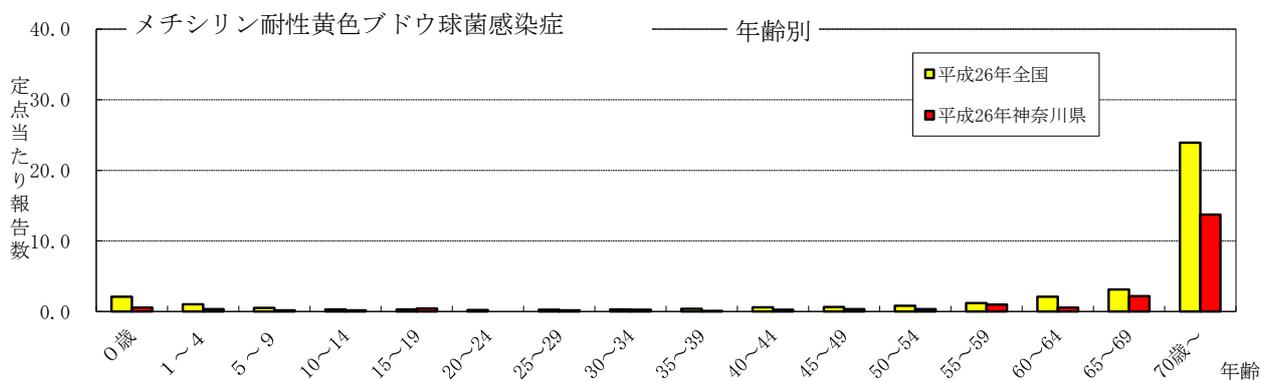
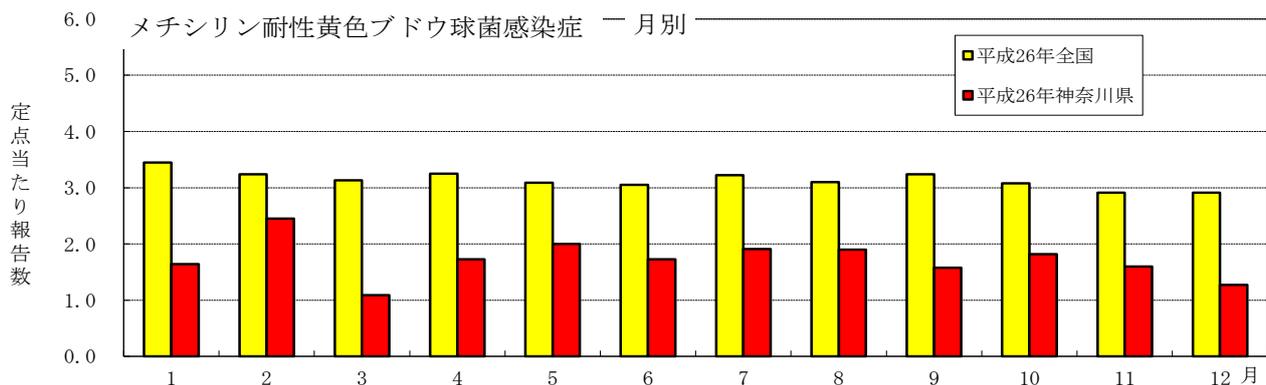
## 淋菌感染症

男性は年間を通して報告がみられたが、女性は年間を通して報告が少なかった。年齢別では、男性が20歳から44歳に報告が多かった。



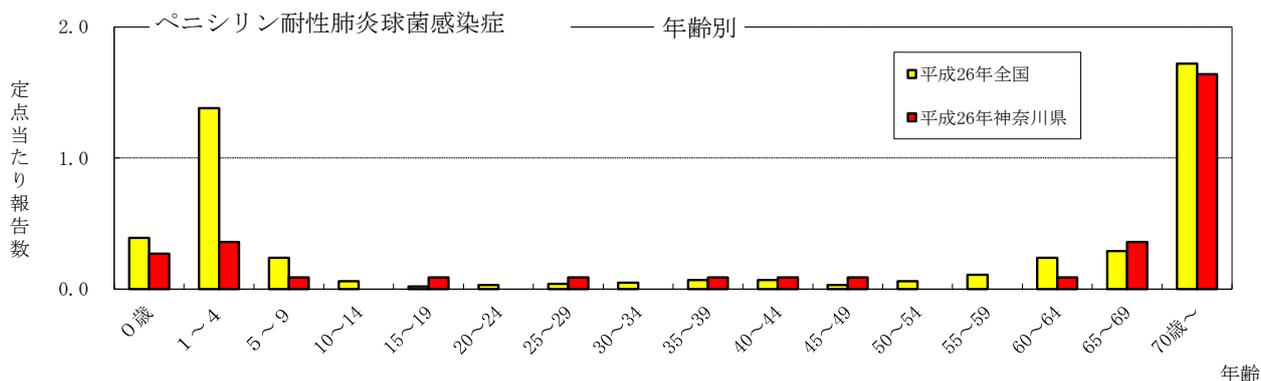
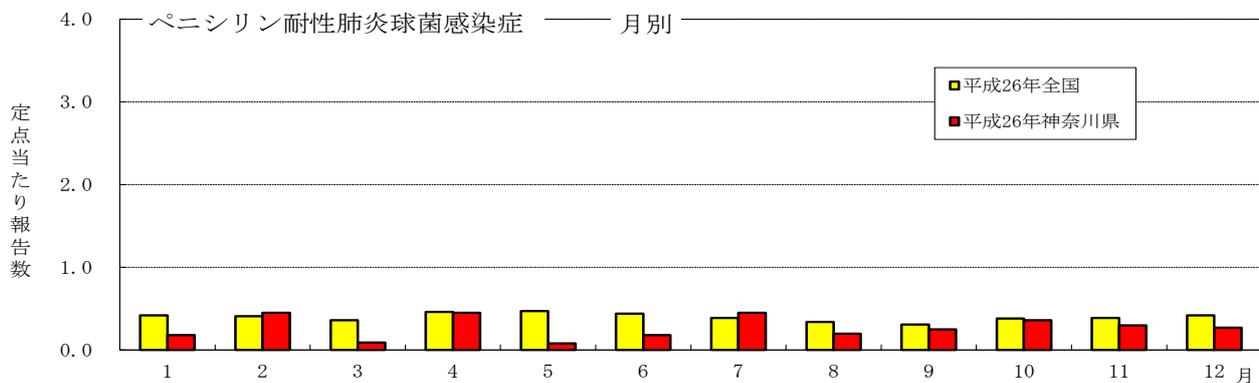
### メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

年間を通して報告がみられた。年齢別では、70歳以上に報告が多かった。



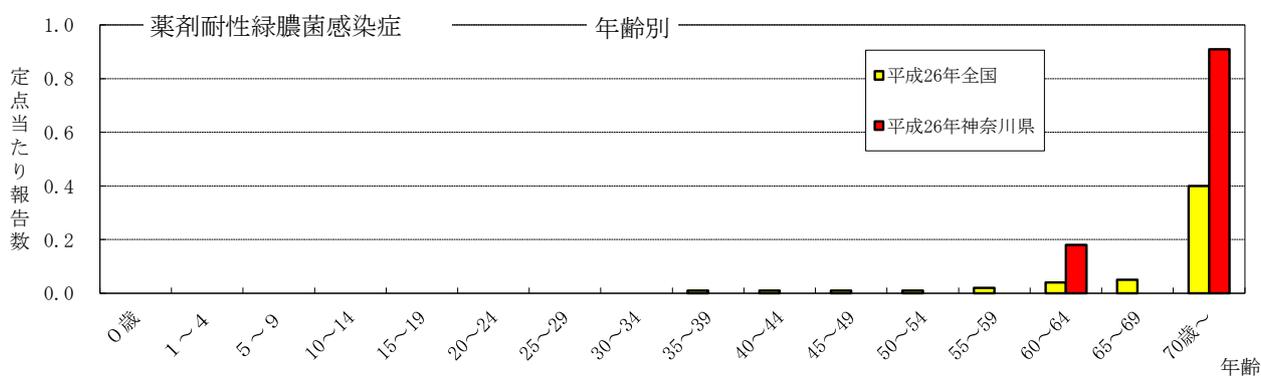
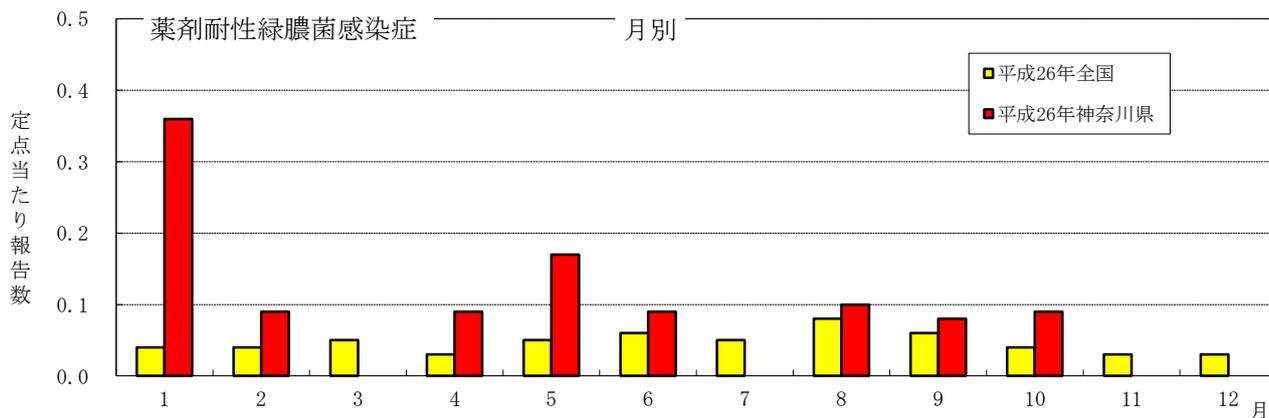
### ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

年間を通して報告がみられた。年齢別では、70歳以上に報告が多かった。



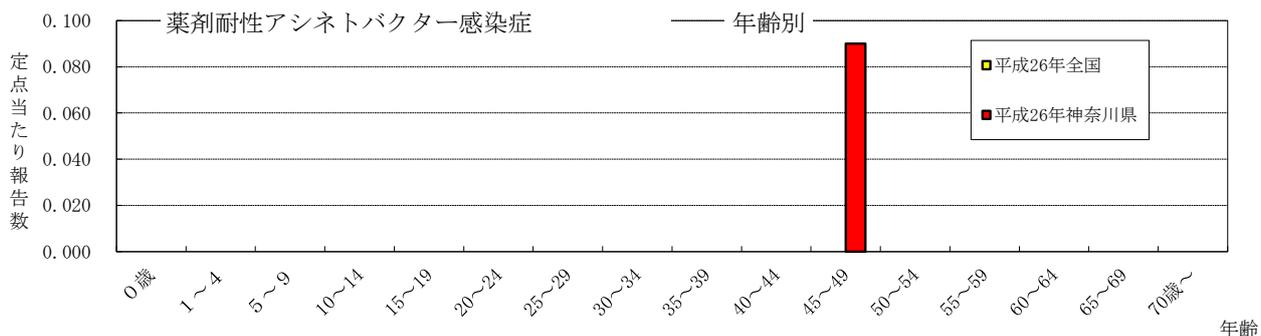
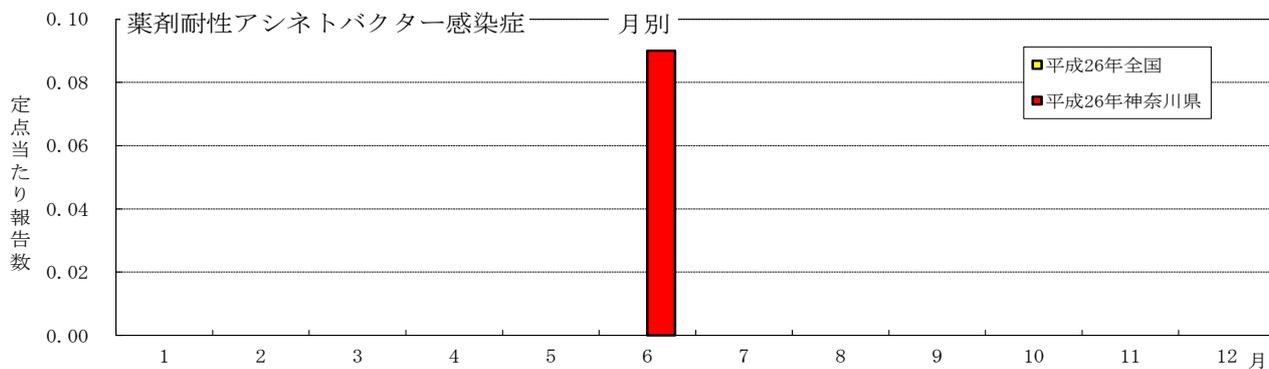
## 薬剤耐性緑膿菌感染症

1月と5月に報告が多かった。年齢別では、70歳以上に報告が多かった。



## 薬剤耐性アシネトバクター感染症（平成26年9月から全数把握対象疾患へ変更となる。）

6月に1件報告がみられた。年齢別では、45歳から49歳における報告であった。



### 3 トピックス

#### < 神奈川県 HIV/エイズの概要 > (速報値)

平成 26 年の神奈川県における新規登録 HIV 感染者・エイズ患者数は、総数で 97 人であった（速報値であるため、6 ページにある後天性免疫不全症候群の報告数と異なる）。平成 25 年と比較し、感染者と患者ともに減少した。（表 1）

表 1 新規登録 HIV 感染者・エイズ患者の性別年次推移（神奈川県）

(人)

		平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	昭和60年からの累計
男性	総数	59	66	84	80	73	69	75	92	115	94	1,466
	感染者	41	44	52	59	51	49	51	60	87	67	965
	患者	18	22	32	21	22	20	24	32	28	27	501
女性	総数	10	12	12	12	8	8	8	8	4	3	255
	感染者	7	9	7	7	6	6	7	6	2	1	193
	患者	3	3	5	5	2	2	1	2	2	2	62
合計	総数	69	78	96	92	81	77	83	100	119	97	1,721
	感染者	48	53	59	66	57	55	58	66	89	68	1,158
	患者	21	25	37	26	24	22	25	34	30	29	563

(平成 26 年 12 月 31 日現在)

平成 26 年の HIV 検査実施件数は、前年比 1.9%増の 9392 件であった。（表 2）

表 2 HIV 検査実施件数年次推移

(件)

	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
県域	1,553	2,258	3,078	3,071	2,939	2,585	2,409	2,208	1,983	1,818
横浜市	3,601	4,432	5,092	5,087	4,754	4,031	4,169	4,057	4,312	4,360
川崎市	1,943	2,083	2,381	2,432	2,207	1,831	1,789	1,753	1,710	1,972
相模原市	477	434	585	559	584	486	491	499	227	522
横須賀市	293	298	440	352	322	340	262	262	538	260
藤沢市		115	192	388	367	383	436	430	447	460
合計	7,867	9,620	11,768	11,889	11,173	9,656	9,556	9,209	9,217	9,392
前年比 (%)	8.9	22.3	22.3	1.0	-6.0	-13.6	-1.0	-3.6	0.1	1.9

\* 自治体を実施する保健所以外の検査を含みます。

(平成 26 年 12 月 31 日現在)

(※表 1・表 2 数値：県健康危機管理課提供)



## < PART II > 平成 26 年地域における感染症発生状況の概要

### I 病原微生物検出状況

#### 1 ウイルス検出概況

平成 22 年～26 年のウイルス検出状況を図 1 に示した。平成 26 年に県内で検出されたウイルスは 2088 件で平成 22 年以降 2 番目に多かった。平成 26 年の月別検出状況は、例年と同様であった。

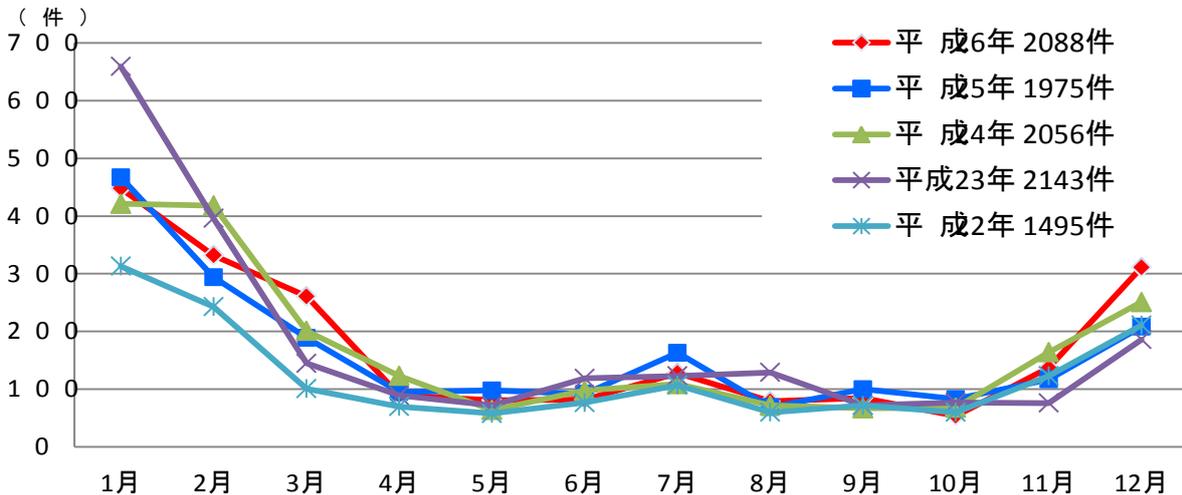


図1 ウイルス月別検出状況年別比較

平成 26 年に検出されたウイルスのうち、検出割合の多い上位 10 種について平成 22 年～26 年の年別検出割合を図 2 示した。平成 26 年に最も多く検出されたウイルスはインフルエンザウイルス B(20.2%)、次いでインフルエンザ AH3 (18.9%) であった。以下、インフルエンザウイルス AH1pdm09 (16.0%)、ノロ (12.6%) で、この 4 種で全体検出割合の約 7 割を占めた。

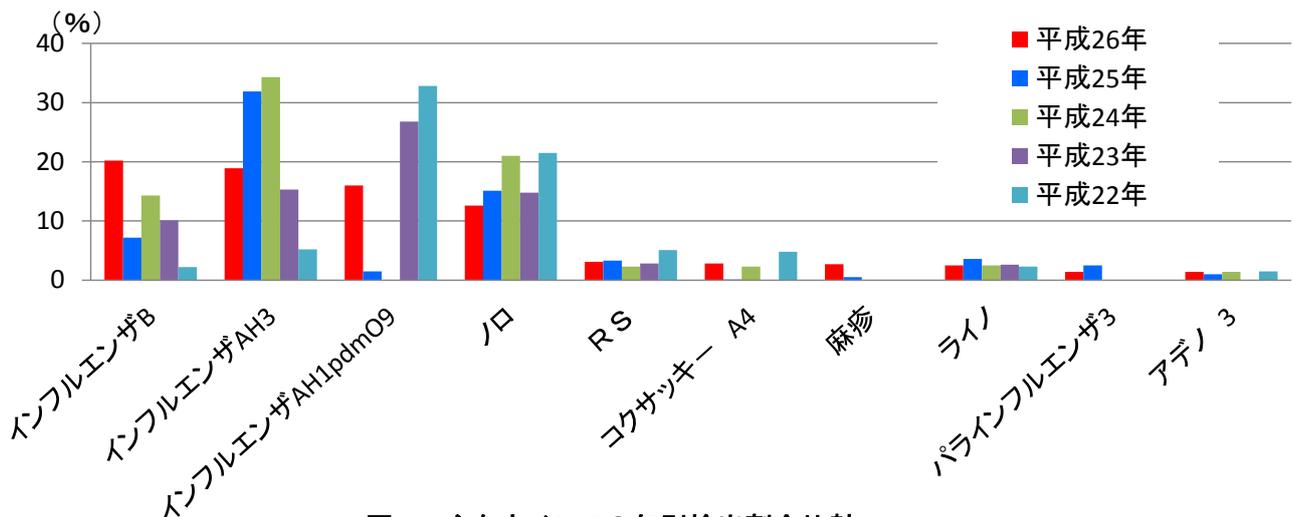


図2 主なウイルスの年別検出割合比較

神奈川県、神奈川県衛生研究所、横浜市衛生研究所、川崎市健康安全研究所、相模原市衛生試験所、横須賀市健康安全科学センター及び藤沢市保健所の各ウイルス検出状況は、ウイルス検出状況表 (p 23～p 33) に記載する。

(伊達佳美)

## 2 病原細菌検出概況

平成 26 年の病原細菌の検出数は 967 件で、過去 5 年間で最も多かった。月別検出状況を見ると、平成 26 年に最も多く検出されたのは 7 月で 142 件、次いで 8 月の 119 件と夏期の検出が多い傾向であった。(図 1)。

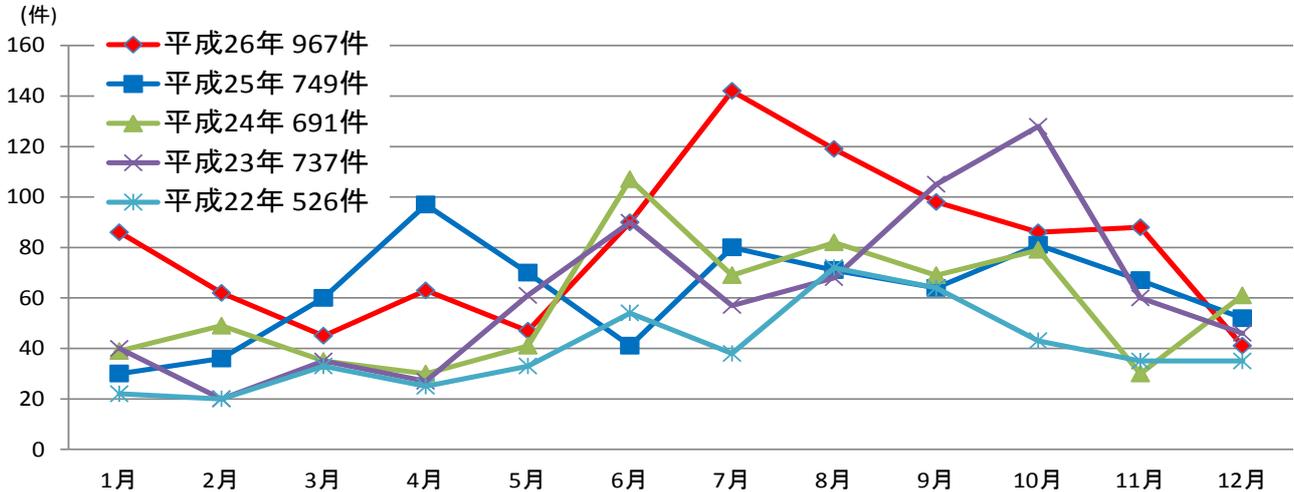


図1 細菌月別検出状況年別比較

平成 26 年に検出された病原細菌のうち、最も多かったのは腸管出血性大腸菌で全体の 27.0%、次いでカンピロバクター ジェジュニ 17.8%、レンサ球菌 A 群 11.8%、肺炎球菌 9.1%でこの 4 種で全体検出割合の約 7 割を占めた。(図 2)。

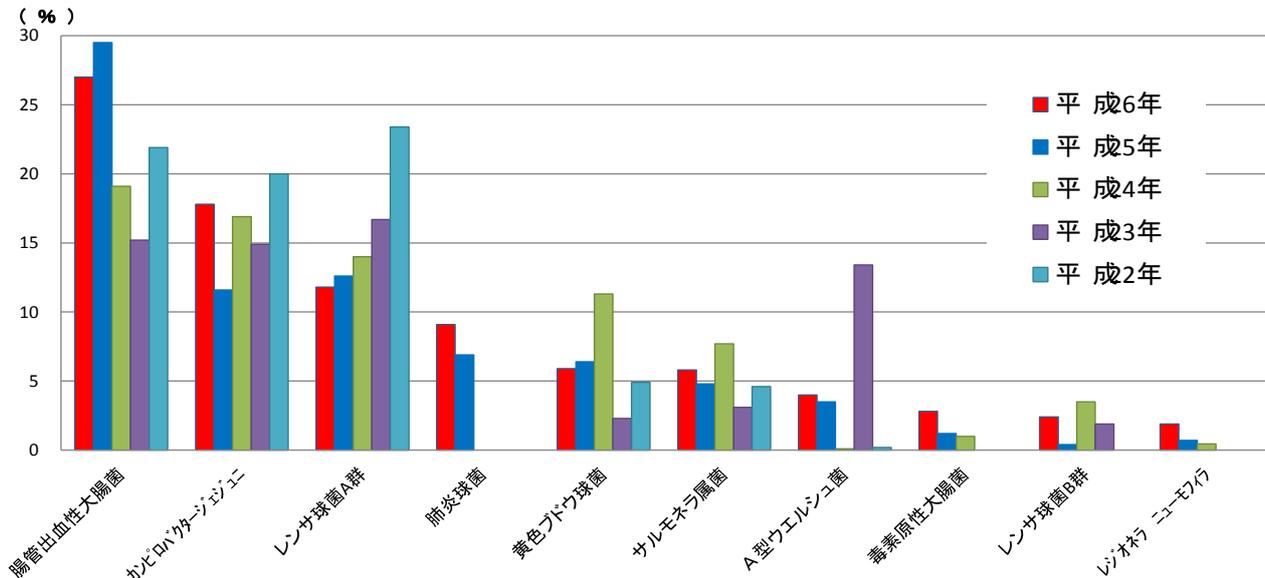


図2 主な病原細菌の年別検出割合比較

神奈川県、神奈川県衛生研究所、横浜市衛生研究所、川崎市健康安全研究所、相模原市衛生試験所、横須賀市健康安全科学センター及び藤沢市保健所の各病原細菌検出状況は、病原細菌検出状況表 (p 34～p 38) に記載する。

(伊達佳美)

### 3 ウイルス等の検出状況表（ヒト由来）

#### 3-1 神奈川県（疾患別）

疾患名 検出ウイルス	全数把握対象疾患					定点把握対象疾患										合計
	鳥インフルエンザ	つつが虫病	デング熱	急性脳炎	麻疹※	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	感染性胃腸炎	手足口病	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	インフルエンザ様	流行性角結膜炎	無菌性髄膜炎	その他	
インフルエンザ AH1pdm09				2							328			4	334	
インフルエンザ AH3	1			3				1			385			4	394	
インフルエンザ B											408			14	422	
パラインフルエンザ 1										1	5			10	16	
パラインフルエンザ 2				1							2			11	14	
パラインフルエンザ 3						3				1	4			21	29	
パラインフルエンザ 4														3	3	
R S						34					3			27	64	
ヒトメタニューモ						1	1				2			13	17	
ヒトコロナウイルス OC43								1			1			8	10	
ヒトコロナウイルス 229E or NL63											1			9	10	
ヒトボカウイルス											2			6	8	
コクサッキー A2											3			2	5	
コクサッキー A4								1	5	44			2	6	58	
コクサッキー A5								2	5	1				4	12	
コクサッキー A6								3	2					1	6	
コクサッキー A8									2						2	
コクサッキー A9				1				1					1	1	4	
コクサッキー A10								1	2	9				4	16	
コクサッキー A16									18						18	
コクサッキー A21														1	1	
コクサッキー B1													1	1	1	
コクサッキー B2														1	1	
コクサッキー B4										1	1				2	
コクサッキー B5													2	1	3	
エコー 6													2		2	
エコー 7														1	1	
エコー 11								2					5	1	8	
エコー 16													1	1	2	
エコー 25														1	1	
エコー 30													1		1	
エンテロ 71									4	1					5	
パレコ 1							1	5		2					8	
パレコ 3							1	1	1				11	8	22	
ライノ						1	1	1	1	2		2	2	43	53	
ムンプス											12		1		13	
麻疹				56											56	
風疹				3											3	
アデノ 1							11				1			5	17	
アデノ 2						1	7	3						12	23	
アデノ 3							24							5	29	
アデノ 4							3								3	
アデノ 5							1	1							2	
アデノ 6							1	9						1	11	
アデノ 19												1			1	
アデノ 37												2			2	
アデノ 40/41								4							4	
アデノ 56												2			2	
アデノ（型未決定）						2	1	6			2	4		16	31	
単純ヘルペス 1											1			4	5	
E B														1	1	
サイトメガロ													2		2	
ヒトヘルペス 6													2	1	3	
ヒトヘルペス 7													2		2	
バルボウイルス B19														9	9	
A型肝炎														2	2	
ロタ								11							11	
ノロ								169						95	264	
サボ								17							17	
アストロ								14							14	
デング				6											6	
オリエンチア ツツカ*ムシ		2													2	
計	1	2	6	7	59	42	51	248	37	70	17	1147	9	35	357	2088

※麻疹を疑う患者検体からの検出

### 3-1 神奈川県 (月別)

年・月	検出ウイルス	平成 24年	平成 25年	平成26年												合計	
				1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
75	インフルエンザ AH1pdm09	1	29	181	108	37	1						6			1	334
2	インフルエンザ AH3	704	630	49	21	17	1	6	2	1	1	7	9	42	238	394	
3	インフルエンザ B	296	142	123	155	117	24	1				1			1	422	
4	パラインフルエンザ 1	17	20	1	1	6	1			1	1	3	1		1	16	
5	パラインフルエンザ 2	8	8		2	1	1			1	1	6	2			14	
6	パラインフルエンザ 3	14	49		1	3			7	9	6	2		1		29	
	パラインフルエンザ 4											1	1	1		3	
7	R S	47	65	4		2	1	3		1	14	10	7	13	9	64	
7-2	ヒトメタニューモ	8	35			2	7	2	3	2	1					17	
	ヒトコロナ OC43					3			1						1	5	
	ヒトコロナ 229E or NL63			1	2	5	2									10	
	ヒトボカ				1		5	1	1							8	
12	コクサッキー A2	10	13						1	2	1	1				5	
13	コクサッキー A4	48	1						4	39	11	4				58	
14	コクサッキー A5	31	3						2	7	1	2				12	
15	コクサッキー A6	18	135							4		1	1			6	
16	コクサッキー A8	3	2										1	1		2	
17	コクサッキー A9	13	2							1	2		1			4	
18	コクサッキー A10		2		1				1	2	4	2	4	2		16	
19	コクサッキー A12		1													1	
21	コクサッキー A16	26	18						1	3	3	7	1	1	2	18	
	コクサッキー A21												1			1	
23	コクサッキー B1	1	12	1						1						2	
24	コクサッキー B2	1	2					1								1	
25	コクサッキー B3		12													12	
26	コクサッキー B4	2	5										2			2	
27	コクサッキー B5		5										1		2	3	
31	エコー 6	21	5										1	1		2	
32	エコー 7	7	5										1			1	
33	エコー 9	2	1													1	
34	エコー 11		2							1	2	1	1	3		8	
	エコー 16					1							1			2	
37	エコー 18		5													5	
40	エコー 25		6											1		1	
41	エコー 30												1			1	
	エンテロ 68		2													2	
42	エンテロ 71	16	34				1		2	1		1				5	
	エンテロ (型未決定)	4														4	
43	バレコ 1		1							4	2	2				8	
44	バレコ 3		1						2	8	9	1	2			22	
45	ライノ	52	72	1		1	11	8	7	7	2	7	2	5	2	53	
46	ムンプス	4	9			1	1	4	2	2	2	1				13	
47	麻疹		13	4	3	4	6	7	6	19	5			2		56	
	風疹	36	79		2	1										3	
50	アデノ 1	7	15			1	3	3	4	3					3	17	
51	アデノ 2	35	35	1	1	1	2	3	4	1	1	1	3	4	1	23	
52	アデノ 3	29	19			3		2	4	3	2	3	1	1	10	29	
53	アデノ 4	20	25	1					1			1				3	
54	アデノ 5	3	5	1				1								2	
55	アデノ 6	1	1	1	3	2	1	2	2							11	
57	アデノ 8	1														1	
59	アデノ 19		1								1					1	
	アデノ 31	1	1													1	
	アデノ 33	1														1	
60	アデノ 37	1	1							1						1	
61	アデノ 40/41	5	4					1	1		1		1			4	
	アデノ 53	2														2	
	アデノ 56	4	3									1		1		2	
62	アデノ (型未決定)	21	37	1	1	4	3	4	2	1	2	7	2	1	3	31	
63	単純ヘルペス 1	8	5	1	1				1					1	1	5	
	単純ヘルペス 2		1													1	
	水痘・帯状疱疹	1														1	
	E B								1							1	
64	サイトメガロ		4				1					1				2	
65	ヒトヘルペス 6	4	4			1	1						1			3	
	ヒトヘルペス 7	1	3			1	1	1								2	
	バルボウイルス B19						1	1	3	1			2	1		9	
	A型肝炎					2										2	
66	ロタ	51	31		1	5	1	2		1	1					11	
68	ノロ	432	298	77	24	39	11	24	10		3	2		48	37	275	
69	サボ	23	43		1	1		1	3	1			1	2	7	17	
70	アストロ	4	2		3	1	2	3	4				1			14	
71	デング	5	4				1					1	3		1	6	
73	ウレチア ツツガムシ	5	7												2	2	
	計	2056	1975	448	332	261	90	81	82	128	79	85	54	137	322	2099	

3-2 神奈川県衛生研究所（疾患別）

疾患名 検出ウイルス	鳥インフルエンザ	つつが虫病	デング熱	麻疹※	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	感染性胃腸炎	手足口病	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	インフルエンザ様	無菌性髄膜炎	その他	合計
インフルエンザ AH1pdm09											155			155
インフルエンザ AH3	1										179			180
インフルエンザ B											181			181
R S					8									8
コクサッキー A2									1					1
コクサッキー A4								5	29			2	1	37
コクサッキー A5									3					3
コクサッキー A6								2	1					3
コクサッキー A8									1					1
コクサッキー A10								1	6					7
コクサッキー A16								9						9
コクサッキー B4									1	1				2
エコー 16												1		1
エコー 30												1		1
エンテロ 71										1				1
パレコ 1						1								1
パレコ 3						1		1				11	1	14
ライノ						1			1			2		4
ムンプス										11				11
麻疹				40										40
風疹				1										1
アデノ 1						11							1	12
アデノ 2						7								7
アデノ 3						21								21
アデノ 4						2								2
アデノ 5						1								1
アデノ 6						1								1
アデノ（型未決定）							5							5
EB													1	1
サイトメガロ												1		1
A型肝炎													2	2
ロタ							2							2
ノロ							74							74
サポ							11							11
アストロ							14							14
デング			3											3
オリエンチア ツツガムシ		2												2
計	1	2	3	41	8	46	106	18	43	13	515	18	6	820

※麻疹を疑う患者検体からの検出

### 3-2 神奈川県衛生研究所（月別）

年・月 検出ウイルス	平成 24年	平成 25年	平成26年												合計	
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
インフルエンザ AH1pdm09		11	77	57	17							4				155
インフルエンザ AH3	343	291	22	6	7			5	1	1	1	5	3	21	108	180
インフルエンザ B	119	71	66	64	44	7										181
パラインフルエンザ 3	1	1														
R S	4	7											3	2	3	8
ポリオ 1	1															
コクサッキー A2	5	1							1							1
コクサッキー A4	34	1							1	28	5	3				37
コクサッキー A5	20	3								1	1	1				3
コクサッキー A6	12	82								3						3
コクサッキー A8														1		1
コクサッキー A9	4	1														
コクサッキー A10		1		1								2	2	2		7
コクサッキー A12		1														
コクサッキー A16	22	16										5	1	1	2	9
コクサッキー B1		2														
コクサッキー B2	1															
コクサッキー B3		4														
コクサッキー B4	1	4											2			2
コクサッキー B5		2														
エコー 6	7															
エコー 7	1	4														
エコー 9	1															
エコー 16												1				1
エコー 18		1														
エコー 30												1				1
エンテロ 71	5	27				1										1
パレコ 1										1						1
パレコ 3									1	5	6	1	1			14
ライノ	9	12								3					1	4
ムンプス	3	7			1	1	2	2	2	2	1					11
麻疹		4	1	1	2		5	5	19	5				2		40
風疹	12	32		1												1
アデノ 1	3	4			1	2	3	2	2						2	12
アデノ 2	13	13	1			1	1	3						1		7
アデノ 3	14	8			2		1	2	3	2	1	1	1	1	8	21
アデノ 4		8	1					1								2
アデノ 5	2	4					1									1
アデノ 6								1								1
アデノ (型未決定)	6	2					2	1			1				1	5
単純ヘルペス 1	2	3														
E B								1								1
サイトメガロ		1										1				1
A型肝炎					2											2
ロ タ	33	12			1					1						2
ノ ロ	104	79	15	11	14	5	15	4						3	7	74
サ ボ	16	32					1	2	1					2	5	11
アストロ	4	2		3	1	2	3	4				1				14
デング	2	1										2			1	3
ポリオア ツツガムシ	5	7												2		2
計	797	730	183	144	92	19	39	32	70	22	29	14	38	138		820

### 3-3 横浜市衛生研究所（疾患別）

疾患名 検出ウイルス	急性 脳炎	R S ウイルス 感染症	咽 頭 結 膜 熱	感 染 性 胃 腸 炎	手 足 口 病	ヘル パ ン ギ ー ナ	流 行 性 耳 下 腺 炎	イン フル エン ザ 様	流 行 性 角 結 膜 炎	無 菌 性 髄 膜 炎	そ の 他	合 計
インフルエンザ AH1pdm09	2							55			4	61
インフルエンザ AH3	3				1			58			4	66
インフルエンザ B								100			14	114
パラインフルエンザ 1							1	5			10	16
パラインフルエンザ 2	1							2			11	14
パラインフルエンザ 3		3					1	4			21	29
パラインフルエンザ 4											3	3
R S		26						3			27	56
ヒトメタニューモ		1		1				2			13	17
ヒトコロナ OC43				1				1			8	10
ヒトコロナ 229E or NL63								1			9	10
ヒトボカ								2			6	8
コクサッキー A2						2					2	4
コクサッキー A4				1		9					5	15
コクサッキー A5					1	2	1				4	8
コクサッキー A6						1					1	2
コクサッキー A9	1			1						1	1	4
コクサッキー A10					1	3					4	8
コクサッキー A16					8							8
コクサッキー A21											1	1
コクサッキー B2											1	1
コクサッキー B5										1	1	2
エコー 7											1	1
エコー 11				2						3	1	6
エコー 16											1	1
エコー 25											1	1
エンテロ 71					1							1
パレコ 1				5		2						7
パレコ 3				1							7	8
ライノ		1		1	1	1		2			43	49
ムンプス										1		1
アデノ 1								1			4	5
アデノ 2		1									12	13
アデノ 3			1								5	6
アデノ 6											1	1
アデノ（型未決定）		2	1	1				2	2		16	24
単純ヘルペス 1								1			4	5
ヒトヘルペス 6											1	1
パルボウイルス B19											9	9
ロタ				3								3
ノロ				9							1	10
サボ				2								2
計	7	34	2	28	13	20	3	239	2	6	257	611

### 3-3 横浜市衛生研究所（月別）

年・月 検出ウイルス	平成 24年	平成 25年	平成26年												合計	
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
インフルエンザ AH1pdm09	1	5	30	20	10							1			61	
インフルエンザ AH3	107	115	7	2	3	1						1	6	46	66	
インフルエンザ B	79	35	22	37	41	13	1								114	
パラインフルエンザ 1	17	20	1	1	6	1				1	1	3	1	1	16	
パラインフルエンザ 2	8	8		2	1	1					1	1	6	2	14	
パラインフルエンザ 3	13	48		1	3				7	9	6	2		1	29	
パラインフルエンザ 4												1	1	1	3	
R S	43	58	4		2	1	3			1	14	10	4	11	6	56
ヒトメタニューモ	8	35			2	7	2	3	2	1						17
ヒトコロナ OC43					3				1					1	5	10
ヒトコロナ 229E or NL63			1	2	5	2										10
ヒトボカ				1		5	1	1								8
コクサッキー A2	5	12								2	1	1				4
コクサッキー A4	14								2	9	3	1				15
コクサッキー A5	10								2	5		1				8
コクサッキー A6	6	44										1	1			2
コクサッキー A8	3	2														
コクサッキー A9	8									1	2		1			4
コクサッキー A10		1							1	2	4		1			8
コクサッキー A16	1								1	2	3	2				8
コクサッキー A21													1			1
コクサッキー B1		9														
コクサッキー B2		2						1								1
コクサッキー B3		4														
コクサッキー B5												1		1		2
エコー 6	8	4														
エコー 7	4											1				1
エコー 11		2								1	2		1	2		6
エコー 16					1											1
エコー 18		1														
エコー 25		5											1			1
エンテロ 71	11	5										1				1
バレコ 1		1								3	2	2				7
バレコ 3									1	3	3		1			8
ライノ	43	56	1		1	11	8	7	4	2	7	2	5	1		49
ムンプス	1	2						1								1
アデノ 1	3	7				1		2	1						1	5
アデノ 2	18	18			1	1	2	1	1	1	1	1	3	1		13
アデノ 3	14	9			1		1	2							2	6
アデノ 4	15	15														
アデノ 5	1	1														
アデノ 6	1	1						1								1
アデノ 37		1														
アデノ 40/41	1															
アデノ（型未決定）	15	34	1	1	4	3	2	1	1	2	4	2	1	2		24
単純ヘルペス 1	5	2	1	1					1					1	1	5
ヒトヘルペス 6	1												1			1
バルボウイルス B19						1	1	3	1				2	1		9
ロタ	11	6				1	2									3
ノロ	18	8	2	1			5					1		1		10
サボ	2	2											1		1	2
計	495	578	70	69	84	49	31	36	49	48	42	29	37	67		611

### 3-4 川崎市健康安全研究所（疾患別）

疾患名 検出ウイルス	デング熱	麻疹※	咽頭結膜熱	感染性胃腸炎	手足口病	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	インフルエンザ様	流行性角結膜炎	無菌性髄膜炎	合計
インフルエンザ AH1pdm09								56			56
インフルエンザ AH3								91			91
インフルエンザ B								60			60
コクサッキー A4						6					6
コクサッキー A5					1						1
コクサッキー A6					1						1
コクサッキー A8						1					1
コクサッキー A16					1						1
コクサッキー B1									1		1
コクサッキー B5									1		1
エコー 6									2		2
エコー 11									2		2
エンテロ 71					2						2
ムンプス							1				1
麻疹 B3		4									4
麻疹 D8		4									4
麻疹 D9		3									3
風疹 2B		1									1
アデノ 3			2								2
アデノ 4			1								1
アデノ 37									1		1
アデノ 40/41				1							1
アデノ 56									1		1
サイトメガロ										1	1
ヒトヘルペス 6										2	2
ヘルペス 7										2	2
ノロ				26							26
デング	3										3
計	3	12	3	27	5	7	1	207	2	11	278

※麻疹を疑う患者検体からの検出

### 3-4 川崎市健康安全研究所（月別）

年・月 検出ウイルス	平成 24年	平成 25年	平成26年												合計	
			1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月		
インフルエンザ AH1pdm09		6	41	9	5									1	56	
インフルエンザ AH3	98	79	13	5	6				1			2	1	8	55	91
インフルエンザ B	43	14	26	29	1	2					1				1	60
コクサッキー A4									1	2	3					6
コクサッキー A5	1									1						1
コクサッキー A6		9								1						1
コクサッキー A8													1			1
コクサッキー A9		1														
コクサッキー A16	3	1								1						1
コクサッキー B1			1								1					2
コクサッキー B3		2														
コクサッキー B4		1														
コクサッキー B5		2												1		1
エコー 6	3											1	1			2
エコー 7	1															
エコー 9		1														
エコー 11												1		1		2
エコー 18		2														
エンテロ 71		1							1	1						2
パレコ 3		1														
ライノ		2														
ムンプス								1								1
麻疹		1	3	2	2	1	2	1								11
風疹	19	30		1												1
アデノ 1	1															
アデノ 2		1														
アデノ 3	1	1										2				2
アデノ 4	2	1										1				1
アデノ 40/41	1	1									1					1
アデノ 56	2											1				1
単純ヘルペス 1	1															
サイトメガロ		3				1										1
ヒトヘルペス 6	3	2			1	1										2
ヒトヘルペス 7					1	1		1								2
ロタ	1															
ノロ	59	52	4	1	2				1			1		2	15	26
デング	3	3				1					1	1				3
計	221	187	88	47	17	7	4	5	7	5	11	3	12	72		278

### 3-5 相模原市衛生試験所（疾患別）

疾患名 検出ウイルス	麻しん※	RSウイルス 感染症	咽頭結膜熱	感染性 胃腸炎	手足口病	インフル エンザ様	流行性 角結膜炎	その他	合計
インフルエンザ AH1pdm09						11			11
インフルエンザ AH3						10			10
インフルエンザ B						7			7
コクサッキー A10				1					1
エンテロ 71					1				1
麻疹	5								5
アデノ 2				3					3
アデノ 5				1					1
アデノ 6				9					9
アデノ 40/41				3					3
アデノ 56							1		1
ロタ				6					6
ノロ				11				32	43
サボ				3					3
計	5			37	1	28	1	32	104

※麻しんを疑う患者検体からの検出

### 3-5 相模原市衛生試験所（月別）

年・月 検出ウイルス	平成 24年	平成 25年	平成26年												合計	
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
インフルエンザ AH1pdm09			7	2		1						1				11
インフルエンザ AH3	25	9	2	1				1					4	1	1	10
インフルエンザ B	3	3	3	2		2										7
コクサッキー A10													1			1
エコー 25		1														1
エンテロ 71									1							1
麻疹						5										5
アデノ 1		4														4
アデノ 2	4	3		1									2			3
アデノ 3		1														1
アデノ 4	1															1
アデノ 5			1													1
アデノ 6			1	3	2	1	1	1								9
アデノ 37	1															1
アデノ 40/41	3	3						1	1				1			3
アデノ 56	2	2												1		1
ロタ	6	13		1	4					1						6
ノロ	75	47	14	2	3	3	4							14	3	43
サボ	2	9		1						1					1	3
計	120	93	28	13	9	12	7	4		1	1	8	16	5		104

### 3-6 横須賀市健康安全科学センター（疾患別）

疾患名 検出ウイルス	麻しん※	感染性胃腸炎	インフルエンザ様	流行性角結膜炎	その他	合計
インフルエンザ AH1pdm09			51			51
インフルエンザ AH3			47			47
インフルエンザ B			60			60
風疹	1					1
アデノ 19				1		1
アデノ 37				1		1
アデノ（型未決定）				2		2
ノロ		3			62	65
計	1	3	158	4	62	228

※麻しんを疑う患者検体からの検出

### 3-6 横須賀市健康安全科学センター（月別）

年・月 検出ウイルス	平成24年	平成25年	平成26年												合計	
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
インフルエンザ AH1pdm		6	26	20	5											51
インフルエンザ AH3	102	95	5	7	1								6	28		47
インフルエンザ B	43	18	6	23	31											60
エコー 7	1															
風しん		10			1											1
アデノ 4	2	1														
アデノ 8	1															
アデノ 19		1								1						1
アデノ 37										1						1
アデノ（型未決定）		1										2				2
ノロ	37	94	38		1	1					1			24		65
サポ	1															
計	188	216	75	50	39	1				2	1	2		30	28	228

### 3-7 藤沢市保健所（疾患別）

疾患名 検出ウイルス	感染性胃腸炎	合計
ノロ	46	46
サポ	1	1
計	47	47

### 3-7 藤沢市保健所（月別）

年・月 検出ウイルス	平成24年	平成25年	平成26年												合計
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
ノロ	139	18	4	9	19	2		5		2			4	1	46
サポ	2				1										1
計	185	80	4	9	20	2		5		2			4	1	47

## 4 病原細菌検出状況表（ヒト由来）

### 4-1 神奈川全県（月別）

年・月 菌種・菌型	平成24年		平成25年		平成26年												合計									
	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	総数	うち海外渡航者								
					総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者			総数	うち海外渡航者						
腸管出血性大腸菌 (EHEC)	132	3	221				3	3	3	39	62	66	43	1	23	14	1	5	261	2						
毒素原性大腸菌 (ETEC)	7	2	9	4		14	2		1		1	1	8					1	1	27	2					
病原血清型大腸菌 (EPEC)	2		8								1					6				7						
腸管凝集性大腸菌 (EAaggEC)			1			1	1				1	2				1	2	1	7	2						
他の下痢原性 E.coli						4	3	3	2	2	1		1		13				29							
エシェリヒア アルバーティイ															2				2							
チフス菌	4	3	8	5							1	1			1	1			2	2						
パラチフス A菌	1	1	4	4																						
サルモネラ 04群	25	12	1	12	4	1					1	1		1	1				17	4						
サルモネラ 07群	7	12	2	2						1		1			2				6							
サルモネラ 08群	4	5	6	2				2		4									12	2						
サルモネラ 09群	17	6	1	4	2					8		8							20	2						
サルモネラ 030群			1																							
サルモネラ 048群										1									1							
サルモネラ 群不明			1																							
リステリア モノサイトゲネス			1																							
エルシニア エンテロコリチカ	2																									
コレラ菌 01	2	2																								
コレラ菌 non-01 & 0139	1	1					1							1					2							
腸炎ビブリオ	8		1									1							1							
ビブリオ フルビアリス			1																							
エロモナス ハイドロフィラ			2																							
エロモナス キャピエ	1						1												1							
カンピロバクター ジェジュニ	117	87	6	7	2	22	7	9	22	18	24	21	24	10				172								
カンピロバクター コリ	4	2	1					1		3	2	1							8							
カンピロバクター ジェジュニ/コリ						1													1							
黄色ブドウ球菌	78	48	3	3	5	6	3	4	12	3	8	6	2	2				57								
A型ウエルシ菌	1	26	13	1	2				5		17	1						39								
破傷風菌	1																									
セレウス菌	4	1							1			3	1						5							
赤痢菌フレキシネル	2	2	4	3	1														1							
赤痢菌ボイド	1	1																								
赤痢菌ソッネ	9	4	5	3							1	1		2	2			3	3							
レンサ球菌A群	97	94	12	15	7	15	9	9	9	5	6	8	11	8				114								
レンサ球菌B群	24	3		2	3	1	5	1	5		5			1				23								
レンサ球菌G群		7	1			2			1					1				5								
レンサ球菌 上記以外の群	1	1		1		2												3								
肺炎球菌	8	52	23	11	11	4	7	6	4		4	2	7	9				88								
エンテロコッカス フェーカリス	2																									
エンテロコッカス フェシウム	2	24																								
百日咳菌	5	4			1														1							
レジオネラ ニューモフィラ	3	5		1	4	1	1	3	4		2	1		1				18								
緑膿菌	47	63																								
結核菌	6	11					2	3											5							
マイコバクテリウム	1																									
インフルエンザ菌	9	7	1	1			1	2	2	2	1	2	1	1				14								
クレブジエラ ニューモニエ	10																									
髄膜炎菌		2							1	1									2							
マイコプラズマ ニューモニエ	45	10	1	1	1	3	1		2	1		1						11								
クリプトコッカス											1	1							2							
その他の細菌	1																									
計	691	19	749	23	86	8	62	1	45	63	47	90	142	2	119	1	98	1	86	1	88	3	41	2	967	19

4-2 神奈川県衛生研究所（月別）

年・月 菌種・菌型	平成24年		平成25年		平成26年												合計	
	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	総数	うち海外渡航者
					総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者		
腸管出血性大腸菌(EHEC)	7		11					1		8	10	8	13	7	5	2	54	
毒素原性大腸菌(ETEC)	2		1									5					5	
他の下痢原性 E. coli				4	3	3	2	2	1			1		3			19	
サルモネラ 04群	3		3	1													1	
サルモネラ 07群	3																	
サルモネラ 09群	4		1									2					2	
サルモネラ 群不明			1															
腸炎ビブリオ	1																	
ビブリオ フルビアリス			1															
エロモナス ハイドロフィラ			1															
エロモナス キャピエ	1																	
カンピロバクター ジェジュニ	42		28	2	1		7	2	3	3	1	12	7	1			39	
カンピロバクター コリ	1		2					1		1							2	
黄色ブドウ球菌	8		1															
A型ウエルシュ菌			14	13													13	
セレウス菌			1															
赤痢菌ソクネ			1												1	1	1	1
レンサ球菌A群	34		39	9	11	3	10	6		4	3	2	3	8			59	
レンサ球菌 上記以外の群	1		1		1												1	
肺炎球菌	1		3				1			1							2	
百日咳菌	5																	
レジオネラ ニューモフィラ	1					3				2	2						7	
マイコプラズマ ニューモニエ	45		10	1	1	1	3	1		2	2	1		1			11	
その他の細菌	1																	
計	160		119	25	19	10	24	12	9	15	14	21	11	17	1		177	1

4-3 横浜市衛生研究所（月別）

年・月 菌種・菌型	平成24年		平成25年		平成26年												合計								
	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	総数	うち海外渡航者							
					総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者			総数	うち海外渡航者					
腸管出血性大腸菌 (EHEC)	92	2	81				2	1	17	41	32	19	1	13	7	1	3	135	2						
毒素原性大腸菌 (ETEC)	3	1	5	2		2			1		1	1	3				1	1	8	2					
病原血清型大腸菌 (EPEC)	2		2								1								1						
腸管凝集性大腸菌 (EAggEC)												1					2	1	3	1					
チフス菌	2	2	7	5										1	1				1	1					
パラチフス A菌	1	1	2	2																					
サルモネラ 04群	16	8	8	12	4						1	1		1	1			16	4						
サルモネラ 07群	3	8	2	2															2						
サルモネラ 08群	2	4	6	2				2											8	2					
サルモネラ 09群	11	5	1	4	2					8		6							18	2					
サルモネラ 030群			1																						
サルモネラ 048群										1									1						
リステリア モノサイトゲネス			1																						
コレラ菌 01	2	2																							
コレラ菌 non-01 & 0139							1							1					2						
腸炎ビブリオ	6																								
エロモナス ハイドロフィラ			1																						
カンピロバクター ジェジュニ	47	34		1	1	2	15	2	4	12	11	3	4	3	7			65							
カンピロバクター コリ												2							2						
黄色ブドウ球菌	40	33		1	3	5	4	2	3	12	3	2	5					40							
A型ウエルシュ菌			9				1			5			17	1				24							
破傷風菌	1																								
セレウス菌												3	1						4						
赤痢菌フレキシネル	1	1	4	3	1														1						
赤痢菌ボイド	1	1																							
赤痢菌ソンネ	5	3	4	3							1	1			1	1			2	2					
レンサ球菌A群	57	43		3	4	4	4	3	8	3	1	1	4	3	8			46							
レンサ球菌B群	24	3			2	3	1	5	1	5			5			1		23							
レンサ球菌C群		4		1			2									1		4							
レンサ球菌 上記以外の群								2										2							
肺炎球菌	7	48		23	11	11	3	7	6	3		4	2	7	9			86							
エンテロコッカス フェーカリス	2																								
エンテロコッカス フェシウム	2		24																						
百日咳菌			4			1													1						
レジオネラ ニューモフィラ	2	3			1	1	1		1	2		1	1		1			9							
緑膿菌	47	63																							
結核菌	5	11							1	3									4						
マイコバクテリウム	1																								
インフルエンザ菌	9	7		1	1				2	1	1	1	1	1				9							
クレブジエラ ニューモニエ	10																								
髄膜炎菌			2								1								1						
計	401	13	421	19	55	8	25	27	34	26	54	88	1	62	1	39	1	51	1	24	2	33	2	518	16

4-4 川崎市健康安全研究所（月別）

年・月 菌種・菌型	平成24年		平成25年		平成26年												合計	
	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	総数	うち海外渡航者
					うち海外渡航者													
腸管出血性大腸菌(EHEC)	24		118				2		2	11	9	26	8	3	2		63	
毒素原性大腸菌(ETEC)			1				1										1	
チフス菌	2	1	1								1	1					1	1
パラチフス A菌			2	2														
サルモネラ 04群	1																	
サルモネラ 07群			1												1		1	
サルモネラ 08群	1																	
サルモネラ 09群	1																	
エルシニア エンテロコロリチカ	2																	
腸炎ビブリオ	1																	
カンピロバクター ジェジュニ	18		17		3	2			1	1	5	6	5	4	4	3	34	
カンピロバクター コリ	2				1						1		1				3	
黄色ブドウ球菌	13		6		2			1	1					1	2	2	9	
セレウス菌										1							1	
赤痢菌フレキシネル	1	1																
赤痢菌ソンネ	2																	
レンサ球菌A群	4		11							1	1	1	2				5	
レンサ球菌G群			3								1						1	
レジオネラ ニューモフィラ								1					1				2	
結核菌								1									1	
インフルエンザ菌								1			1	1		1		1	5	
クリプトコッカス															1	1	2	
計	72	2	160	2	6	2	3	1	7	14	19	34	17	10	10	6	129	1

4-5 相模原市衛生試験所（月別）

年・月 菌種・菌型	平成24年		平成25年		平成26年												合計		
	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	総数	うち海外渡航者	
					うち海外渡航者														
腸管出血性大腸菌(EHEC)			2										2					2	
サルモネラ 08群											2							2	
サルモネラ 09群	1																		
腸炎ビブリオ												1						1	
カンピロバクター ジェジュニ	8		4			3				1			4				8		
カンピロバクター コリ	1																		
黄色ブドウ球菌	6		1							1			6				7		
A型ウエルシュ菌			1																
セレウス菌	3																		
赤痢菌ソンネ	2	1																	
レンサ球菌A群	2		1				1				1		1	1			4		
レジオネラ ニューモフィラ			2																
計	23	1	11			3	1			2	3	1	13	1			24		

#### 4-6 横須賀市健康安全科学センター（月別）

年・月 菌種・菌型	平成24年		平成25年		平成26年												合計			
	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	総数	うち海外渡航者		
					総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者			総数	うち海外渡航者
腸管出血性大腸菌(EHEC)	4		8																1	
毒素原性大腸菌(ETEC)	1	1	2	2																
病原血清型大腸菌(EPEC)			6																	
腸管凝集性大腸菌(EAggEC)			1			1	1													2
サルモネラ 04群	1		1																	
サルモネラ 07群	1		3									1								2
腸炎ビブリオ			1																	
エロモナス キャピエ							1													1
カンピロバクター ジェジュニ	2		2																	
カンピロバクター ジェジュニ/コリ							1													1
黄色ブドウ球菌	5		7						1											1
A型ウエルシュ菌			2						1											1
セレウス菌	1																			
結核菌	1																			
髄膜炎菌										1										1
計	16	1	33	2		1	1	2	2		1	2	1				1		10	1

#### 4-7 藤沢市保健所（月別）

年・月 菌種・菌型	平成24年		平成25年		平成26年												合計			
	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	総数	うち海外渡航者		
					総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者			総数	うち海外渡航者
腸管出血性大腸菌(EHEC)	5	1	1					1			3	1		1						6
毒素原性大腸菌(ETEC)	1					12		1												13
病原血清型大腸菌(EPEC)															6					6
腸管凝集性大腸菌(EAggEC)													1			1				2
他の下痢原性 E.coli																10				10
エシェリヒア アルバーティ															2					2
サルモネラ 04群	4																			
サルモネラ 07群										1										1
サルモネラ 08群	1		1								2									2
コレラ菌 non-01 & 0139	1	1																		
カンピロバクター ジェジュニ			2						2		2			6	16					26
カンピロバクター コリ											1									1
黄色ブドウ球菌	6																			
A型ウエルシュ菌	1						1													1
肺炎球菌			1																	
計	19	2	5			12		3		2	4	6	1	1	6	35				70

## II 地域における感染症発生状況の分析

### 1 ウイルス性感染症

#### (1) インフルエンザ

神奈川県全体のインフルエンザの報告数について、平成 26 年は例年より早く第 52 週に流行のピークがみられ、年齢別では 5 歳から 9 歳に報告が多かった。

#### ① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市及び横須賀市を除く）のインフルエンザの動向

神奈川県衛生研究所

前シーズン（2013/2014 シーズン、2013 年 36 週～2014 年 35 週）の横浜市・川崎市及び相模原市を除く神奈川県域（以下、県域）におけるインフルエンザ患者報告数は、2014 年 4 月以降も少ないながら報告が続いていたが、18 週（4/28～5/4）に定点あたりの報告数が 1.0 人を下回った後は再び 1.0 人を超えることなく、本シーズン（2014/2015 シーズン、2014 年 36 週～2015 年 35 週）をむかえた。本シーズンの県域におけるインフルエンザ患者報告数は、2014 年 47 週（11/17～23）に流行開始の目安となる定点あたり報告数が 1.0 人を超えて流行期に入った。47 週に流行開始となるのは、2009/2010 シーズンのパンデミック以降で最も早いものだった。定点あたり報告数のピークは 52 週（12/22～28）の 35.01 人であった。その後、1 月中は横ばい状態であったが、2 月に入ると減少傾向となり、7 週（2/9～15）に注意報レベルの 10.0 人を下回り、13 週（3/23～29）には 1.44 人となってほぼ終息した。本シーズンの流行は、例年よりも 3 週間程度早く始まり、終息も 3 週間程度早かった。（図 1）

感染症発生動向調査病原体定点（藤沢市からの一般依頼を含む）からの依頼検体 294 例についてウイルス分離を実施し、一部の検体についてはインフルエンザウイルス遺伝子検出も併せて実施した。2014 年 4 月～8 月には 18 例の検査を行い、7 例から A 香港(H3)型が、7 例から B 型が検出された。9 月～12 月には 125 例の検査を行い、103 例から A 香港(H3)型が検出された。2015 年 1 月～3 月には 151 例の検査を行い、6 例から AH1pdm09 が、106 例から A 香港(H3)型が、16 例から B 型が検出された。

基幹定点医療機関にインフルエンザで入院した患者（入院サーベイランス）検体（27 例）について、インフルエンザウイルス遺伝子検出とウイルス分離を実施した。27 例中 21 例（2014 年 12 月 9 例、2015 年 1 月 11 例、2 月は 1 例）からインフルエンザウイルスが検出され、すべて A 香港(H3)型であった。

集団かぜ調査は、県域各保健所と藤沢市保健所管内の学校等のシーズン初発事例 1 集団ずつを対象としており、本シーズンは 10 集団についてインフルエンザウイルス遺伝子検出とウイルス分離を実施した。県域初発の集団かぜは 2014 年 9 月に発生し、AH1pdm09 が検出されたが、翌週に発生した別集団からは、A 香港(H3)型が検出された。その後発生した 6 集団（11 月 4 集団、12 月 1 集団、2015 年 2 月 1 集団）からも A 香港(H3)型が検出された。また、2014 年 12 月に発生した学校以外の集団かぜ事例 2 集団からも A 香港(H3)型が検出された。

2014 年 9 月から 2014 年 3 月までに検出されたウイルスの内訳をみると、A 香港(H3)型が 264 例（91%）で最も多く、次いで B 型が 16 例（6%）、AH1pdm09 が 10 例（3%）であった。本シーズンは A 香港(H3)型が主流株となり、AH1pdm09 と B 型は散発的に検出されるにとどまった。B 型分離株は、8 株中 7 株がワクチン株と同じ山形系統株、1 株がビクトリア系統株であった。また、AH1pdm09 分離株についてオセルタミビル耐性変異株のスクリーニングを行ったが、変異株は検出されなかった。

2013 年 3 月に中国において鳥インフルエンザ A(H7N9)に対するヒトでの発症、流行事例が報告されたことに伴い、A(H7N9)疑い症例について通年で検査対応を行っている。本シーズンは、2014 年 7 月に 1

例の検査を行い、A 香港 (H3) 型が検出された。鳥インフルエンザについては、A (H7N9) のほかにも A (H5) や A (H9) 等による鳥類での流行が報告されている地域では、ヒトでの感染事例が現在も断続的に報告されており、季節性インフルエンザとともに鳥インフルエンザについても動向を監視していく必要がある。

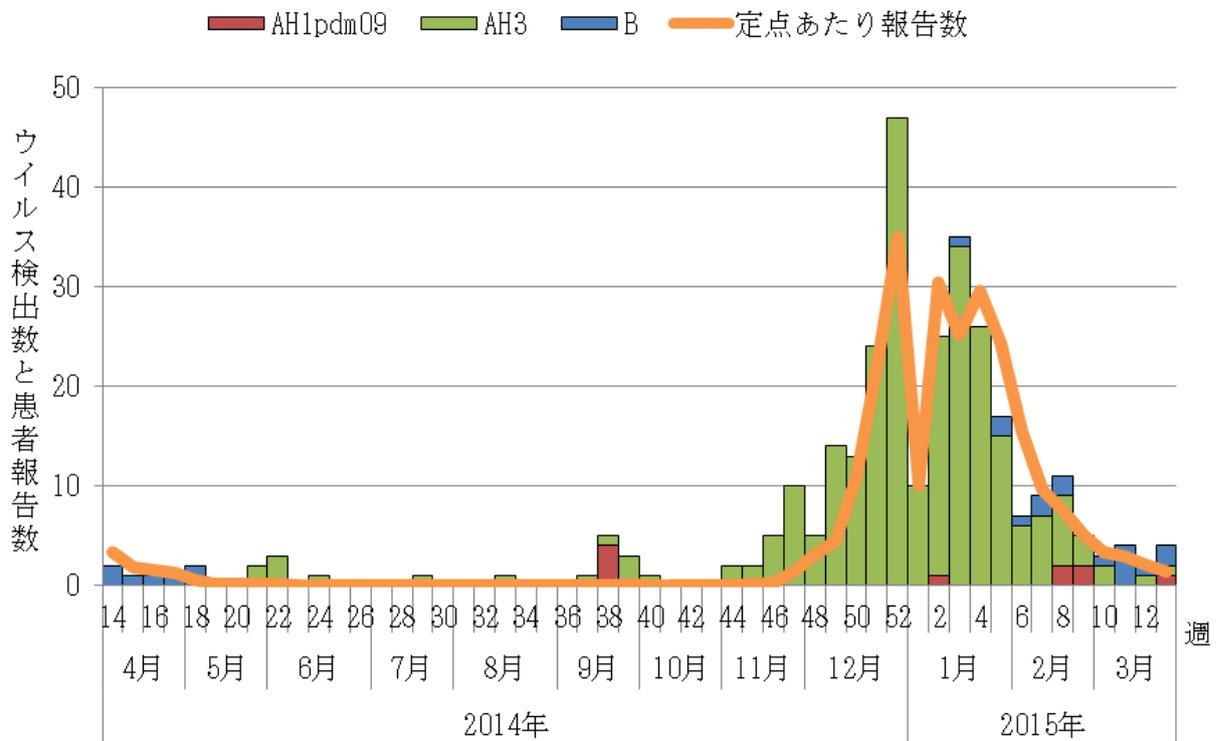


図1 インフルエンザ患者報告数とウイルス検出数の推移

(渡邊寿美、佐野貴子、伊達佳美、近藤真規子、黒木俊郎)

## ② 横浜市のインフルエンザの動向

横浜市衛生研究所

横浜市結核・感染症発生動向調査による平成26年6月から平成27年5月までのインフルエンザ様疾患患者数は35,270人と昨シーズン同期間における44,956人を下回り、過去10年では6番目の規模の流行であった。定点あたり患者数は11月第47週に流行の目安となる1.0人を超え、12月第52週に35.83人と最大の報告数となった。1月第3週には21.99人まで減少したが、翌週は26.44人と上昇に転じ、その後徐々に減少し4月第14週に定点あたり1.0人を下回った(図1)。

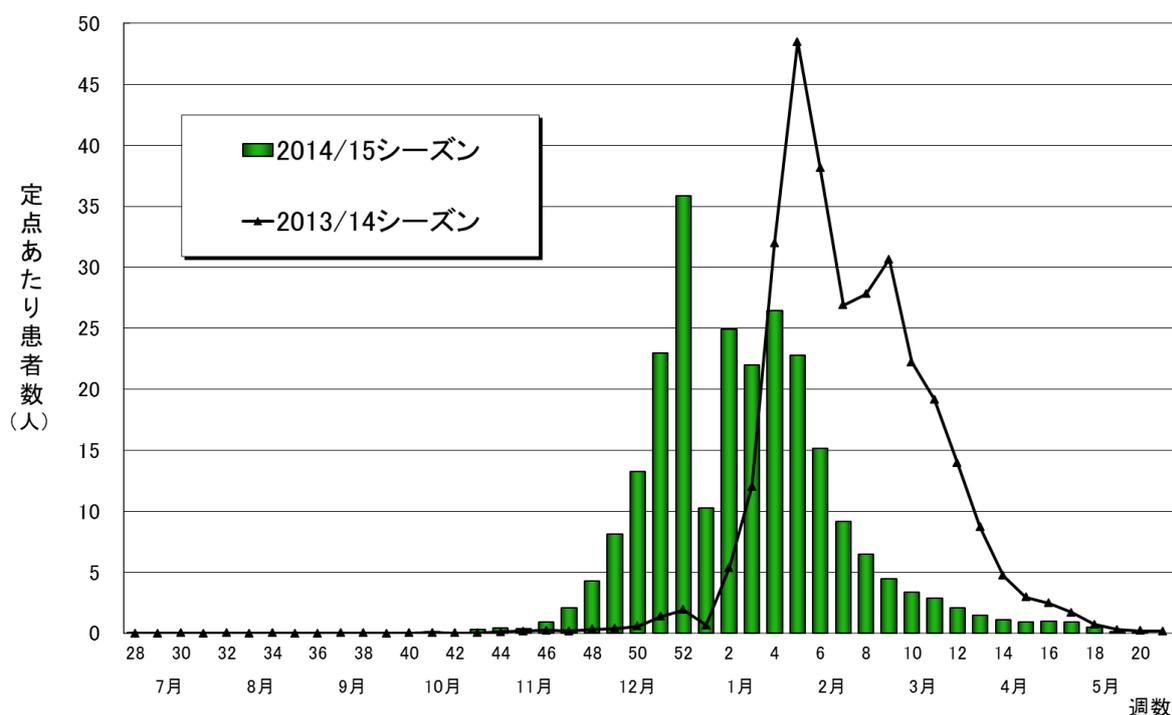


図1 横浜市におけるインフルエンザ定点あたり患者数

表1 インフルエンザのウイルス分離および遺伝子検査結果

調査の内訳	検体数	インフルエンザ陽性数	AH1pdm09	AH3型	B型(山形)	B型(ビクトリア)
クラスターサーベイランス(集団かぜ調査)	75	66	0	66	0	0
入院・重症サーベイランス	76	8	0	8	0	0
病原体定点調査	567	165	2	138	21	4
その他(依頼)	59	0	0	0	0	0
合計	777	239	2	212	21	4

平成 26 年 6 月から平成 27 年 5 月までの検査数と分離・検出数を表 1 に示す。全調査の合計は 777 件で、A 香港 (H3) 型ウイルス 212 件、山形系統の B 型ウイルス 21 件、ビクトリア系統の B 型ウイルス 4 件、AH1pdm09 ウイルス 2 件が分離・検出された。このうち、AH3 型ウイルスが分離され、アデノウイルスの遺伝子が検出された事例が 4 件、パラインフルエンザウイルス 2 型、3 型、RS ウイルス、ヒトコロナウイルス、ライノウイルスの遺伝子が検出された事例がそれぞれ 1 件あった。

集団発生を監視するクラスターサーベイランスにおいては、平成 26 年 10 月 20 日 (第 43 週) に金沢区の小学校から報告があり、A 香港 (H3) 型ウイルスが分離・検出された。その後、11 月第 46 週から発生報告が増加し、12 月までに 18 区中 17 区で発生がみられた。検査依頼のあった 18 集団 75 人についてウイルス学的調査を実施し、A 香港 (H3) 型ウイルス 66 株を分離・検出した (表 2)。

表 2 集団 かせ 調査 の 検査

発生年月日	週	区	施設	〈ウイルス分離〉			〈遺伝子検索〉				総合判定	
				検体数	分離株数	ウイルス型	分離陰性 検体数	HA遺伝子 件数	NA遺伝子 件数	NA遺伝子 件数		
平成26年 10.20	第43週	金沢	小学校	5	5	AH3	0	—*	—	—	—	A香港(H3)型
11.13	第46週	泉	小学校	4	3	AH3	1	陰性	0	N2**	1	A香港(H3)型
11.17	第47週	戸塚	小学校	4	3	AH3	1	陰性	0	N2	1	A香港(H3)型
11.18	第47週	都築	小学校	5	3	AH3	2	陰性	0	N2	2	A香港(H3)型
11.25	第48週	南	小学校	5	3	AH3	2	陰性	0	N2	2	A香港(H3)型
11.26	第48週	青葉	小学校	3	2	AH3	1	AH3	1	—	—	A香港(H3)型
11.26	第48週	栄	小学校	5	5	AH3	0	—	—	—	—	A香港(H3)型
11.26	第48週	鶴見	小学校	4	4	AH3	0	—	—	—	—	A香港(H3)型
11.27	第48週	緑	幼稚園	2	2	AH3	0	—	—	—	—	A香港(H3)型
11.28	第48週	磯子	小学校	4	4	AH3	0	—	—	—	—	A香港(H3)型
12. 1	第49週	中	小学校	5	4	AH3	1	陰性	0	N2	1	A香港(H3)型
12. 2	第49週	旭	小学校	4	4	AH3	0	—	—	—	—	A香港(H3)型
12. 3	第49週	港南	小学校	5	5	AH3	0	—	—	—	—	A香港(H3)型
12. 9	第50週	港北	小学校	5	4	AH3	1	陰性	0	N2	1	A香港(H3)型
12.15	第51週	西	小学校	4	3	AH3	1	陰性	0	N2	1	A香港(H3)型
12.15	第51週	保土ヶ谷	小学校	5	5	AH3	0	—	—	—	—	A香港(H3)型
12.16	第51週	瀬谷	小学校	2	2	AH3	0	—	—	—	—	A香港(H3)型
平成27年 1. 19	第4週	神奈川	小学校	4	4	AH3	0	—	—	—	—	A香港(H3)型
合計		18区	18施設	75件	65株	AH3	10件	AH3	1	N2	9	A香港(H3)型 分離・検出 66件

\*遺伝子検査のうち—は未実施

\*\*N2遺伝子のみ検出は参考値

入院・重症サーベイランスにおいては、平成 26 年 6 月から平成 27 年 5 月までにインフルエンザを疑う 76 件を検査し、A 香港 (H3) 型ウイルスが 8 件分離・検出された。検出された時期は 11 月 1 件、12 月 4 件、1 月 2 件、3 月 1 件で、例年より早い時期に検査が集中した。このうち、重症例は脳症例 4 件、肺炎 2 件であった。インフルエンザ以外のウイルスではヒトパレコウイルス 11 件 (ライノウイルスとの重複 1 件含む)、ライノウイルス 2 件、コクサッキーウイルス A 型 2 件、コクサッキーウイルス B 型 1 件、エコーウイルス 2 件、パラインフルエンザウイルス 2 件、ヒトコロナウイルス 3 件 (ヒューマンメタニューモウイルスとの重複 1 件含む)、ヒューマンメタニューモウイルス 1 件、アデノウイルス 1 件、ヘルペスウイルス 1 件、パルボウイルス 1 件が分離・検出された。

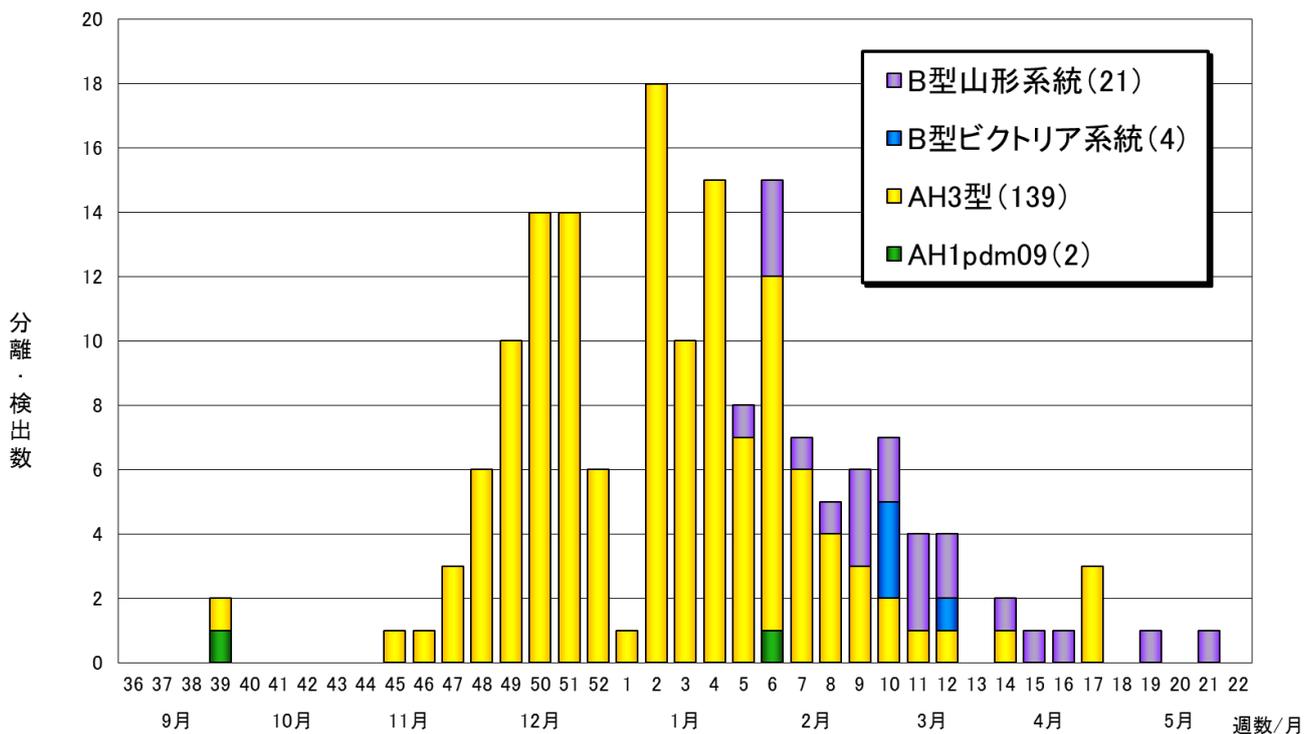


図2 病原体定点等分離・検出状況

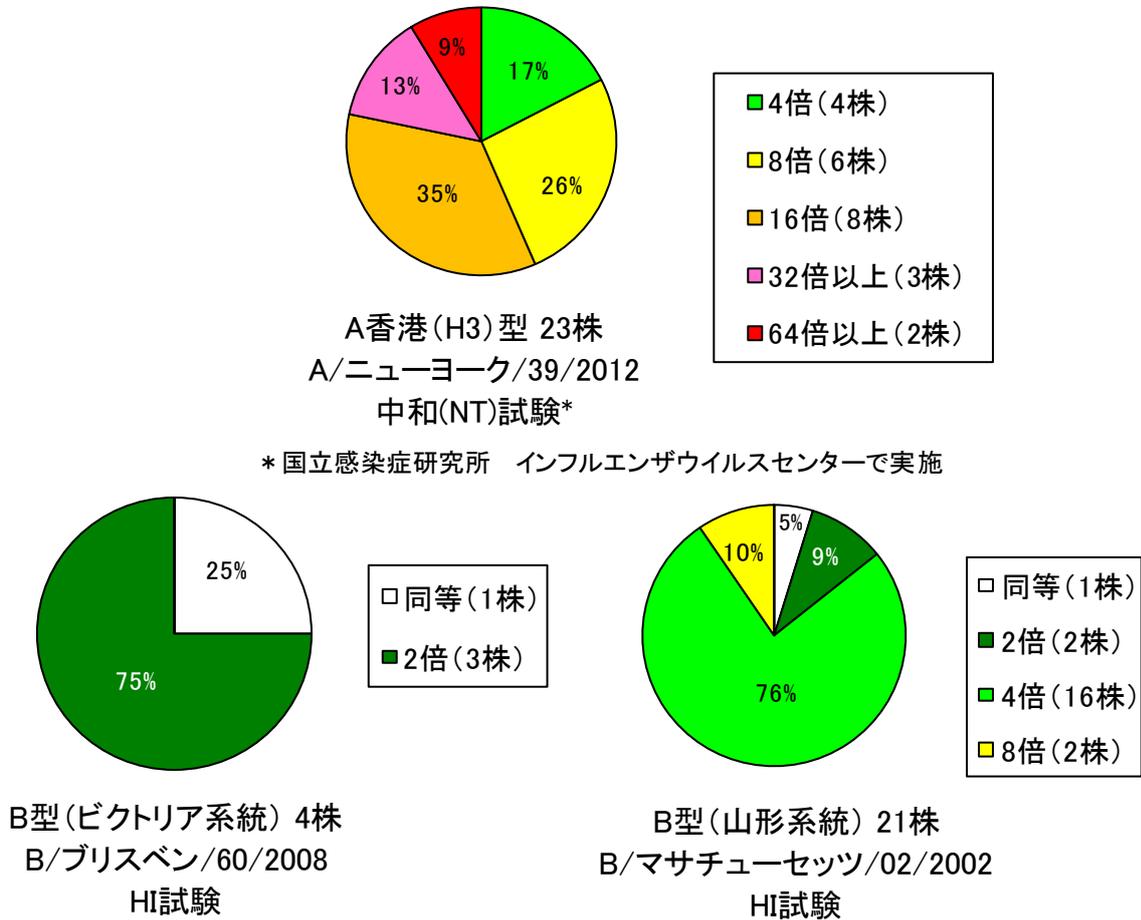
病原体定点ウイルス調査においては 567 件（鼻咽頭検体 483 件、便由来検体 46 件、うがい液 9 件、嘔吐物 3 件、気管吸引液検体 2 件、唾液検体 2 件、不明 22 件）を検査し、A 香港（H3）型ウイルス 138 件、B 型ウイルス（山形系統）21 件、B 型ウイルス（ビクトリア系統）4 件、AH1pdm09 ウイルス 2 件が分離・検出された。今シーズンは 9 月第 39 週に瀬谷区の小児科定点から AH1pdm09 ウイルスがはじめて検出されたが、その後、2 月第 6 週に港北区の小児科定点から 1 株分離されたのみであった。一方、A 香港（H3）型ウイルスは同じ 9 月第 39 週に磯子区の小児科定点から分離され、11 月第 45 週以降連続して分離・検出が続いた。ピークは例年より早く 1 月第 2 週であり、3 月第 12 週まで長期間分離・検出された。他方、B 型ウイルスは 1 月第 5 週に港北区の内科定点から山形系統のウイルスが、3 月第 10 週には戸塚区の小児科定点からビクトリア系統のウイルスが分離・検出された。その後、3 月第 10 週に小さなピークがみられ、5 月第 21 週まで分離・検出が続いた。

今シーズンは山形系統のウイルスが優勢であり、ビクトリア系統との比率は 84%対 16%であった。（図 2）。

ワクチン株の抗血清がこれまでのフェレット感染血清からウサギ免疫血清に変更になったため、ワクチン株と分離株の HI 価の差で類似性を正確に比較することができなくなった。さらに、A 香港（H3）型ウイルス株はノイラミニダーゼ（NA）の変異により、NA 蛋白による血球凝集活性が認められるようになった。このため、HI 反応への立体障害が起り、正確な HI 試験ができないことから、国立感染症研究所インフルエンザウイルス研究センターで実施した中和（NT）試験結果を示す。AH1pdm09 ウイルスと B 型ウイルスは従来の HI 試験結果をまとめたが、いずれも参考値である。

分離したウイルスの抗原性状については、AH1pdm09 ウイルスはワクチン株である A/カリフォルニア/07/2009 と 2 倍差で類似していた。A 香港（H3）型ウイルスはワクチン株である A/ニューヨ

ーク/39/2012 と 23 株中 19 株 (83%) に 8 倍以上の中和反応性低下がみられた。B 型ウイルスのうち、ビクトリア系統のウイルスはレファレンス株である B/ブリスベン/60/2008 と同等または 2 倍差であった。山形系統のウイルスはワクチン株である B/マサチューセッツ/02/2012 と 21 株中 19 株 (90%) が 4 倍以内の HI 反応性を示した (図 3)



\* 国立感染症研究所 インフルエンザウイルスセンターで実施

注) HI 試験のワクチン株抗血清はウサギ免疫血清のため、検査結果は参考値である。

図 3 2014/2015 シーズン分離株の抗原性状

# AH1pdm HA1遺伝子 NJ系統樹

- 赤枠内: 2014/2015ワクチン株
- 緑色: 2012/2013シーズン分離株
- 青色: 2013/2014シーズン分離株
- 赤色: 2014/2015シーズン分離株
- ★: 定点
- ▲: 集団
- : 入院例(■死亡例)
- : 輸入例
- ◆: 耐性株(H275Y)

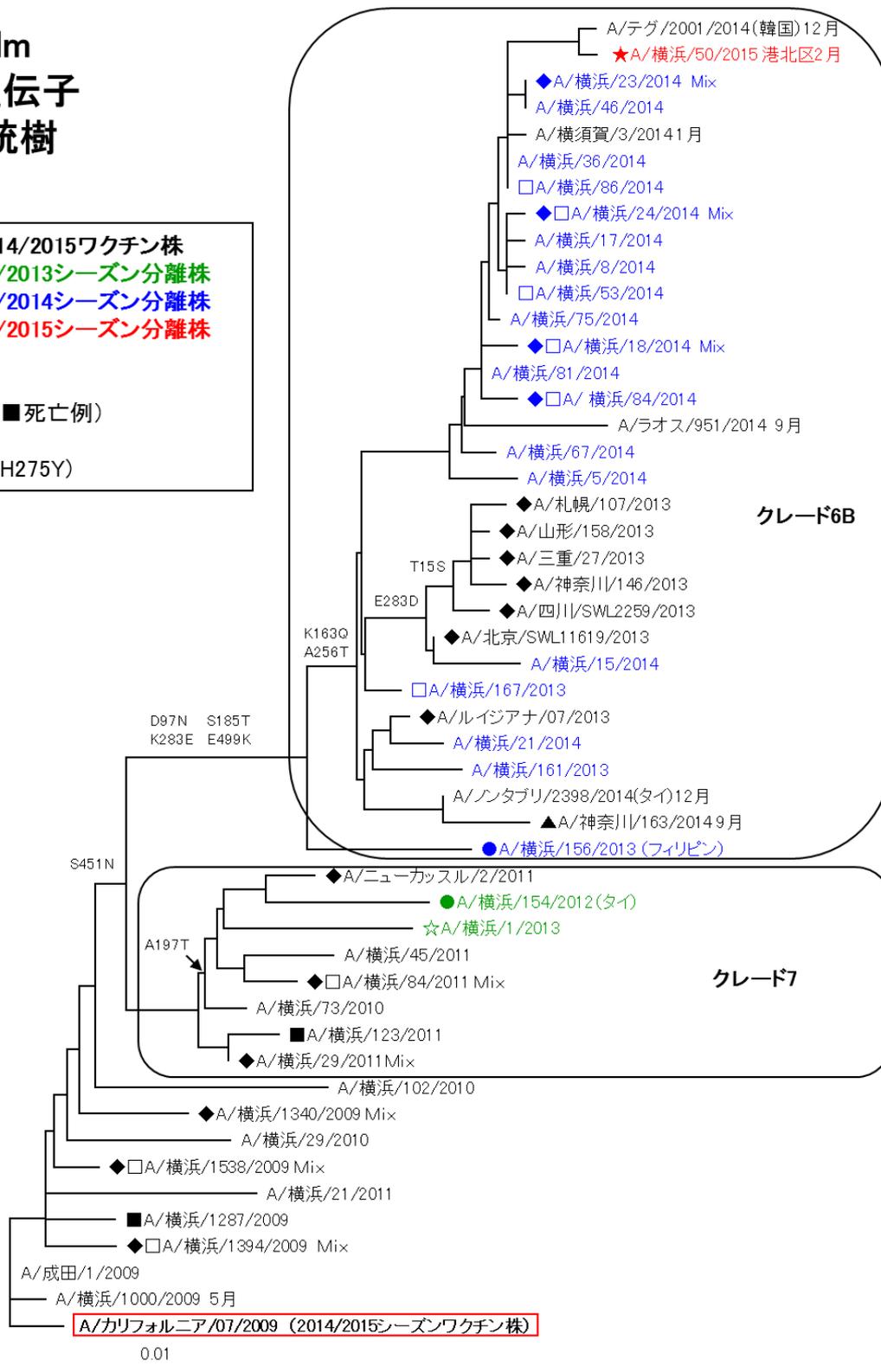


図4 AH1pdm09 ウイルスのHA1ポリペプチドのNJ系統樹

# AH3型 HA1遺伝子 NJ系統樹

赤枠内: 2014/2015ワクチン株  
 太字: 各シーズンワクチン株  
 橙色: 2014年 9月,10月分離株  
 緑色: 2014年 11月分離株  
 青色: 2014年 12月分離株  
 赤色: 2015年 1月分離株  
 桃色: 2015年 2月分離株  
 水色: 2015年 3月分離株  
 ★: 定点  
 ▲: 集団  
 ■: 入院例  
 ●: 輸入例

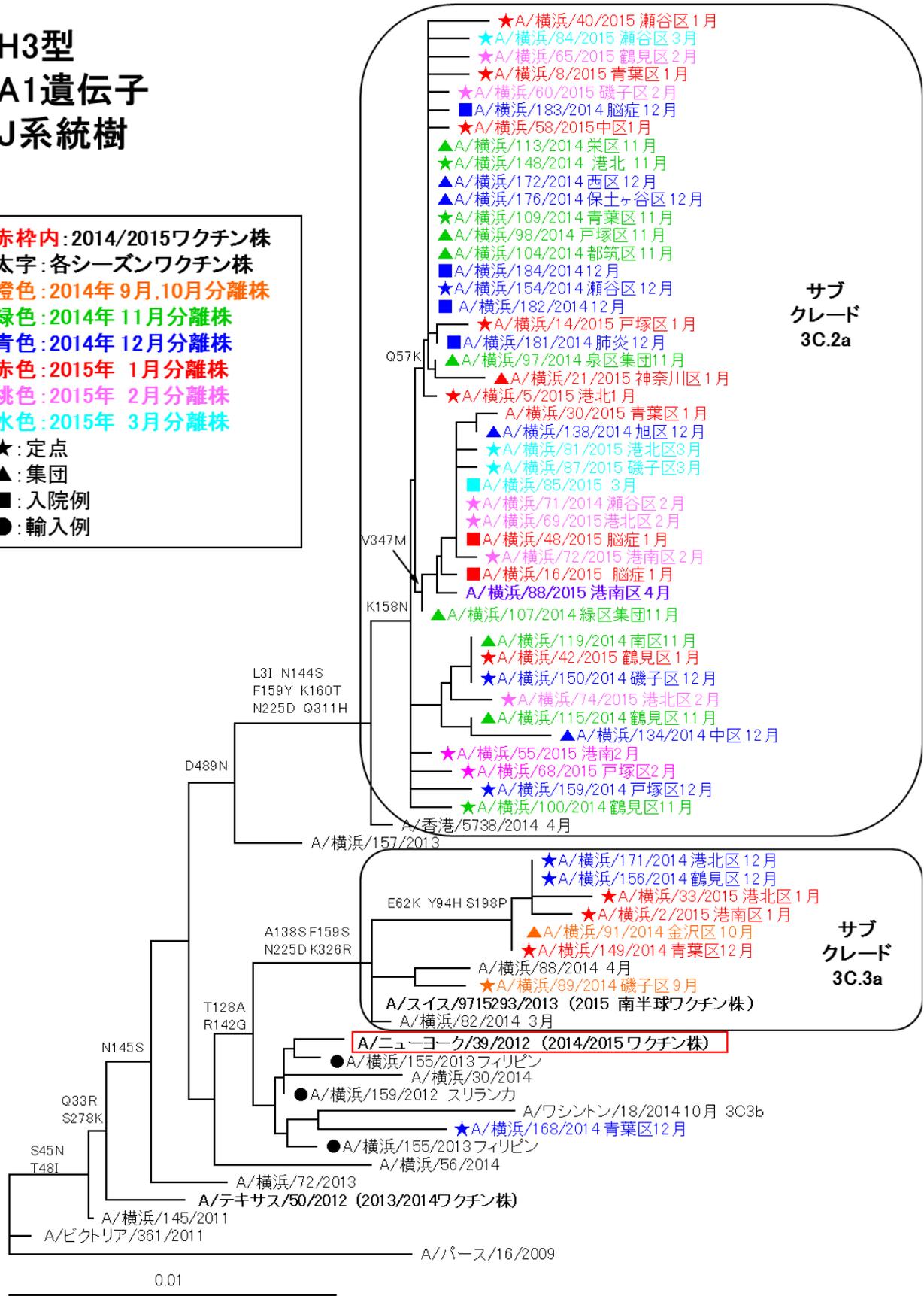


図5 A香港 (H3) 型ウイルスのHA1ポリペプチドのNJ系統樹

# B型 HA1遺伝子 NJ系統樹

赤枠内: 2014/2015ワクチン株  
 太字: 各シーズンワクチン株  
 橙色: 2011/2012シーズン分離株  
 緑色: 2012/2013シーズン分離株  
 青色: 2013/2014シーズン分離株  
 赤色: 2014/2015シーズン分離株  
 ◆: 薬剤感受性低下株(D197N)  
 ▼: アミノ酸挿入株(76L)  
 ●: リアソータント株

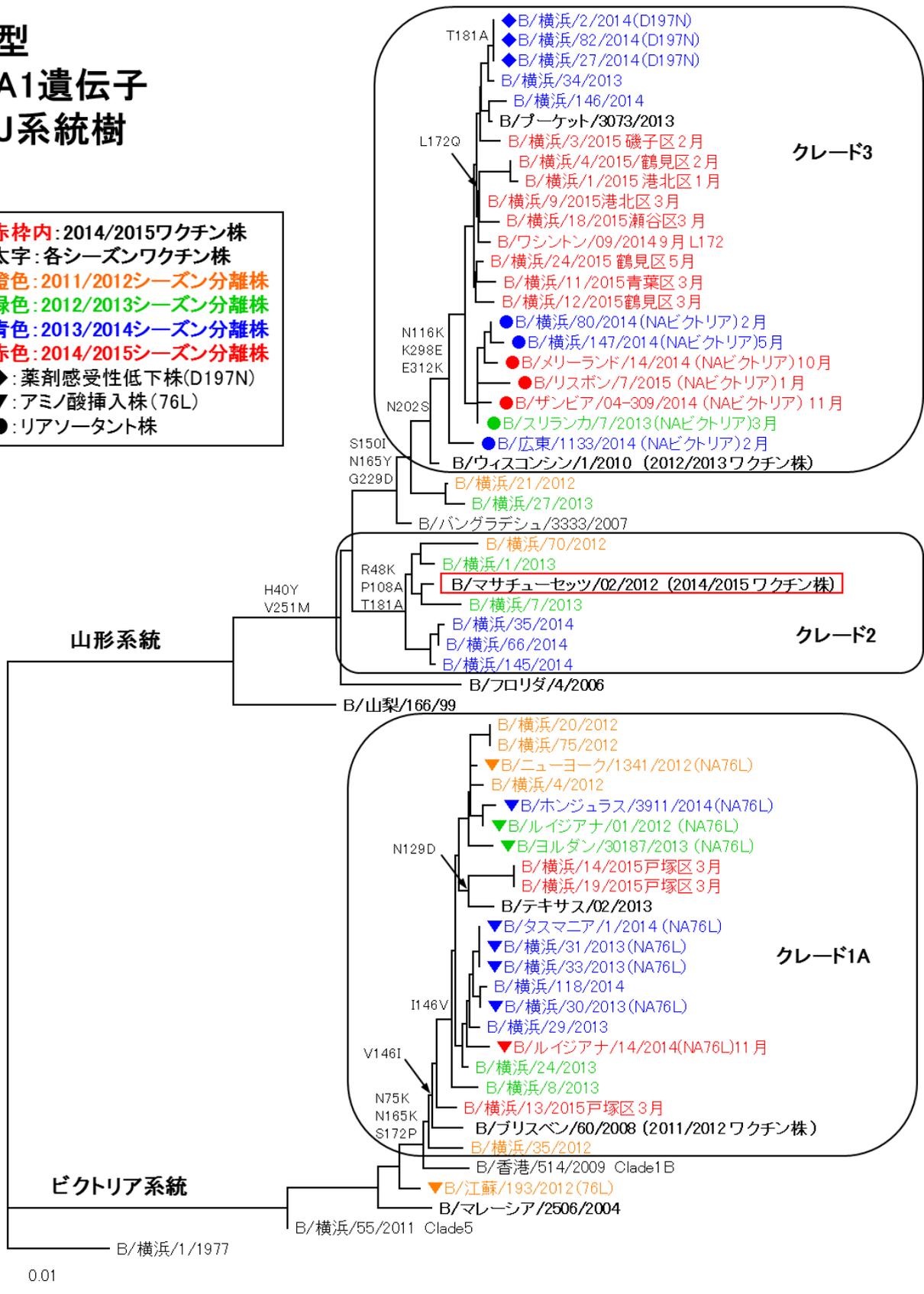


図6 B型ウイルスのHA1ポリペプチドのNJ系統樹

系統樹解析では、AH1pdm09 ウイルスについては昨シーズン分離株と同じ D97N、K283E、E499K、K163Q、A256T のアミノ酸置換が共通のクレード 6B に含まれた (図 4)。A 香港 (H3) 型ウイルスについてはシーズンを通じてサブクレード 3C. 2a (L3I、N144S、F159Y、K160T、N225D、Q311H) に含まれる株が多数を占めた。ワクチン株の A/ニューヨーク/39/2012 を含むサブクレード 3C. 3 に含まれる株はさらに A138S、F159S、N225D、K326R のアミノ酸置換が共通の 3C. 2a に含まれ、2015 シーズンの南半球ワクチン株である A/スイス/9715293/2013 と同じグループであった (図 5)。B 型ウイルスのうちビクトリア系統の分離株は、2011/2012 シーズンのワクチン株である B/ブリスベン/60/2008 と同じクレード 1A に含まれた。山形系統のウイルスは 2012/2013 シーズンのワクチン株 B/ウィスコンシン/1/2010 を含むクレード 3 (N202S) に含まれ、さらに E312K、K293E、N116K が置換したグループであった (図 6)。

抗インフルエンザ薬感受性サーベイランスでは、AH1pdm09 ウイルス 1 株、A 香港 (H3) 型ウイルス 200 株、B 型ウイルス 25 株について既知の薬剤耐性マーカーを検索した。今シーズンはノイラミニダーゼ阻害薬に対する NA 遺伝子のアミノ酸耐性変異は検出されなかった。

以上のように横浜市におけるインフルエンザの流行は、流行開始時期が 11 月第 47 週と昨シーズンの 12 月第 51 週より 4 週間早い立ち上がりであった。ピークの時期は 12 月第 52 週と過去 5 年では最も早い時期であったが、流行の規模は中規模であった。今シーズンは 2 シーズンぶりに A 香港 (H3) 型ウイルスが主流となる流行であったが、2 月下旬以降は山形系統およびビクトリア系統の B 型が多く分離された。B 型ウイルスでは山形系統のウイルスが 84% (25 株中 21 株) と優勢であった。

AH1pdm09 ウイルス、山形系統およびビクトリア系統の B 型ウイルスは、ワクチン株やレファレンス株と 4 倍以内の反応性を示した。A 香港 (H3) 型ウイルスはワクチン株と 8 倍以上反応性の低下した株が 62% (21 株中 13 株) にみられ、抗原変異していた。

系統樹解析では、AH1pdm09 ウイルスはクレード 6B に含まれ、アミノ酸変異は進んでいなかった。A 香港 (H3) 型ウイルスは、ワクチン株の A/ニューヨーク/39/2012 が含まれるサブクレード 3C. 3a とは異なる 3C. 2a のグループが主流であった。B 型ウイルスのうちビクトリア系統の分離株は昨シーズンの株と同じクレード 1A に含まれた。山形系統の分離株はワクチン株の B/マサチューセッツ/2/2012 とは異なるクレード 3 に含まれた。

(川上千春、清水耕平、小澤広規、百木智子、七種美和子、宇宿秀三)

### ③ 川崎市のインフルエンザの動向

川崎市健康安全研究所

#### ・ 川崎市におけるインフルエンザ様疾患の発生状況

本市の感染症発生動向調査におけるインフルエンザ様患者の発生状況(図 1)によると、定点あたりの患者数が 1.0 人を超えたのが 11 月の第 2 週(第 46 週)で、その後患者数は増加し、12 月の第 4 週(第 52 週)に定点あたりの患者数が 36.09 人とピークを迎えた。52 週は年末にあたり、そのため翌週である 1 月の第 1 週は 11.69 人と減少し、第 2 週に再び 25.78 人に増加するが、警報レベルである定点あたり 30 人以上までは上がらず、2 月の第 2 週(7 週)に注意報(10 人以上)を下回った。例年に比べて約 1 ヶ月程度早い流行形態であった。

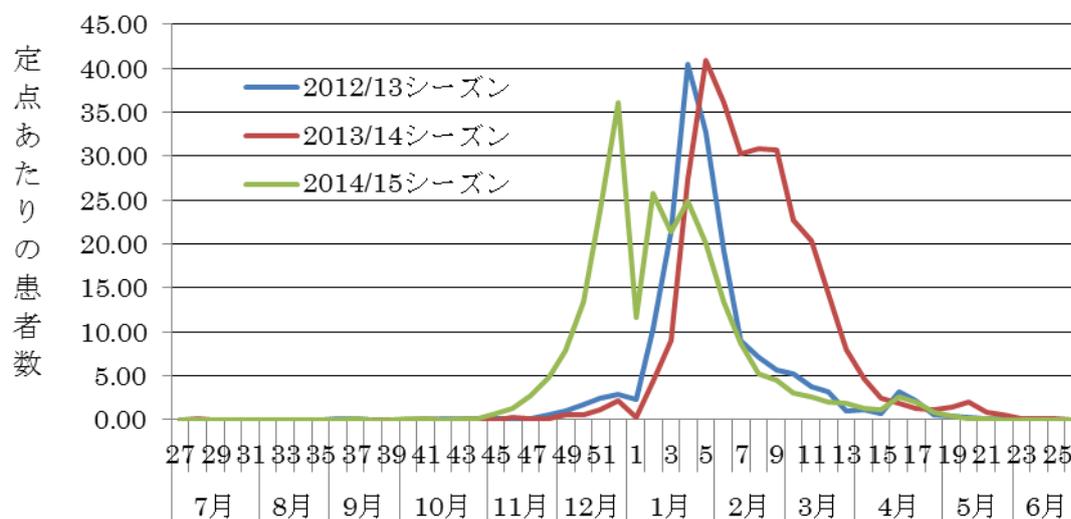


図 1 定点当たりのインフルエンザ患者数

#### ・ インフルエンザウイルス分離状況

2014/2015 シーズンは、インフルエンザ様疾患患者の咽頭ぬぐい液または鼻腔ぬぐい液が合計 158 例搬入され、そのうちリアルタイム PCR ならびにウイルス分離培養で 149 例(94.3%)がインフルエンザウイルス陽性であった。血清型別では、AH1pdm09 が 2 例、A 香港(H3)型が 126 例、B 型(山形系統)が 18 例、B 型(型別不明)が 1 例、A 香港(H3)と B 型の混合が 2 例であった。

週別のインフルエンザウイルス分離状況(図 2)では、初めてウイルスが検出されたのは 9 月の第 3 週(38 週)で、昨年の初検出日(44 週)に比べて 1 ヶ月程度早く、検出された 2 例はともに A 香港(H3)型であった。検出数が増加したのは 11 月からで、12 月の後半にかけて検出数は増加し、そのほとんどが A 香港(H3)型であった。検出数のピークは 1 月の第 4 週で A 香港(H3)型が 17 株、B 型(山形系統)が 3 株、A 香港(H3)と B 型の混合が 1 例の計 20 例であった。2 月に入り検体数は減少し、B 型の割合が増加し、3 月に検出された 11 例のうち 9 例が B 型(山形系統)であった。

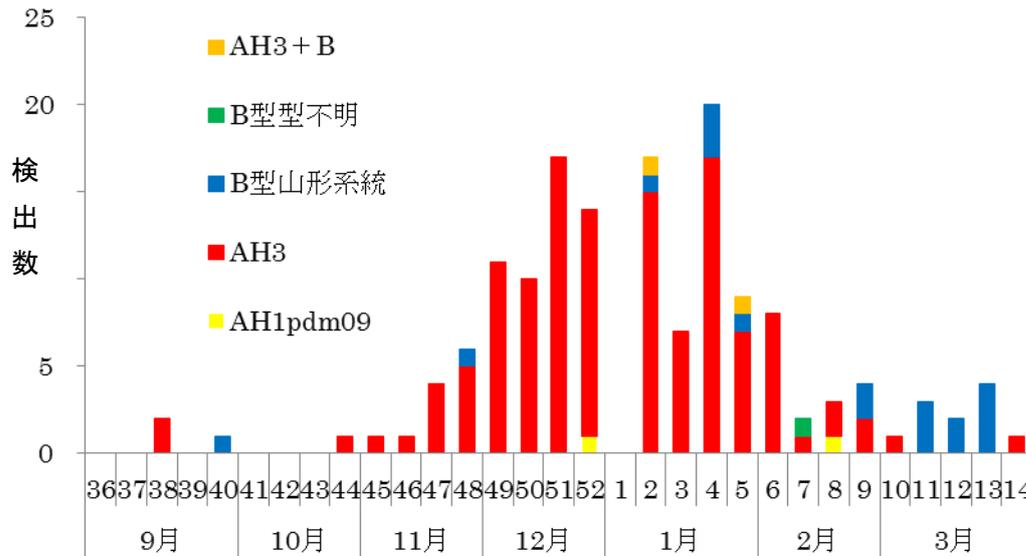


図2 週別インフルエンザウイルス検出状況

(駒根綾子、清水英明)

④ インフルエンザ感受性調査

神奈川県衛生研究所

2014年7～8月に採取された0歳以上の県民333名(0～4歳48名、5～9歳20名、10～14歳27名、15～19歳30名、20～29歳59名、30～39歳59名、40～49歳30名、50～59歳30名、60歳以上30名)の血清について、赤血球凝集抑制試験を用いてインフルエンザ各型に対する年齢別抗体保有状況を調査した。使用抗原は、A/カリフォルニア/7/2009、A/ニューヨーク/39/2012、B/マサチューセッツ/2/2012、B/ブリスベン/60/2008の4種類である。抗体保有率は、最低血清希釈倍数の10HI価と、重症化予防の目安と考えられる40HI価の2点で集計した。

A/カリフォルニア/7/2009は、2009/2010シーズン以後5シーズンに渡ってAH1pdm09のワクチン株に採用されている株である。本株に対する抗体保有率は、10HI価でみると最高が5～9歳の95.0%、最低が0～4歳の37.5%、40HI価でみると最高が15～19歳の77.8%、最低が0～4歳の16.7%であった。40HI価以上の抗体保有率は前年調査時よりも全体的に高かった。(図1)

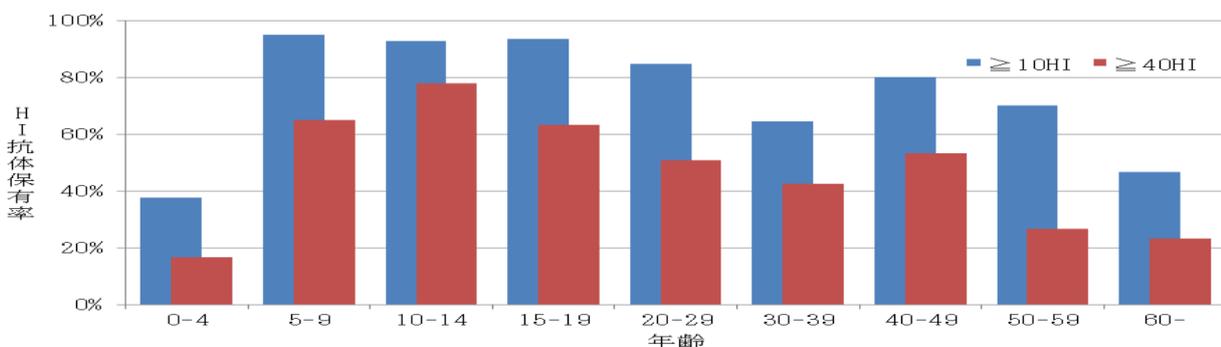


図1 A/カリフォルニア/7/2009 抗体保有率

A/ニューヨーク/39/2012 は、本シーズン（2014/2015 シーズン）から A 香港(H3)型のワクチン株に採用された株である。本株に対する抗体保有率は、10HI 価でみると最高が 5～9 歳の 90.0%、最低が 50～59 歳の 43.3%、40HI 価でみると最高が 10～14 歳の 77.8%、最低が 0～4 歳の 27.1%であった。40HI 価以上の抗体保有率は、40HI 価以上の抗体保有率は前年調査時よりも全体的に高かった。（図 2）

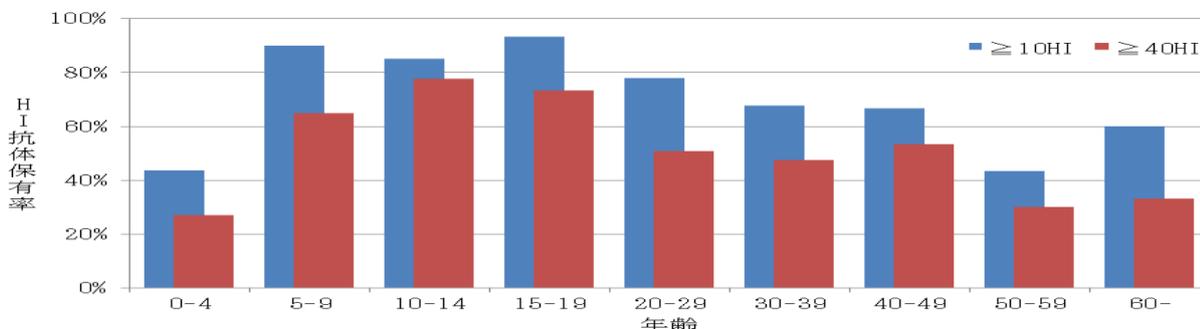


図 2 A/ニューヨーク/39/2012 抗体保有率

B/マサチューセッツ/2/2012 は、前シーズン（2013/2014 シーズン）から B 型のワクチン株として使用されており、“山形系統”に属する。本株に対する抗体保有率は、10HI 価でみると最高が 15～19 歳の 86.7%、最低が 0～4 歳の 14.6%、40HI 価でみると最高が 20～29 歳の 56.7%、最低が 0～5 歳の 6.3%であった。40HI 価以上の抗体保有率は、前年調査時よりも全体的に高かった。（図 3）

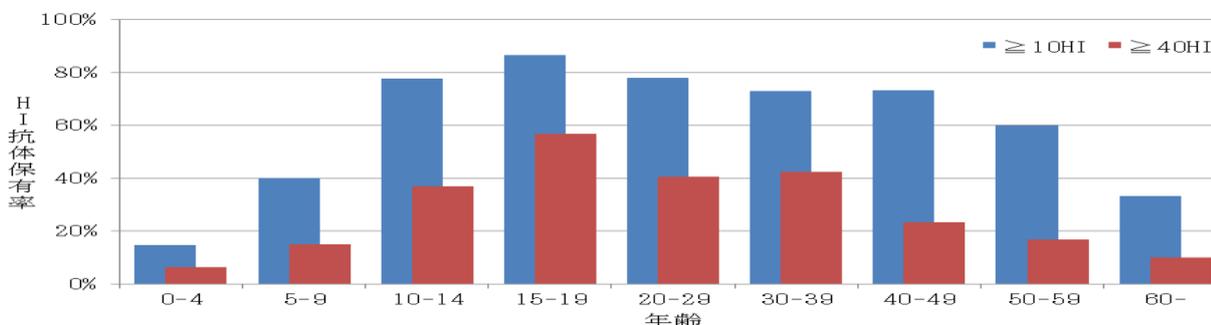


図 3 B/マサチューセッツ/2/2012 抗体保有率

B/ブリスベン/60/2008 は、2009/2010～2011/2012 の3シーズンに渡ってB型のワクチン株として使用された株であり、“ビクトリア系統”に属する。本株に対する抗体保有率は、10HI 価でみると最高が15～19歳の80.0%、最低が0～4歳の10.4%、40HI 価でみると最高が15～19歳の36.7%、最低が0～4歳の4.2%であった。40HI 価以上の抗体保有率は前年調査時よりも全体的に高かった。(図4)

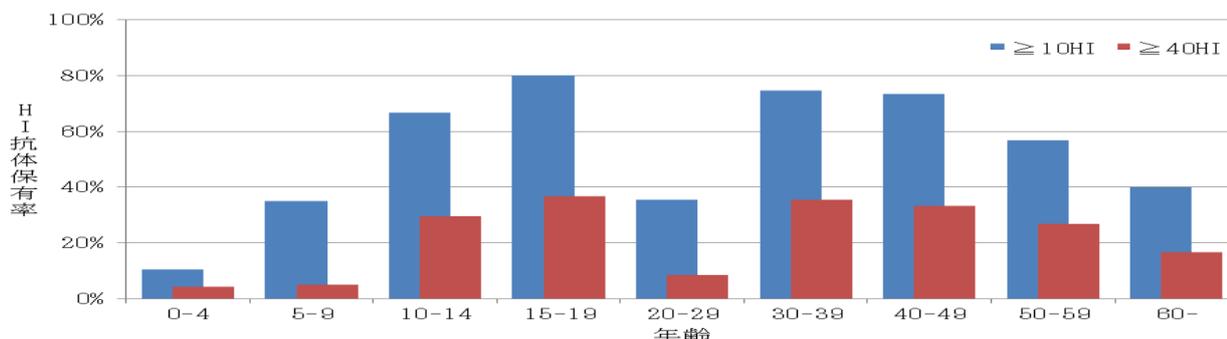


図4 B/ブリスベン/60/2008 抗体保有率

前シーズンの神奈川県におけるインフルエンザの流行はB型が主流株で、AH1pdm09とA香港(H3)型との混合流行であった。AH1pdm09は、前シーズンに2シーズンぶりに流行がみられたことから、抗体保有率の上昇に影響したと考えられる。AH3型は、前シーズンには主流株ではなかったが、その前の2シーズンに連続して主流株であったことから、抗体保有率を維持していたと考えられる。B型は前シーズンに流行の主流となったことから、全体的に抗体保有率が高くなったと考えられる。しかし、抗体保有率が比較的低い(25%未満)の年齢層においては、インフルエンザウイルス各型に対する感受性者が多くいると考えられ、ワクチン接種による免疫強化が必要であると思われた。

(渡邊寿美、近藤真規子、黒木俊郎)

## (2) HIV／エイズ

### ① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）における HIV 検査の実施状況

神奈川県衛生研究所

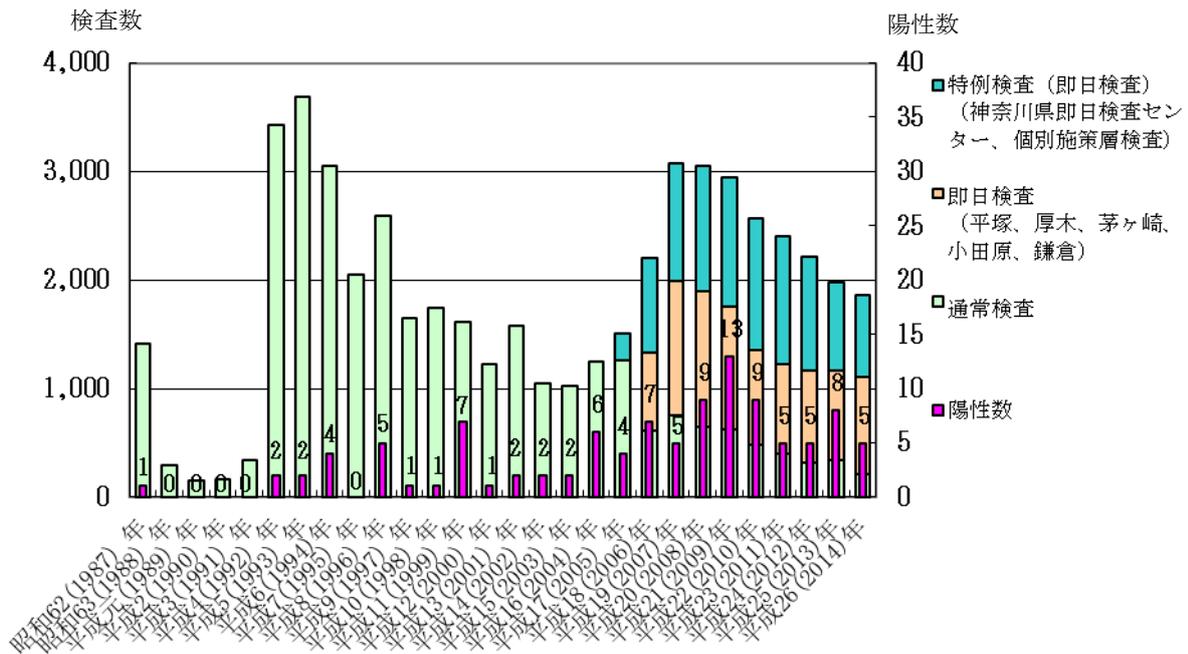
神奈川県（横浜市・川崎市・横須賀市・相模原市及び藤沢市を除く）では、昭和 62 年 2 月より保健所において HIV 抗体検査の受付が開始され、当所で検査を行っている。平成 5 年 4 月からは HIV 抗体検査が無料化され、同年 8 月からは HIV-1 型抗体検査に加え、HIV-2 型抗体検査も実施可能となった。平成 11 年 8 月からは厚生労働省「HIV 検査体制研究班」の協力により、保健福祉事務所（以下、HWC）のうち厚木 HWC 大和センターの検体について核酸増幅スクリーニング（NAT）検査を実施している。平成 17 年 8 月からは HIV 即日検査機関として横浜 YMCA（厚木）で日曜日に「神奈川県即日検査センター」（以下、即日検査センター）を開設、平成 18 年 4 月からは平塚 HWC、6 月からは厚木、茅ヶ崎、小田原 HWC、平成 26 年 4 月からは鎌倉 HWC において即日検査を開始した。また、平成 26 年は個別施策層の男性同性間性的接触者（以下、MSM）に配慮した即日検査会を 3 回実施した。性感染症検査としては、平成 26 年 4 月から厚木 HWC 大和センターにおいて希望者に梅毒抗体検査を実施している。

HIV 検査数は、検査が無料化された平成 5 年をピークに年々減少傾向であったが、全国的に即日検査の導入が始まった平成 16 年以降は当県でも検査数が増加し始め、平成 17 年の即日検査センターの設置、平成 18 年の HWC への即日検査の導入により検査数が急激に増加した（図 1）。しかし、平成 19 年の検査数 3,080 件をピークに、平成 26 年は 1,861 件と減少傾向が続いている。

平成 26 年の検査種類別による検査数は、即日検査を実施している 5 箇所（厚木、平塚、茅ヶ崎、小田原、鎌倉）の HWC では 897 件、通常検査は 216 件、即日検査センターおよび個別施策層即日検査（以下、特設検査）では 748 件であった（表 1）。HWC の再編により、平塚 HWC 秦野センター、鎌倉 HWC 三崎センター、小田原 HWC 足柄上センターでの HIV 検査は平成 26 年 4 月から不実施となり、また、鎌倉 HWC では通常検査から即日検査に変更となったことから、前年と比較して HWC の即日検査数は 10%増、通常検査は 38%減となった。

HIV 陽性数は 5 例であり、すべて特設検査で検出された。全体の陽性率は 0.3%であり、特設検査のみでは 0.7%となった。陽性例の性別はすべて男性であり、国籍は日本国籍が 4 名、外国籍が 1 名であった。HIV 型はすべて HIV-1 型であり、サブタイプはすべて B であった（表 2）。サブタイプ B は欧米から 1980 年代中頃に日本に流入し、非加熱血液製剤による感染例や男性同性間の性的接触による感染例の主流株となっている。

全国における保健所等検査機関での HIV 検査数は改善傾向にあるが、神奈川県では依然として減少傾向にある。HIV の早期発見・早期治療は感染者の予後を改善し、社会における感染拡大の防止にもつながることから、神奈川県では HIV 検査体制を強化していくとともに、個別施策層である青少年への予防啓発活動や MSM および外国籍者等を中心とした検査普及活動を積極的に行っていく必要があると考える。



- \* 相模原は平成12年4月、藤沢は平成18年4月から保健所設置市となった。
- \* 津久井は平成19年4月に相模原市に統合された。
- \* 神奈川県即日検査センターは平成17年8月、平塚HWCは平成18年4月、厚木、茅ヶ崎、小田原HWCは平成18年6月から即日検査を開始した。
- \* 鎌倉HWCは平成26年4月から即日検査を開始した。
- \* 個別施策層検査を平成26年に3回実施した。

図1 神奈川県（横浜市、川崎市、相模原市、横須賀市及び藤沢市を除く）でのHIV検査数、陽性数の年次推移

表1 HIV検査種類別による検査数、陽性数（平成18-26年）

	即日検査* (4HWC、H26.4月から 5HWC)			通常検査** (5HWC、H26.4年から1セ ンター)			特例検査（即日検査） (即日検査センターおよ び個別施策層検査)			合計		
	検査数	陽性数	陽性率 (%)	検査数	陽性数	陽性率 (%)	検査数	陽性数	陽性率 (%)	検査数	陽性数	陽性率 (%)
平成18年	712	2	0.3%	615	1	0.2%	874	4	0.5%	2,201	7	0.3%
平成19年	1,237	2	0.2%	750	1	0.1%	1,093	2	0.2%	3,080	5	0.2%
平成20年	1,258	2	0.2%	643	3	0.5%	1,146	4	0.3%	3,047	9	0.3%
平成21年	1,132	2	0.2%	621	5	0.8%	1,198	6	0.5%	2,951	13	0.4%
平成22年	872	4	0.5%	484	0	0.0%	1,216	5	0.4%	2,572	9	0.3%
平成23年	824	2	0.2%	405	1	0.2%	1,176	2	0.2%	2,405	5	0.2%
平成24年	838	3	0.4%	323	0	0.0%	1,051	2	0.2%	2,212	5	0.2%
平成25年	817	2	0.2%	347	0	0.0%	819	6	0.7%	1,983	8	0.4%
平成26年	897	0	0.0%	216	0	0.0%	748	5	0.7%	1,816	5	0.3%

- \* 平成18年4月から平塚HWC、平成18年6月から小田原、茅ヶ崎、厚木HWC、平成26年4月から鎌倉HWC
- \*\* 平成26年3月まで鎌倉、三崎、秦野、大和、足柄上HWC、平成26年4月から厚木HWC大和センターのみ

表2 HIV陽性例のHIV-1型サブタイプ型別（平成18-26年）

陽性数	サブタイプB				CRF01_AE				サブタイプB/CRF01_AE				不明
	男性		女性		男性		女性		男性		女性		
	日本国籍	外国籍	日本国籍	外国籍	日本国籍	外国籍	日本国籍	外国籍	日本国籍	外国籍	日本国籍	外国籍	
平成18年	7	5			1			1					
平成19年	5	2			1			1					1
平成20年	9	4		1		1	1	2					
平成21年	13	9				1		1					2
平成22年	9	5		1	1			2					
平成23年	5	3								1		1	
平成24年	5	3		2									
平成25年	8	6	1										1
平成26年	5	4	1										

（佐野貴子、伊達佳美、渡邊寿美、近藤真規子、黒木俊郎）

## ② 藤沢市におけるHIV即日検査の実施状況

藤沢市保健所

原則週1回木曜日の午前中に通常即日検査を実施し、それとは別に1月と6月（HIV検査普及週間）、10月に平日夜間即日検査、12月の世界エイズデーに合わせて休日即日検査を実施した。

検査はイムノクロマト法による血中抗HIV-1及びHIV-2抗体検出キットを使用して行い、本法で陽性または判定が困難であった検体については結果を判定保留とし、神奈川県衛生研究所に当該検体の精密検査を依頼した。

平成26年の検査数は460件で、内訳は通常即日検査が361件、平日夜間及び休日即日検査が各々70件及び29件であった。判定保留は3件あり、県衛生研究所の精密検査において、3件中2件が陽性と判定された。

表 藤沢市のHIV即日検査数

No	検査種類	検査数	判定保留数	陽性数
1	通常即日検査	361	1	0
2	平日夜間即日検査	70	2	2
3	休日即日検査	29	0	0
	計	460	3	2

（平井有紀、須賀顕子、松葉友美、佐藤健）

### (3) ウイルス性感染性胃腸炎

平成 26 年の神奈川県全体の感染性胃腸炎の報告数は、平成 25 年と同様に第 51 週に流行のピークがみられ、年齢別では 1～14 歳以下の報告が多かった。

#### (3) -1

#### ①神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）の感染性胃腸炎患者からの原因ウイルス検出状況

神奈川県衛生研究所

神奈川県における感染症予測監視事業の一環として、神奈川県域（川崎市、横浜市、横須賀市、相模原市および藤沢市を除く）の各小児科定点医療機関から得られた感染性胃腸炎患者の検体から原因ウイルスの検索を行った。

検索対象ウイルスは、ノロウイルス、サポウイルス、アストロウイルス、A群ロタウイルス、アデノウイルスおよびC群ロタウイルスとした。

検査の結果、219 検体中 105 検体から感染性胃腸炎の原因ウイルスが検出されその内訳は、ノロウイルスが 73 検体、アストロウイルスが 14 検体、サポウイルスが 10 検体、アデノウイルスが 6 検体およびA群ロタウイルスが 3 検体で、C群ロタウイルスは検出されなかった。年齢別にウイルスの検出状況を見ると、ノロウイルスは 0 歳から 64 歳までの各年齢層で検出されたが、ノロウイルス以外のウイルスは、6 歳以下の小児からの検出が大半を占めていた。

月別のウイルスの検出状況では、8 月を除いた月でウイルスの検出が認められた。ノロウイルスが冬季から春季に多く検出され、サポウイルスおよびアストロウイルスもノロウイルスと同時期に検出されていた。A群ロタウイルスは、2012 年より減少傾向にあるが、2011 年～2012 年にワクチンの接種がはじまり、対象者へのワクチン接種が定着してきていることが減少の要因として考えられる。

ノロウイルス 73 検体の genogroup（以下、G）をみると、G I が 1 検体、G II が 72 検体で G II は例年どおり流行していた。また、検出時期ごとに検体を無作為に選出し G II の系統樹解析を実施したところ、G II の大半が 2012 年に流行した G II/4 変異型に型別され、その他の遺伝子型として G II/6、G II/13 も見られた。複数のウイルスが同時に検出された検体は 1 検体あり、ノロウイルス G II とアストロウイルスであった。

表 1 年齢別ウイルス検出状況（平成 26 年 1 月～12 月）

	検体数	陽性検体数	検出ウイルス						検出数
			ノロウイルス	サポウイルス	アストロウイルス	A群ロタウイルス	アデノウイルス	C群ロタウイルス	
6歳以下	140	66 <sup>1)</sup>	40	5	13	3	6	0	67
7～12歳	31	17	14	2	1	0	0	0	17
13～22歳	7	3	3	3	0	0	0	0	6
23～64歳	37	9	16	0	0	0	0	0	16
65歳以上	2	0	0	0	0	0	0	0	0
不明	2	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	219	105	73	3	6	10	14	0	106

1:複数ウイルス検出(ノロウイルスGⅡ, アストロウイルス)

表 2 発病月別ウイルス検出状況

年 月	陽性数							検出数
	ノロウイルス		サポウイルス	アストロウイルス	A群ロタウイルス	アデノウイルス	C群ロタウイルス	
	GⅠ <sup>1)</sup>	GⅡ <sup>2)</sup>						
平成26年 1月	0	13	0	0	0	0	0	13
2月	0	11	0	3	0	0	0	14
3月	1	14	0	1	2	0	0	18
4月	0	5	0	2	0	0	0	7
5月	0	15 <sup>1)</sup>	1	3 <sup>1)</sup>	0	2	0	21
6月	0	4	2	4	0	1	0	11
7月	0	0	1	0	1	0	0	2
8月	0	0	0	0	0	0	0	0
9月	0	0	0	0	0	1	0	1
10月	0	0	0	1	0	1	0	1
11月	0	3	2	0	0	0	0	5
12月	0	7	4	0	0	1	0	12
小計	1	72						
合計		73	10	14	3	6	0	106

1:複数ウイルス検出(ノロウイルスGⅡ, アストロウイルス)

(鈴木理恵子、高橋淳子、金城恵子、近藤真規子、黒木俊郎)

(3) -2

平成 26 年のウイルス性集団胃腸炎の集団発生数は前年の 156 事例より減少し、130 事例であった。また、発生事例数の減少に伴い、検査件数、陽性数も減少した。

	平成24年				平成25年				平成26年			
	発生事例数 (件)	検査件数 (人)	陽性数 (人)	陽性率 (%)	発生事例数 (件)	検査件数 (人)	陽性数 (人)	陽性率 (%)	発生事例数 (件)	検査件数 (人)	陽性数 (人)	陽性率 (%)
横浜市	164	767	531	69	128	555	389	70	109	452	279	62
川崎市	15	71	48	68	10	56	39	70	9	57	49	86
相模原市	4	72	42	58	1	5	4	80	3	54	32	59
横須賀市	6	32	22	81	7	101	73	72	2	115	59	51
藤沢市	7	27	24	89	6	23	18	78	5	18	17	94
上記を除く神奈川県	10	27	27	100	4	13	12	92	2	5	4	80
計	206	996	694	70	156	753	535	71	130	701	440	63

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）のウイルスによる集団胃腸炎の検査結果

神奈川県衛生研究所

神奈川県（横浜市・川崎市・横須賀市・相模原市及び藤沢市を除く）ではウイルスを原因とする感染性胃腸炎の集団発生が 2 事例確認された。いずれの事例からもノロウイルス G II が検出された。ノロウイルス以外の集団発生は平成 21 年に C 群ロタウイルス、平成 22 年に A 群ロタウイルス（G 1）、平成 23 年には A 群ロタウイルス（G 3）による集団事例があったが、平成 26 年はノロウイルス以外の下痢症ウイルスを原因とした事例の発生はなかった。

表 神奈川県ウイルス性集団胃腸炎の検出結果

番号	発生年月	施設区分	発症者数	検査数	検出数	検出ウイルス	遺伝子群
1	H26.1	学童施設	不明	3	2	ノロウイルス	G II
2	H26.5	小学校	不明	2	2	ノロウイルス	G II

(鈴木理恵子、高橋淳子、金城恵子、近藤真規子、黒木俊郎)

## ② 横浜市のウイルスによる集団胃腸炎の検査結果

横浜市衛生研究所

平成 26 年における横浜市内で発生した感染症としての集団発生事例の取扱事例数は 109 事例であった。ノロウイルスが 92 事例より検出され、その遺伝子群は GⅡが 83 事例、GⅠが 8 例、GⅠと GⅡの混合事例が 1 事例であり、GⅡが大部分を占め全国の状況と一致していた。その他にロタウイルスが 8 事例、サポウイルスが 4 事例より検出され、さらにロタウイルスとノロウイルスの混合事例が 2 事例あった。なお、3 事例は起因ウイルス不明であった。

表 横浜市のウイルス性集団胃腸炎の検出結果

番号	発生年月	施設区分	発症者数	検査数	検出数	検出ウイルス	遺伝子群
1	H26.1	高齢者施設	5	4	1	ノロウイルス	GⅡ
2	H26.1	高齢者施設	13	3	3	ノロウイルス	GⅡ
3	H26.1	高齢者施設	26	3	3	ノロウイルス	GⅡ
4	H26.1	高齢者施設	3	6	5	ノロウイルス	GⅡ
5	H26.1	高齢者施設	不明	4	3	ノロウイルス	GⅡ
6	H26.1	病院	21	3	2	ノロウイルス	GⅡ
7	H26.1	福祉施設	不明	2	2	ノロウイルス	GⅡ
8	H26.1	保育園	6	3	3	ノロウイルス	GⅡ
9	H26.1	小学校	23	5	5	ノロウイルス	GⅡ
10	H26.1	小学校	17	3	2	ノロウイルス	GⅡ
11	H26.1	高齢者施設	19	3	3	ノロウイルス	GⅡ
12	H26.1	高齢者施設	9	8	8	ノロウイルス	GⅡ
13	H26.1	保育園	16	3	3	ノロウイルス	GⅡ
14	H26.1	保育園	52	2	2	ノロウイルス	GⅡ
15	H26.1	幼稚園	47	5	5	ノロウイルス	GⅡ
16	H26.1	高齢者施設	8	9	1	ノロウイルス	GⅡ
17	H26.1	高齢者施設	8	3	1	ノロウイルス	GⅡ
18	H26.1	小学校	15	4	4	ノロウイルス	GⅡ
19	H26.1	その他	14	3	3	ノロウイルス	GⅡ
20	H26.1	高齢者施設	12	5	5	ノロウイルス	GⅡ
21	H26.1	高齢者施設	4	1	1	ノロウイルス	GⅡ
22	H26.1	保育園	3	3	3	ノロウイルス	GⅡ
23	H26.1	小学校	10	4	4	ノロウイルス	GⅡ
24	H26.1	高齢者施設	7	2	2	ノロウイルス	GⅡ
25	H26.1	福祉施設	15	14	5	ノロウイルス	GⅡ
26	H26.1	小学校	8	4	4	ノロウイルス	GⅡ
27	H26.1	小学校	89	21	13	ノロウイルス	GⅡ
28	H26.1	保育園	13	1	1	ノロウイルス	GⅡ
29	H26.1	小学校	9	2	2	ノロウイルス	GⅡ

30	H26. 2	保育園	12	2	2	ノロウイルス	G II
31	H26. 2	小学校	6	2	1	ノロウイルス	G II
32	H26. 2	病院	24	3	2	ノロウイルス	G II
33	H26. 2	病院	1	10	4	ノロウイルス	G II
34	H26. 2	小学校	9	3	3	ノロウイルス	G I
35	H26. 2	高齢者施設	4	2	2	ノロウイルス	G II
36	H26. 2	高齢者施設	7	2	2	ノロウイルス	G II
37	H26. 2	小学校	5	1	1	ノロウイルス	G II
38	H26. 2	小学校	6	3	3	ノロウイルス	G II
39	H26. 2	小学校	24	2	2	ノロウイルス	G II
40	H26. 2	保育園	15	8	5	ノロウイルス	G II
41	H26. 2	小学校	14	3	3	ノロウイルス	G II
42	H26. 3	高齢者施設	7	4	4	ノロウイルス	G II
43	H26. 3	小学校	不明	3	3	ノロウイルス	G II
44	H26. 3	高齢者施設	10	2	2	ノロウイルス	G II
45	H26. 3	小学校	不明	2	2	ノロウイルス	G I、G II
46	H26. 3	保育園	不明	3	3	ノロウイルス	G II
47	H26. 4	高齢者施設	34	12	4	ノロウイルス	G II
48	H26. 4	保育園	不明	3	3	ノロウイルス	G II
49	H26. 4	福祉施設	12	8	0	ロタウイルス	
50	H26. 4	保育園	不明	3	0	ロタウイルス	
51	H26. 4	保育園	不明	3	0	ロタウイルス	
52	H26. 4	保育園	不明	5	1	ノロウイルス、ロタウイルス	
53	H26. 4	その他	20	11	0	サポウイルス	
54	H26. 4	保育園	5	1	0	ロタウイルス	
55	H26. 4	保育園	23	2	0	ロタウイルス	
56	H26. 4	保育園	13	3	0	ロタウイルス	
57	H26. 4	幼稚園	30	5	4	ノロウイルス、ロタウイルス	
58	H26. 4	保育園	13	3	3	ノロウイルス	G II
59	H26. 4	保育園	10	4	0	ロタウイルス	
60	H26. 4	小学校	不明	3	3	ノロウイルス	G II
61	H26. 5	保育園	10	4	4	ノロウイルス	G II
62	H26. 5	小学校	9	8	5	ノロウイルス	G II
63	H26. 5	保育園	不明	3	0	ロタウイルス	
64	H26. 5	小学校	不明	3	1	ノロウイルス	G I
65	H26. 5	保育園	不明	2	2	ノロウイルス	G II
66	H26. 5	小学校	13	2	2	ノロウイルス	G II
67	H26. 5	小学校	22	5	5	ノロウイルス	G I

68	H26. 5	保育園	18	5	1	ノロウイルス	G I
69	H26. 5	小学校	10	3	2	ノロウイルス	G II
70	H26. 5	小学校	不明	6	2	ノロウイルス	G II
71	H26. 6	小学校	不明	2	2	ノロウイルス	G II
72	H26. 6	保育園	不明	4	2	ノロウイルス	G II
73	H26. 9	保育園	19	2	2	ノロウイルス	G II
74	H26. 10	小学校	76	17	2	ノロウイルス	G I
75	H26. 10	保育園	20	4	0	サポウイルス	
76	H26. 10	小学校	56	5	5	ノロウイルス	G I
77	H26. 10	小学校	18	13	3	ノロウイルス	G I
78	H26. 11	保育園	15	4	1	ノロウイルス	G II
79	H26. 11	小学校	32	4	0	サポウイルス	
80	H26. 11	幼稚園	35	5	5	ノロウイルス	G II
81	H26. 11	小学校	89	11	0	サポウイルス	
82	H26. 11	保育園	26	4	3	ノロウイルス	G II
83	H26. 11	その他	17	1	1	ノロウイルス	G II
84	H26. 11	保育園	32	3	3	ノロウイルス	G II
85	H26. 12	高齢者施設	9	2	2	ノロウイルス	G I
86	H26. 12	保育園	16	3	2	ノロウイルス	G II
87	H26. 12	保育園	11	3	3	ノロウイルス	G II
88	H26. 12	高齢者施設	5	5	5	ノロウイルス	G II
89	H26. 12	高齢者施設	13	3	2	ノロウイルス	G II
90	H26. 12	保育園	7	5	5	ノロウイルス	G II
91	H26. 12	保育園	6	2	2	ノロウイルス	G II
92	H26. 12	その他	不明	4	4	ノロウイルス	G II
93	H26. 12	保育園	18	3	3	ノロウイルス	G II
94	H26. 12	高齢者施設	9	3	2	ノロウイルス	G II
95	H26. 12	保育園	22	5	5	ノロウイルス	G II
96	H26. 12	高齢者施設	17	5	3	ノロウイルス	G II
97	H26. 12	保育園	16	7	6	ノロウイルス	G II
98	H26. 12	保育園	8	6	6	ノロウイルス	G II
99	H26. 12	保育園	11	4	2	ノロウイルス	G II
100	H26. 12	保育園	14	2	2	ノロウイルス	G II
101	H26. 12	保育園	15	2	2	ノロウイルス	G II
102	H26. 12	高齢者施設	8	2	2	ノロウイルス	G II
103	H26. 12	保育園	9	3	3	ノロウイルス	G II
104	H26. 12	保育園	24	3	2	ノロウイルス	G II
105	H26. 12	高齢者施設	5	1	1	ノロウイルス	G II

106	H26.12	保育園	13	5	1	ノロウイルス	GⅡ
				452	279		

(熊崎真琴、小澤広規、宇宿秀三、森田昌弘)

### ③ 川崎市のウイルスによる集団胃腸炎の検査結果

川崎市健康安全研究所

川崎市ではウイルスを原因とする感染性胃腸炎の集団発生が9事例確認された。その内訳はノロウイルス7事例、ロタウイルス1事例、サポウイルス1事例であった。例年に比べて、高齢者福祉施設でのノロウイルスの集団発生は少なかった。

表 川崎市のウイルス性集団胃腸炎の検出結果

番号	発生年	施設区	発症者	検査	検出	検出ウイルス	遺伝子
1	H26.	福祉施設	26	3	3	ノロウイルス	GⅡ
2	H26.	高齢者福祉施	7	2	2	ノロウイルス	GⅡ
3	H26.	保育園	27	4	3	ロタウイルス	
4	H26.	保 育	32	6	4	サポウイルス	
5	H26.	保 育	44	28	23	ノロウイルス	GⅡ
6	H26.1	保 育	31	5	5	ノロウイルス	GⅡ
7	H26.1	保 育	31	3	3	ノロウイルス	GⅡ
8		保 育	50	4	4	ノロウイルス	GⅡ
9		高齢者福祉施	43	2	2	ノロウイルス	GⅡ

(石川真理子、清水英明)

### ④ 相模原市のウイルスによる集団胃腸炎の検査結果

相模原市衛生試験所

相模原市では、ノロウイルスを原因とした食中毒が3例（検出数32）報告された。検出された遺伝子群はすべてGⅡであった。

表 相模原市のウイルス性集団胃腸炎の検査結果（平成26年）

番号	発生年月	施設区分	発症者数	検査数	検出数	検出ウイルス	遺伝子群
1	H26.1	飲食店	15	23	8	ノロウイルス	GⅡ
2	H26.11	飲食店	44	18	13	ノロウイルス	GⅡ
3	H26.12	飲食店	12	13	11	ノロウイルス	GⅡ

(鈴木敏彦、鷺谷則子、荒川小夜子、望月響子)

### ⑤ 横須賀市のウイルスによる集団胃腸炎の検査結果

横須賀市健康安全科学センター

横須賀市では平成26年1月から12月の間において、ノロウイルスが原因の集団胃腸炎が2事例発生した。遺伝子群はGⅡであった。

表 横須賀市のウイルス性集団胃腸炎の検出結果（平成26年）

番号	発生年月	施設区分	発症者数	検査数	検出数	検出ウイルス	遺伝子群
1	H26.1	飲食店	96	54	35	ノロウイルス	GⅡ
2	H26.11	学校	21	61	24	ノロウイルス	GⅡ
計			117	115	59		

(天野 肇)

### ⑥ 藤沢市のウイルスによる集団胃腸炎の検査結果

藤沢市保健所

平成26年1月から12月の間に、ノロウイルスによる集団胃腸炎が5例発生した。いずれも施設内での感染が疑われた事例で、検出数は17件で遺伝子群はすべてGⅡであった。

表 藤沢市のウイルス性集団胃腸炎の検出結果

No	発症月日	施設区分	発症者数	検査数	検出数	検出ウイルス	遺伝子群
1	H26.1	高齢者施設	19	1	1	ノロウイルス	GⅡ
2	H26.2	小学校	15	7	7	ノロウイルス	GⅡ
3	H26.3	保育園	46	2	2	ノロウイルス	GⅡ
4	H26.6	保育園	15	5	5	ノロウイルス	GⅡ
5	H26.11	保育園	18	3	2	ノロウイルス	GⅡ
計			113	18	17		

(平井有紀、須賀顕子、松葉友美、佐藤健)

#### (4) 手足口病、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱、無菌性髄膜炎

##### ① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市及び横須賀市を除く）の検出状況

神奈川県衛生研究所

###### <手足口病>

病原体定点医療機関で採取された手足口病患者検体 40 例についてウイルス分離検査および遺伝子検査を実施したところ、17 例から 18 株のウイルスを分離・同定した。その内訳は、コクサッキーウイルス (C) A16 型 9 株、CA4 型 5 株、CA6 型 2 株、CA10 型 1 株、パレコウイルス 3 型 1 株であった。このうち同一患者検体から CA4 型と CA16 型が重複して検出された例が 1 例あった。検出が最も多かった CA16 型は 9 月以降 12 月まで検出された。

###### <ヘルパンギーナ>

病原体定点医療機関で採取されたヘルパンギーナ患者検体 50 例についてウイルス分離検査および遺伝子検査を実施したところ、42 例から 43 株のウイルスを分離・同定した。その内訳は、コクサッキーウイルス (C) A4 型 29 株、CA10 型 6 株、CA5 型 3 株、CA2 型 1 株、CA6 型 1 株、CA8 型 1 株、CB4 型 1 株、ライノウイルス 1 株であった。このうち同一患者検体から CA6 型とライノウイルスが重複して検出された例が 1 例あった。平成 26 年は CA4 型が最も多く、29 株中 25 株は 7 月に集中して検出された。

###### <咽頭結膜熱>

病原体定点医療機関で採取された咽頭結膜熱患者検体 52 例についてウイルス分離検査を実施したところ、47 例から 49 株のウイルスが検出された。最も多く検出されたウイルスは、アデノウイルス (Ad)3 型 23 株で、その他 Ad1 型 11 株、Ad2 型 8 株、Ad4 型 2 株、Ad5 型 1 株、Ad6 型 1 株、パレコウイルス 1 型 1 株、パレコウイルス 3 型 1 株およびライノウイルスが 1 株検出された。このうち同一患者検体から重複して検出された例が 2 例あり、Ad1 型とパレコウイルス 3 型が 1 例、パレコウイルス 1 型とライノウイルスが 1 例あった。咽頭結膜熱は例年夏に流行するが、平成 26 年度は Ad3 型が年間を通じて検出され、しかも 12 月の検出が 8 株と年間で最も多かった。

###### <無菌性髄膜炎>

病原体定点医療機関で採取された無菌性髄膜炎患者検体 26 例についてウイルス分離検査および遺伝子検査を実施したところ、16 例から 18 株のウイルスを分離、同定した。その内訳は、パレコウイルス 3 型が 11 株、コクサッキーウイルス (C) 4 型が 2 株、ライノウイルスが 2 株、エコーウイルス (E) 16 型が 1 株、E30 型が 1 株、サイトメガロウイルスが 1 株であった。このうち同一患者検体から重複して検出された例が 2 例あり、パレコウイルス 3 型と CA4 型が 1 例、パレコウイルス 3 型とサイトメガロウイルスが 1 例であった。平成 26 年夏季に全国的なパレコウイルス 3 型の流行が報告されたが、神奈川県でも流行が確認された。

(伊達佳美、佐野貴子、渡邊寿美、近藤真規子、黒木俊郎)

## ② 川崎市の検出状況

川崎市健康安全研究所

### <手足口病>

病原体定点医療機関で採取された手足口病患者検体 8 例についてウイルス分離ならびに PCR 検査を実施したところ、5 例からウイルスが検出された。その内訳はコクサッキーウイルス (C) A5 型 1 株、CA6 型 1 株、CA16 型 1 株、エンテロウイルス 71 型 2 株であった。

### <ヘルパンギーナ>

病原体定点医療機関で採取されたヘルパンギーナ患者検体 8 例についてウイルス分離ならびに PCR 検査を実施したところ、7 例からウイルスが検出された。その内訳はコクサッキーウイルス (C) A4 型 6 株、CA8 型 1 株であった。

### <咽頭結膜熱>

病原体定点医療機関で採取された咽頭結膜熱患者検体 4 例についてウイルス分離検査ならびに PCR 検査を実施したところ、3 例からウイルスが検出された。その内訳はアデノウイルス 3 型 2 株、アデノウイルス 4 型 1 株であった。

(松島勇紀、清水英明)

## (5) 蚊媒介感染症

### ① 横浜市のウエストナイル熱等媒介蚊のサーベイランス

横浜市衛生研究所

米国におけるウエストナイルウイルスの流行に伴い、横浜市は行政的な防疫対策として死亡鳥類と蚊を用いたウエストナイルウイルスのサーベイランス事業を平成 15 年 7 月 15 日から実施している。

本年度の死亡鳥類の検査はなかった。

デングウイルスやウエストナイルウイルス、日本脳炎ウイルス、チクングニアウイルスなど、蚊を媒介とするウイルスによる感染症のサーベイランス事業は、平成 23 年度より横浜市内 18 区 19 ヶ所の公園にドライアイス併用のライトトラップを設置し、開始した。

採集方法は、夕方にライトトラップを設置し、翌日の朝に採集された蚊を回収した。公園内での一連のライトトラップの設置、蚊の回収、当所への検体の搬送に関しては、横浜市各区福祉保健センター生活衛生課と協力して実施した。平成 26 年度の蚊の採集期間は、6 月 17 日から 10 月 8 日までで、19 ヶ所の公園・事業所において、8 回ずつ採集した。検査した蚊雌成虫の総個体数は、6,995 匹であった。蚊の種類別ではアカイエカ群 1,145 匹、ヒトスジシマカ 5,548 匹、コガタアカイエカ 17 匹、ヤマトヤブカ 63 匹、オオクロヤブカ 18 匹、キンパラナガハシカ 157 匹、その他 47 匹であった。また、デングウイルスやウエストナイルウイルス、日本脳炎ウイルスを含むフラビウイルス遺伝子、チクングニアウイルス遺伝子は、全て不検出であった。

本年度のデング熱国内感染では、横浜市内でも感染者が報告され、市内公園に診断前に行き蚊に刺されたとの事例があった。そのため、対象公園の一部で蚊の採集を 4 回実施した。ヒトスジシマカの雌成虫が合計 370 匹採集されたが、デングウイルス遺伝子検査の結果は陰性であった。

表 横浜市の蚊媒介感染症サーベイランス検査結果

		回数	1	2	3	4	5	6	7	8	総計
区名	トラップ設置場所	匹数	匹数	匹数	匹数	匹数	匹数	匹数	匹数	匹数	
1	鶴見	大黒中央公園	139	193	221	100	73	28	105	111	970
2	神奈川	三ツ沢公園	12	7	111	23	13	14	21	96	297
3	西	掃部山公園	55	72	217	474	260	366	235	132	1,811
4	中	シンボルタワー	33	51	9	0	10	0	0	0	103
5	南	蒔田の森公園	17	12	33	165	118	31	69	16	461
6	港南	久良岐公園	12	7	57	9	13	26	47	23	194
7	保土ヶ谷	陣ヶ下溪谷公園	2	41	142	11	15	58	76	18	363
8	旭	こども自然公園	1	35	70	2	50	140	25	15	338
9	磯子	岡村公園	49	115	172	60	63	88	80	12	639
10	金沢	長浜公園	16	7	46	14	20	33	24	9	169
11	港北	大倉山公園	9	28	91	29	32	16	25	36	266
12	緑	北八朔公園	5	18	47	17	52	69	52	12	272
13	青葉	青葉区役所	2	9	9	1	9	5	4	6	45
14	都筑	都筑中央公園	5	30	119	49	19	10	12	8	252
15	戸塚	舞岡公園	2	8	5	17	7	1	2	1	43
16	栄	小菅ヶ谷北公園	2	9	23	21	13	10	3	11	92
17	泉	泉中央公園	2	13	12	30	17	5	26	6	111
18	瀬谷	二ツ橋南公園	3	5	38	27	38	16	19	5	151
19	鶴見	馬場花木園	29	27	63	13	32	78	95	81	418
総計			395	687	1,485	1,062	854	994	920	598	6,995
蚊の種類			1	2	3	4	5	6	7	8	
アカイエカ群			241	314	172	66	76	54	90	132	1,145
ヒトスジシマカ			144	341	1,270	958	735	917	769	414	5,548
コガタアカイエカ			0	2	2	0	2	1	6	4	17
ヤマトヤブカ			3	9	8	12	7	4	12	8	63
オオクロヤブカ			2	2	5	2	1	0	6	0	18
キンパラナガハシカ			4	17	23	6	20	16	35	36	157
その他 (*)			1	2	5	18	13	2	2	4	47
総計			395	687	1,485	1,062	854	994	920	598	6,995
ウイルス遺伝子の検出結果			1	2	3	4	5	6	7	8	
フラビウイルス			(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
チクングニアウイルス			(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	

(\*)その他には、カラツイエカ、フタクロホシチビカ等が含まれています。

(林 宏子、清水耕平、伊藤真弓、小曾根恵子、宇宿秀三、森田昌弘)

## ② 川崎市のウエストナイル熱等媒介蚊のサーベイランス

川崎市健康安全研究所

市内7箇所の保健所にライトトラップを設置し、平成26年6月から9月まで蚊を毎週1回捕集した。種別した雌蚊117プールについてウエストナイルウイルスの保有状況を、また、ヤブカ属の蚊65プールについてはデングウイルス及びチクングニヤウイルスの保有状況も併せて調査した。その結果、ウイルス遺伝子は検出されなかった。

表 川崎市のWNVサーベイランス調査における蚊の月別及び種別採取数

採取月（プール数）	6月	7月	8月	9月	総計
川崎保健所	4	4	1	5	14
幸保健所	5	5	3	3	16
中原保健所	3	5	3	2	13
高津保健所	5	5	6	10	26
宮前保健所	6	4	9	5	24
多摩保健所	0	3	2	1	6
麻生保健所	6	4	5	3	18
合計	29	30	29	29	117
蚊の種類					
アカイエカ群	72	71	32	17	192
ヒトスジシマカ	37	126	532	752	1447
ヤマトヤブカ	0	0	0	2	2
キンパラナガハシカ	0	0	0	2	2
総計	109	197	564	773	1643
ウイルス遺伝子の検出結果					
ウエストナイルウイルス 遺伝子の検出結果	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性
デングウイルス 遺伝子の検出結果	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性
チクングニヤウイルス 遺伝子の検出結果	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性

(駒根綾子、清水英明)

### ③ 横須賀市のウエストナイル熱等媒介蚊のサーベイランス

横須賀市健康安全科学センター

ウエストナイル熱等媒介蚊の調査として平成26年6月より9月まで計4回実施した。設置場所は三笠公園敷地内及び動物愛護センター敷地内とし、蚊を捕獲(ドライアイス併用CDC型ライトトラップ法)、分類した後、RT-PCR法によるウエストナイルウイルス遺伝子検査、デングウイルス遺伝子検査及びチクングニアウイルス遺伝子検査を実施した。結果は、表に示すとおり捕獲した128匹の蚊(イエカ類15匹、ヤブカ類113匹)からウエストナイルウイルス、デングウイルス及びチクングニアウイルスの遺伝子は検出されなかった。

表 ウエストナイル熱等媒介蚊検査結果(平成26年)

設置回数		1	2	3	4	総計(匹)
設置月		6月	7月	8月	9月	
設置場所	三笠公園	6	13	29	17	65
	動物愛護センター	22	17	20	4	63
総計		28	30	49	21	128
内訳	イエカ類	5	8	2	0	15
	ヤブカ類	23	22	47	21	113
ウエストナイルウイルス遺伝子検査結果		陰性	陰性	陰性	陰性	陰性
デングウイルス遺伝子検査結果		陰性	陰性	陰性	陰性	陰性
チクングニアウイルス遺伝子検査結果		陰性	陰性	陰性	陰性	陰性

(山口純子)

## (6) その他のウイルス性感染症

### (6)-1

#### ① 神奈川県日本脳炎感染源調査

神奈川県衛生研究所

わが国の日本脳炎患者数は、1950年代には年間数千人の発生があったが、1967年から1976年に実施された積極的なワクチン接種により患者は急速に減少し、1980年代には年間数十人となった。1992年以降は毎年10名以下の患者発生に留まり、患者発生地域は西日本に集中している。ブタは日本脳炎ウイルスに対する感受性が高く日本脳炎ウイルスの主要な増幅動物とされ、ブタ体内で増殖したウイルスは、蚊の吸血行動によりヒトや他の動物へ感染する。日本脳炎ウイルスの侵淫状況を把握し、ヒトへの感染予防の注意を促すため県内産の豚について日本脳炎ウイルスの抗体保有状況を調査した。

神奈川県食肉センターに持ち込まれた生後5～8ヵ月齢の県内産の豚を対象に、平成26年7月から9月までの期間に、8回、20頭ずつ、計160頭について、血中のJaGAr01株に対する血球凝集抑制抗体及び2-メルカプトエタノール感受性抗体をそれぞれ測定した。その結果、今年度は血球凝集抑制抗体および2-メルカプトエタノール感受性抗体は検出されず、県内における日本脳炎ウイルスの活動は確認されなかった。県内では平成26年度も患者発生はなかったが、西日本では例年同様に豚の日本脳炎ウイルス抗体保有率が高く、患者発生報告があることから、引き続き豚の日本脳炎ウイルスの抗体保有状況調査を行い、日本脳炎ウイルスの侵淫度について追跡する必要があると思われる。

(鈴木理恵子、高橋淳子、金城恵子、近藤真規子、黒木俊郎)

### (6)-2

#### ① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市及び横須賀市を除く）の麻疹疑い患者からの麻疹ウイルス検出状況

神奈川県衛生研究所

神奈川県（横浜市、川崎市、横須賀市、相模原市を除く）では国の通知に基づき、麻疹疑い例報告についてPCR検査を実施している。2014年に当所に搬入された麻疹疑い報告58例について麻疹ウイルス遺伝子の検査を実施したところ20例（1月、2月、3月各1例、5月、6月各2例、7月8例、8月3例、11月2例）から麻疹ウイルスが検出された。検出された麻疹ウイルスについて系統樹解析を行ったところ、B3型が5例、D8型が15例であった。両型とも海外での輸入感染後、国内での二次感染により拡大したものと考えられた。

麻疹ウイルス遺伝子が検出されなかった38例について、麻疹と臨床症状の類似した風疹ウイルスについてPCR検査を行い、38例中1例から風疹ウイルスが検出され、遺伝子型は2B型であった。神奈川県では2011年から2B型が検出されていたが、2013年には西日本を中心として全国的な流行がみられ定着していると思われたが、2014年は患者数が減少した。

(鈴木理恵子、金城恵子、高橋淳子、近藤真規子、黒木俊郎)

## ② 川崎市の麻疹ウイルス検出状況

川崎市健康安全研究所

平成 26 年に川崎市内の医療機関において麻しんと診断された 27 例について麻しんウイルス遺伝子検査を行ったところ、11 例（1 月 3 例、2 月・3 月・5 月各 2 例、4 月・6 月各 1 例）から麻しんウイルス遺伝子が検出された。遺伝子型別では B3 が 4 例、D8 が 4 例、D9 が 3 例であった。年初は海外渡航者あるいはその接触者からの感染が認められたが、感染拡大には至らず、6 月以降は麻しんが疑われる患者から麻しんウイルス遺伝子は検出されなかった。また、2 月に麻しんウイルス陰性の患者について風しんウイルス遺伝子検査を行ったところ、風しんウイルス 2B が検出された。

（松島勇紀、清水英明）

## ③ 相模原市の麻疹ウイルス検出状況

相模原市衛生試験所

平成 26 年に相模原市内の医療機関において麻しんと臨床診断された 15 例のべ 32 検体について麻疹ウイルス遺伝子検査を実施し、麻疹ウイルス遺伝子が 2 例から検出された。その 2 例は 1 事例の兄弟 2 名から検出され、麻疹ウイルスの遺伝子型はフィリピン等東南アジアを中心とした流行型である B3 型であった。2 名はフィリピンに渡航歴があり、海外輸入例と推定された。なお、追加検査として麻疹ウイルス陰性の検体において風疹ウイルス遺伝子検査を実施したが、風疹ウイルスは検出されなかった。

（鈴木敏彦、鷲谷則子、荒川小夜子、望月響子）

### (6)-3

## ① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市及び横須賀市を除く）の麻疹ウイルス抗体保有状況

神奈川県衛生研究所

麻疹流行の予測とその推移を知るため、住民の麻疹ウイルスに対する感受性の実態を把握しておくことは重要である。平成 26 年 7 月に採取された小児（0～14 歳以下）119 名および 15 歳以上の一般健康人 241 人の血清計 360 例について麻疹ウイルス抗原を吸着したゼラチン粒子による凝集反応（PA）法で麻疹ウイルスに対する抗体の測定を行った。

年齢別に PA 抗体価 1：16 以上の抗体保有率をみると、麻疹ワクチン接種前の 1 歳未満の乳児の抗体保有率は 46.7%であった。このうち生後 5 ヶ月以下の抗体保有率は 60.0%で、これらは母子移行抗体と考えられた。6 ヶ月～12 ヶ月齢では移行抗体は減衰し、抗体保有率は 20.0%に低下した。

第 1 期のワクチン接種対象年齢を含む 1 歳～4 歳の年齢群の抗体保有率は 87.0%であったが、ワクチン接種開始年齢である 1 歳児の抗体保有率は 73.3%と低く、2 歳～4 歳では 92.3%と高くなっていた。第 2 期のワクチン接種対象年齢を含む 5 歳～9 歳の年齢群の抗体保有率は 100%となり、第 1 期、第 2 期とワクチンを 2 回接種することで、抗体保有率が高くなっている。しかし、2014 年に 10 歳から 24 歳に達した年齢群は、2012 年までの麻疹排除計画により 2 回のワクチン接種機会があった年齢層にも関わらず、10 歳～14 歳の年齢群の抗体保有率は 72.4%、15 歳～19 歳の年齢群では 93.5%、20 歳～24 歳では 90.0%であった。25 歳以上の群では 83.9%～96.7%、全年齢層の平均抗体保有率は 87.2%で、昨年の 90.7%、一昨年の 96.8%と比較すると、茅ヶ崎市民病院における抗体保有率は調査開始以降、低下が続いている。

全国の2013年度感染症流行予測調査の報告（速報）では、抗体価1：16以上では全体の抗体保有率が95%で高い抗体保有率が維持されているが、神奈川県における抗体保有率は2年連続して全国平均を下回っている。また、発症予防可能レベルである1：128以上の抗体保有者は全年齢層で67.8%、抗体陰性者および発症予防可能レベルに満たない抗体保有者は32.2%であった。

「麻疹に関する特定感染症予防指針」の告示効果もあり、患者報告数は減少し、2006年頃日本国内で流行していた遺伝子型はここ数年検出されていないが、海外渡航者により麻疹が国内に持ち込まれ、国内で二次感染を起こす事例が増加している。2014年5月初旬、東京都で海外輸入例の発生後、東京近郊において二次感染が拡大し、神奈川県域では13名の患者が発生した。このような二次感染は抗体陰性者や発症予防可能レベルに満たない抗体保有者を中心に広まったと考えられ、国内での二次感染を防ぐために、ワクチン接種による抗体保有率を上昇させることが重要である。今後も継続して麻疹ウイルスに対する抗体保有状況の把握を行い、予防接種の必要性和麻疹に関する適切な知識を普及させることが重要と思われる。

表 麻疹ウイルス抗体保有状況（平成26年7月）

年齢	抗体価		PA抗体価							検査数 (人)	抗体 保有率 (%)	2013年 抗体保有率 (%)	
	<16	16	32	64	128	256	512	1024	≥2048				
1歳未満	8	1		2		2	1			1	15	46.7	57.1
1～4歳	7	2			5	11	8	11		10	54	87.0	86.0
5～9歳		1	2	4	5	2	2	3		2	21	100.0	100.0
10～14歳	8	3	3	3	2	5	4	1		0	29	72.4	85.0
15～19歳	2		2	1	4	9	6	3		4	31	93.5	96.7
20～24歳	3	3	1	1	5	4	6	2		5	30	90.0	92.9
25～29歳	5	1		2	1	10	6	3		3	31	83.9	92.9
30～34歳	3	3	4	2	7	4	3	2		1	29	89.7	86.2
35～39歳	3		2	3	10	4	4	2		3	31	90.3	100.0
40～49歳	1	4	2	3	6	5	2	4		3	30	96.7	83.9
50～59歳	2		4	4	4	1	3	5		7	30	93.3	96.6
60歳以上	4		5	2	3	9	1	1		4	29	86.2	96.7
計	46	18	25	27	52	66	46	37		43	360	87.2	90.7

(鈴木理恵子、金城恵子、近藤真規子、黒木俊郎)

(6)-4

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）の風疹ウイルス抗体保有状況

神奈川県衛生研究所

風疹流行の予測とその推移を知るため、住民の風疹ウイルスに対する感受性の実態を把握しておくことは重要である。平成 26 年においては、一般健康人男女 359 名を対象として、風疹ウイルスに対する赤血球凝集抑制抗体の測定を行った。

年齢別に HI 抗体価 1：8 以上の抗体保有率をみると、風疹ワクチン接種前の 1 歳未満の乳児の抗体保有率は 53.3%であった。1 歳未満の乳児のうち生後 5 ヶ月以下の抗体保有率は 70.0%で、これらは母子移行抗体と考えられた。6 ヶ月～12 ヶ月齢では移行抗体は減衰し、抗体保有率は 20.0%に低下した。

ワクチン接種対象年齢を含む 1 歳～4 歳の年齢群では 74.1%が抗体を保有し、ワクチン接種開始年齢である 1 歳児の抗体保有率は 66.7%、2 歳～4 歳では 76.9%と高くなっていた。5 歳～9 歳では 90.5%、10 歳～14 歳では 69.0%、15 歳～19 歳では 93.3%であった。

ワクチン対象年齢群以外では、昨年と同様に 20 歳～24 歳で抗体保有率が 69.0%と最も低く、25 歳以上の群では 83.3%～93.3%となり、全年齢層の平均抗体保有率は 81.3%で、昨年の 88.3%と比べ低下している。

男女間の抗体保有率をみると男性は 75.0%、女性は 87.7%と女性の抗体保有率は高く、女性の 5 歳から 9 歳、35 歳から 49 歳の年齢層での抗体保有率は 100%であった。

全国の「感染症流行予測調査報告書（2012 年度）」によると、30 歳から 50 歳未満の男性の抗体保有率は 80%前後で、女性と比べ低いと報告されていたが、今回の調査をでも同様の傾向が見られた。抗体保有率の低い年齢層は今後の感染と流行の主体になると考えられ、これらの年齢層の抗体保有状況の推移を監視するとともに、妊娠前および妊娠可能年齢層への風疹ワクチン接種を継続して奨励する必要があると思われる。

表 風疹ウイルス抗体保有状況（平成 26 年 7 月）

年齢	抗体価		HI抗体価							検査数 (人)	抗体 保有率 (%)	2013年 抗体保有率 (%)
	<8	8	16	32	64	128	256	512	≥1024			
1歳未満	7	2		4		1	1			15	53.3	57.1
1～4歳	14	5	5	10	11	9				54	74.1	86.0
5～9歳	2	4	4	7	3	1				21	90.5	96.0
10～14歳	9	18	1		1					29	69.0	90.0
15～19歳	2	9	8	9	1	1				30	93.3	96.7
20～24歳	9	6	3	7	1	1	2			29	69.0	71.4
25～29歳	3	2	7	6	7	2	4			31	90.3	89.3
30～34歳	4	3	4	5	7	4		2		29	86.2	96.6
35～39歳	6	5	2	9	3	5	1			31	80.6	92.0
40～49歳	4	3	6	4	8	3	1	1		30	86.7	90.3
50～59歳	2	1	4	7	5	8	3			30	93.3	86.2
60歳以上	5	3	5	5	5	1	3	2	1	30	83.3	93.3
計	67	61	49	73	52	36	15	5	1	359	81.3	88.3

(鈴木理恵子、金城恵子、近藤真規子、黒木俊郎)

(6)-5

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）のデングウイルス検出状況

神奈川県衛生研究所

神奈川県（横浜市、川崎市、横須賀市、相模原市を除く）では、デング熱疑い患者発生に伴い、デングウイルス抗原検査および PCR 検査を実施している。2014 年に当所に搬入されたデング熱疑い症例 41 例（海外渡航例 6 例、国内例 35 例）についてデングウイルス非構造蛋白抗原（NS1）検査および PCR 法による遺伝子の検査を実施した。抗原陽性および遺伝子検出例は 4 例（海外渡航例 1 例、国内例 3 例）で、いずれも血清型は D1 型であった。感染推定地は、海外渡航例がマレーシア、国内例はいずれも東京都であった。

（鈴木理恵子、近藤真規子、黒木俊郎）

## 2 細菌性感染症

### (1) 腸チフス・パラチフス

#### ① 神奈川県(横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く)のチフス菌等のフェージ型別結果

神奈川県衛生研究所

平成 26 年 1 月～12 月の間、神奈川県ではチフス菌感染事例が 1 件、パラチフス A 菌感染事例が 1 件報告された。患者の海外渡航先は、チフス菌の 1 事例はミャンマー、パラチフス A 菌の 1 事例はパキスタン国籍の滞在者であった。

表 平成 26 年に分離されたチフス菌およびパラチフス A 菌

所轄保健福祉事務所 センター	分離菌	フェージ型	患者性別	患者年齢	渡航歴
秦 野	チフス菌	A	男	50	ミャンマー
秦 野	パラチフスA菌	UT	男	52	パキスタン国籍

(古川一郎、鈴木美雪、石原ともえ)

#### ② 横浜市のチフス菌等のフェージ型別結果

横浜市衛生研究所

平成 26 年 1 月～12 月の間に横浜市内で分離されたチフス菌は 1 件であり、パラチフス A 菌は検出されなかった。海外渡航先等患者情報とフェージ型別内訳は表に示したとおりである。

表 チフス菌、パラチフスA菌のフェージ型

番号	分離月日	性別	年齢	疾病名	フェージ型	渡航歴
1	H26. 10. 14	男	43	腸チフス	A	ミャンマー

(松本裕子、山田三紀子、太田嘉)

#### ③ 川崎市のチフス菌等のフェージ型別結果

川崎市衛生研究所

平成 26 年 1 月～12 月の間に川崎市内で分離されたチフス菌は 1 件であった。チフスを発症した 1 名はタイへの渡航歴があった。患者情報とフェージ型別内訳は表に示したとおりである。

表 チフス菌のフェージ型

番号	発症日	性別	年齢	菌種	フェージ型	渡航先
1	H. 26. 6. 30	男	34	腸チフス	E1	タイ

(本間幸子 湯澤栄子 窪村亜希子 小河内麻衣 佐藤弘康)

## (2) 細菌性腸管系感染症

### ① 神奈川県(横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く)の腸管出血性大腸菌検出状況

神奈川県衛生研究所

平成 26 年 1 月から 12 月における腸管出血性大腸菌 (*Enterohemorrhagic Escherichia coli*: EHEC) の分離状況を以下の表に示した。EHEC の受領株数および接触者検便で分離された株数は、0157 が 41 株、026 が 8 株、0103 が 1 株、0111 が 1 株、0121 が 3 株の計 54 株であった。表に所轄保健福祉事務所の分離株数と毒素型を示した。すべての菌株について PFGE パターンを比較し、さらに 0157 については IS-printing によりパターンを比較した結果、同じ起源と考えられる 0157 の菌株グループが複数確認されたが、いずれも聞き取り調査の結果からは関連性を確認することはできなかった。

今年度から、国立感染症研究所において広域にわたる感染拡大調査のために、PFGE に代わって MLVA を用いた遺伝子解析が実施されており、平成 26 年は他の多くの自治体の菌株と MLVA パターンが一致する事例が多数報告されたが、相互の関連性は解明されていない。

表 所轄保健福祉事務所(センター)からの EHEC 受領状況

所轄保健福祉事務所 センター	0157			026		0103	0111	0121	計
	VT1	VT2	VT1&2	VT1	VT2	VT1	VT1&2	VT2	
厚 木		9	5					2	16
大 和		1	4	2					7
平 塚	1	2	10						13
秦 野						1			1
茅ヶ崎		3	3	1				1	8
小田原				4	1				5
鎌 倉		2	1				1		4
計	1	17	23	7	1	1	1	3	54

(古川一郎、小泉明子、佐多辰、鈴木美雪、石原ともえ)

### ② 神奈川県(横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く)の赤痢菌及びコレラ菌検出状況

神奈川県衛生研究所

平成 26 年 1 月から 12 月において神奈川県(横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く)に送付あるいは接触者検便から当所で分離された赤痢菌株は 4 株(表)で、*Shigella flexnerii* が 2 株、*Shigella sonnei* が 2 株であった。渡航歴およびその他の情報は表に示した。

表 赤痢菌の血清型及び患者渡航歴

所轄保健福祉事務所 センター	性別	年齢	菌種	渡航歴
厚 木	男	50	<i>S. sonnei</i>	モロッコ
大 和	男	50	<i>S. flexneri</i>	インド
大 和	男	24	<i>S. sonnei</i>	インドネシア
平 塚	女	61	<i>S. flexneri</i>	なし

平成 26 年 1 月から 12 月に神奈川県(横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く)において、コレラ菌が検出された事例は認められなかった。

(古川一郎、小泉明子、佐多辰、鈴木美雪、石原ともえ)

### ③ 神奈川県(横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く)の散発下痢症患者からの病原菌検出状況

神奈川県衛生研究所

平成 26 年 1 月から 12 月の間に、神奈川県の小児科定点医療機関から依頼された散発下痢症患者便について腸管系病原菌検査を行った。病原菌の分離・同定は常法により行った。

病原菌の検出数は 122 件中 29 件(23.8%)であり、その内訳は病原大腸菌 22 件、カンピロバクター・ジェジュニ 8 件、サルモネラ属菌 1 件であった。同一患者から重複して分離された事例は、病原大腸菌 015 とカンピロバクター・ジェジュニの重複が 1 件、病原大腸菌 0111 とサルモネラ属菌の重複が 1 件認められた。

病原大腸菌 22 株の血清型の内訳は、06 (5 株)、025 (3 株)、044 (3 株)、0146 (2 株)、015 (1 株)、027 (1 株)、086a (1 株)、0111 (1 株)、0114 (1 株)、0125 (1 株)、0126 (1 株)、0164 (1 株) および 0166 (1 株) であった。

表 散発下痢症患者からの病原体分離状況

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
検 体 数	12	11	12	5	19	17	7	2	8	3	10	16	122
陽 性 数		3	4	3	4	4	1		1	1	4	4	29
%		27.2	33.3	60.0	21.1	23.5	12.5		12.5	33.3	40.0	25.0	23.8
検出病原体内訳													
病原大腸菌		3	4	3	2	2	1		1		3	3	22
カンピロバクター・ジェジュニ/コリ		1			2	2				1	1	1	8
サルモネラ属菌			1										1

(古川一郎、鈴木美雪、石原ともえ)

### ④ 横浜市の腸管出血性大腸菌検出状況

横浜市衛生研究所

平成 26 年 1 月～12 月までに横浜市内の病院等で分離され当所に搬入された菌株及び、当所で検便から分離した腸管出血性大腸菌は 135 株であった。その血清型と毒素型は表のとおりであり、0 群別では例年どおり 0157 が一番多く 102 株(75.6%)であった。次いで 026 が 10 株(7.4%)、0111 が 8 株(5.9%)となり、全国的な傾向と同様であった。これら主要 3 血清群以外に 6 血清群の菌が分離されており、例年よりも多岐にわたった。本年は、市内では焼肉店を原因とした食中毒が発生し、IS-printing と PFGE による解析で同一感染源であることが確認された。また、馬刺し関連事例や花火大会の冷やしキュウリ関連事例など自治体をまたがって広域に患者が発生した事例についても市内に患者がおり、国立感染症研究所や各地研と連携して解析を行っていく必要があると思われた。

表 腸管出血性大腸菌の血清型

血清型	毒素型	菌株数
0157 : H7	VT1&2	65
0157 : H7	VT2	13
0157 : H-	VT1&2	13
0157 : H-	VT2	10
0157 : H-	VT1	1
026 : H11	VT1	6
026 : H11	VT2	1
026 : H-	VT1	2
026 : H21	VT1	1
0111 : H-	VT1&2	7
0111 : H-	VT1	1
0121 : H19	VT2	4
0145 : H-	VT2	4
0146 : H21	VT1	3
0103 : H2	VT1	2
074 : H11	VT2	1
0112ac : HUT	VT1	1
計		135

(松本裕子、山田三紀子、小川敦子、小泉充正、太田嘉)

⑤ 横浜市の赤痢菌及びコレラ菌検出状況

横浜市衛生研究所

平成 26 年 1 月～12 月までに横浜市内の病院等で分離され当所に搬入された菌株及び、当所で検便から分離した赤痢菌は 3 株であり、その菌種、血清型は表のとおりであった。

*Shigella sonnei* が 2 株、*S. flexneri* 1 が 1 株であった。

1 月に分離された *S. flexneri* 1 の患者は渡航歴がなく国内発生が示唆された。*Shigella sonnei* の患者 2 人の海外渡航歴はエジプトとインドであり、いずれも現地の飲食物を摂取していた。なお、本年は横浜市内でコレラの発生は確認されなかった。

表 赤痢菌の菌株情報

番号	分離月日	性別	年齢	菌種	血清型	渡航歴
1	H26. 1. 11	男	64	<i>S. flexneri</i>	1	無し
2	H26. 8. 21	男	24	<i>S. sonnei</i>		エジプト
3	H26. 11. 7	男	38	<i>S. sonnei</i>		インド

(松本裕子、山田三紀子、太田嘉)

## ⑥ 川崎市の腸管出血性大腸菌検出状況

川崎市健康安全研究所

平成 26 年 1 月～12 月までに川崎市内の医療機関等で分離され当所に搬入された菌株及び、当所で検便から分離した腸管出血性大腸菌は 63 株であり、その血清型と毒素型は表のとおりである。最も多い血清型は O157 の 44 株 (69.8%) であり、次いで O26 が 14 株 (22.2%) であった。

表 腸管出血性大腸菌の血清型

血清型	毒素型	株数
O157:H7	VT2	10
O157:H7	VT1&2	31
O157:H-	VT1&2	2
O157:H-	VT2	1
O26:H11	VT1	14
O103:H2	VT1	2
O111:H-	VT1	1
O186:H2	VT1	2
計		63

(本間幸子 湯澤栄子 窪村亜希子 小河内麻衣 佐藤弘康)

## ⑦ 相模原市の腸管病原菌検出状況 (三類感染症発症者の家族等の病原菌検索)

相模原市衛生試験所

感染症法に基づく感染症病原菌検索として、発症者の陰性確認、発症者の家族、家族以外の接触者の便検査を実施した。

平成 26 年 1 月から 12 月までの検査対象はすべて腸管出血性大腸菌 (O26、O103、O111、O121、O157、O159) で 17 事例あり、検査対象者はのべ 64 名であった。うち、病原菌は 2 名から検出され、血清型は O26 (VT1) であった。

月別の検査状況は表のとおりであった。

表 相模原市の三類感染症病原菌検索状況 ( )は陽性数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
事例数			2			5		4	3	1	2		17
腸管出血性大腸菌			3			28		12	12(2)	1	8		64 (2)

(田村有美、佐藤宏樹、金沢聡子)

⑧ 横須賀市の散発下痢症・接触者等からの腸管系病原菌検出状況

横須賀市健康安全科学センター

横須賀市内各医療機関から提出された下痢・腹痛を主症状とする患者糞便と菌株、感染症法に基づく発症者、発症者家族及び接触者の糞便を対象に腸管系病原菌検査を実施した。実施期間は平成 26 年 1 月から 12 月で、これらの結果について報告する。材料は糞便 10 件、菌株 7 件の合計 17 件であった。病原菌分離・同定は常法により行った。

病原菌検出状況を表 1 に示す。検査した 17 件から腸管系病原菌が 1 株検出された。陽性株の内訳は、腸管出血性大腸菌が 1 株であった。

検出病原菌の血清型を表 2 に示す。検出された腸管出血性大腸菌は O121:H19 が 1 株であった。

表 1 散発下痢症・接触者等からの病原菌検出状況 (平成 26 年 1 月～12 月)

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
検体件数	0(0)	1(1)	0(0)	1(0)	0(0)	0(0)	7(0)	1(0)	4(0)	2(0)	0(0)	1(0)	17 <sup>†</sup> (1)
陽性株数	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	1(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	1(0)
陽性株内訳													
腸管出血性大腸菌							1(0)						1(0)
毒素原性大腸菌													
黄色ブドウ球菌													

備考： † 印の内訳 (菌株 7 件, 糞便 10 件)

( ) は海外渡航者由来を示す。

表 2 検出病原菌の血清型 (平成 26 年 1 月～12 月)

病原菌	株数	血清型
腸管出血性大腸菌	1	O121:H19(1)

備考： ( ) は菌株数を示す。

(木村実千明、天野肇、宍戸みずほ、片倉孝子、長澤由美子、金川治義)

## ⑨ 藤沢市の腸管病原菌（三類感染症）検出状況

藤沢市保健所

平成 26 年 1 月から 12 月の間に発生した三類感染症の患者、患者の陰性化確認及び患者家族の病原菌検出状況について報告する。

検査対象の事例数及び検体数は 12 事例 45 検体で、病原菌検出状況は表に示したとおりである。内訳は、細菌性赤痢感染症が 1 事例 9 検体、腸管出血性大腸菌 026 感染症が 1 事例 1 検体、腸管出血性大腸菌 0103 感染症が 1 事例 6 検体、腸管出血性大腸菌 0157 感染症が 9 事例 29 検体であった。

表 藤沢市の腸管病原菌（三類感染症）検出状況

No	病原菌	事例数	検体数	陽性数
1	赤痢菌	1	9	0
2	腸管出血性大腸菌 026	1	1	0
3	腸管出血性大腸菌 0103	1	6	1
4	腸管出血性大腸菌 0157	9	29	5
	計	12	45	6

(平井有紀、須賀顕子、松葉友美、佐藤健)

### (3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

定点当たりの患者報告数によると、第20週から第24週と第46週から第52週に報告が多かった。年齢別では、5歳から6歳を中心に報告が多かった。

#### ① A群溶血レンサ球菌の分離及びT型別成績

神奈川県衛生研究所

溶血レンサ球菌レファレンスセンター（関東甲信静支部）活動の一環として平成26年におけるA群溶血レンサ球菌分離及びT型別成績について県内5施設の情報をまとめた。県内の感染症発生動向調査におけるA群溶血レンサ球菌の分離株数は、神奈川県衛生研究所（62株）、横浜市衛生研究所（39株）、川崎市健康安全研究所（5株）及び相模原市衛生試験所（4株）の計110株で、昨年の87株に比べ増加した。図1に分離株数及びT型別の成績を示した。なお、横須賀市健康安全科学センターでは分離はなかった。

T型別が決定した株数は、107株で8種類（1型、3型、4型、6型、11型、12型、25型、B3264型）のT型に分類され、型別不能（UT）は3株であった。これらのうち、T4型が30株（27.3%）と最も多く、以下T12型が25株（22.7%）、T1型が23株（20.9%）の順で、これら3血清型で全体の70.9%を占めた。

最近4年間のT型の経年推移を図2、図3に示した。例年、検出数、検出率ともに、T1、T4とT12型が高い傾向にあるが、平成26年も同様の傾向であった。

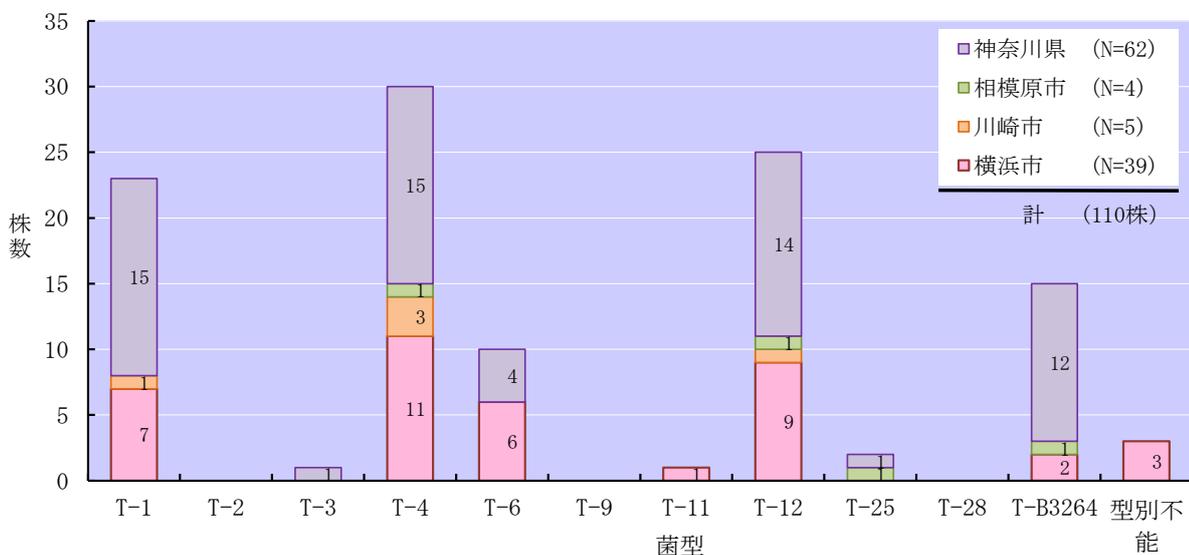


図1 A群溶血レンサ球菌T型の検出状況(平成26年1~12月)

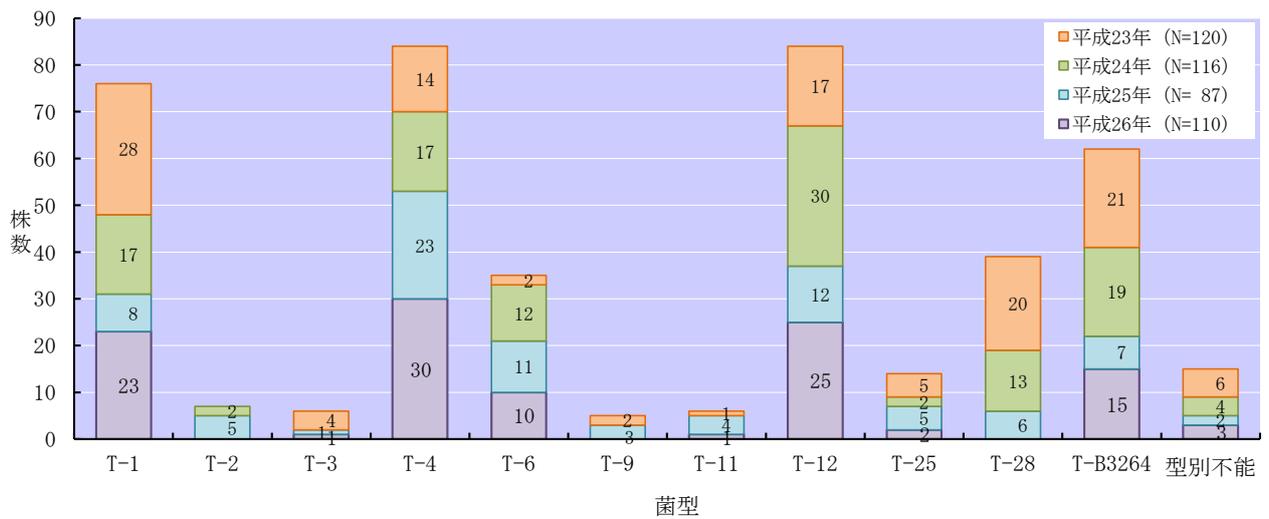


図2 A群溶血レンサ球菌T型検出数の経年推移(平成23~26年)

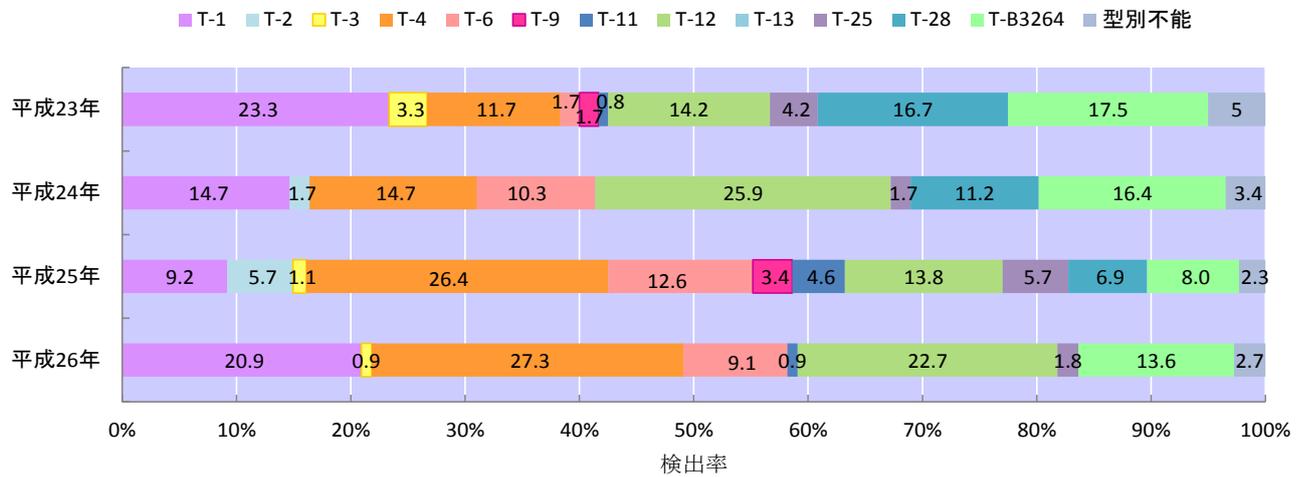


図3 A群溶血レンサ球菌T型検出率の経年推移(平成23~26年)

(大屋日登美、渡辺祐子、相川勝弘、黒木俊郎)

## ② 横浜市のA群溶血性レンサ球菌咽頭炎

横浜市衛生研究所

横浜市における感染症発生動向調査の一環として、定点医療機関において咽頭ぬぐい液を採取し当所に搬入された検体について溶血性レンサ球菌の検索を実施した。平成26年1月から12月までの検出状況は咽頭炎、発疹、発熱等の症状があり、溶血レンサ球菌の依頼があった39件中のうち、A群溶血レンサ球菌は39件から分離された。そのT型別は表のとおりであった

表 A群溶血レンサ球菌のT型別結果

	T1	T4	T6	T11	T12	TB3264	T型別不能	計
H26年1～12月	7	11	6	1	9	2	3	39

(松本裕子、太田嘉)

## ③ 川崎市のA群溶血性レンサ球菌咽頭炎

川崎市健康安全研究所

川崎市における感染症発生動向調査の一環として、定点医療機関において咽頭ぬぐい液を採取し当所に搬入された検体について溶血性連鎖球菌の検索を実施した。平成26年1月から12月までに搬入された検体5件中5件からA群溶血性連鎖球菌が分離された(100.0%)。そのT型別はT-1が1件、T-4が3件、T-12が1件であった。

(宮下安子 淀谷雄亮 飯高順子)

#### (4) 結核

##### ① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）におけるQFT検査成績

神奈川県衛生研究所

結核感染診断法として Interferon-gamma release assay (IGRA) が開発され、現在国内ではクオンティフェロン®TB-ゴールド：QFT-3G（以下QFTとする）とT-スポット®.TB（T-SPOT）が使用されている。これらは、従来のツベルクリン反応検査よりも信頼性が高く、結核予防対策上の有用性が期待されており、「結核に関する特定感染症予防指針 2011年5月改正」においても、IGRAを積極的に活用することが重要であるとされている。当所では、各保健福祉事務所の結核接触者健康診断（健診）に対応するため、QFT検査を実施している。

神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）では、検体数が年々増加してきており、平成26年には254事例1,546検体の依頼があり、平成24～25年より事例数、検体数ともに増加した。結果は、陽性が161検体（10.4%）、判定保留が142検体（9.2%）、陰性が1,229検体（79.5%）、判定不可が14検体（0.9%）であった（表）。

平成24年から平成26年の3年間の事例数を被験者と患者の接触場所別に図に示した。平成26年を接触場所別にみると延べ313事例となり、その内訳は、前年同様に家庭が168事例と最も多く、次にその他67事例、職場43事例、医療機関34事例、学校1事例の順であったが、1事例あたりの検体数は、学校42.0検体と最も多く、医療機関9.1検体、その他6.7検体、職場6.6検体で、家庭は2.7検体と最も少なかった。陽性率が最も高かったのはその他43.5%で、次いで家庭28.0%、職場19.9%、医療機関8.7%の順であった。

表 結核接触者健診におけるQFT検査結果（平成24～26年）

年	事例数	検体数	陽性		判定保留		陰性		判定不可	
			検体数	(%)	検体数	(%)	検体数	(%)	検体数	(%)
平成24年	233	1,156	126	(10.9)	95	(8.2)	930	(80.4)	5	(0.4)
平成25年	222	1,151	99	(8.6)	100	(8.7)	944	(82.0)	8	(0.7)
平成26年	254	1,546	161	(10.4)	142	(9.2)	1,229	(79.5)	14	(0.9)
合計	709	3,853	386	(10.0)	337	(8.7)	3,103	(80.5)	27	(0.7)

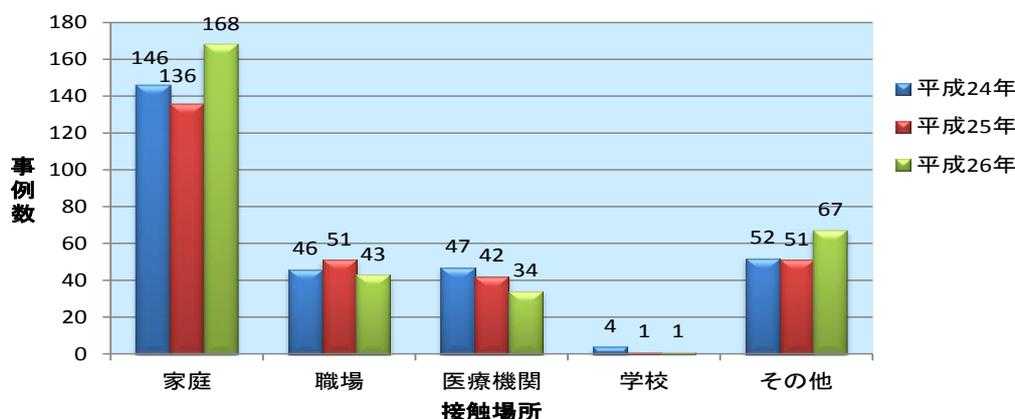


図 被験者と接触場所別の事例数（平成24～26年）

（相川勝弘、大屋日登美、稲田貴嗣、浅井良夫、黒木俊郎）

## ② 川崎市における T-SPOT. TB 検査成績

川崎市健康安全研究所

川崎市では平成 19 年から結核接触者検診における QFT 検査を実施していたが、平成 25 年 12 月からは T-SPOT. TB 検査に変更した。平成 26 年は、検査件数 750 件、陽性 48 件（6.4%）、陽性判定保留 22 件（2.9%）、陰性判定保留 28 件（3.7%）、陰性 632 件（84.3%）、判定不可 20 件（2.7%）であった。

表 結核接触者検診における T-SPOT. TB 検査結果（平成 26 年）

総数	陽性		陽性判定保留		陰性判定保留		陰性		判定不可	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
750	48	6.4	22	2.9	28	3.7	632	84.3	20	2.7

（宮下安子 淀谷雄亮 飯高 順子）

## (5) 百日咳

### ① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）の百日咳検査成績

神奈川県衛生研究所

神奈川県域の小児科病原体定点医療機関及び医療機関からの百日咳を疑う患者検体について、培養法、IS481-PCR 法及び Ptp1/p2-PCR 法による検査を実施している。平成 17 年までは検出はなく、18 年に 3 検体、19 年に 49 検体でいずれも陽性検体はなかった。平成 20 年以降、病原体が分離培養及び PCR で検出されるようになった。平成 26 年は、2 検体を検査し、培養法、IS481-PCR 法ともに全て陰性であった。この 6 年間における検体数は平成 21 年が 95 検体、22 年が 38 検体、23 年は 80 検体、24 年は 51 検体、25 年は 11 検体、26 年は 2 検体で合計 277 検体であった(図 1)。検出状況は、培養法で 277 検体中 13 検体 (4.7%)、IS481-PCR 法で 277 検体中 15 検体 (5.4%) であった。

また、月別検査数については、例年 6～8 月に多くなる傾向があるが、昨年については検査数が少なくその傾向はみられなかった(図 2)。検出された平成 21～24 年において月別検出状況をみると 7 月に比較的多く検出されていた(図 3)。

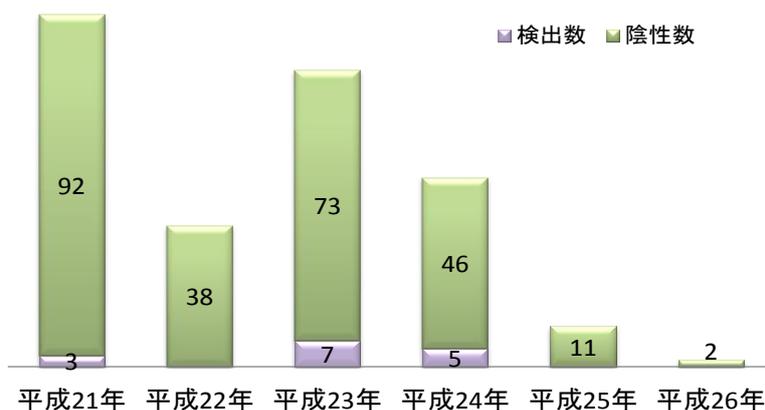


図1 百日咳の年別検出状況

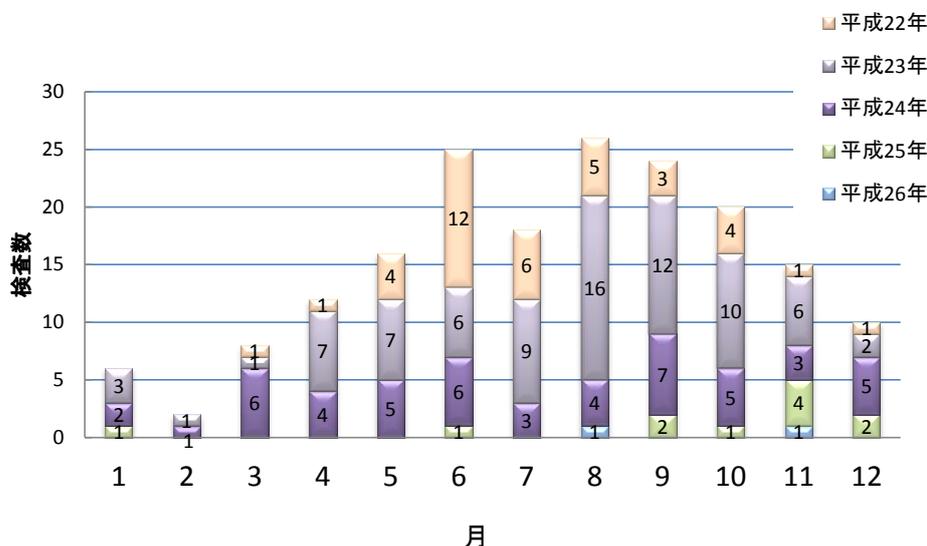


図2 百日咳の累積月別検査数

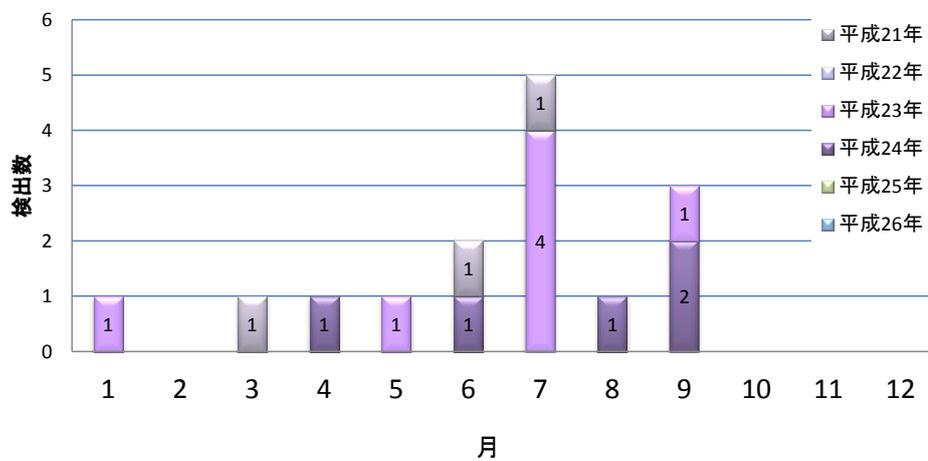


図3 百日咳の累積月別検出数

(大屋日登美、鈴木美雪、石原ともえ、相川勝弘、黒木俊郎)

## ② 横浜市の百日咳検査成績

横浜市衛生研究所

横浜市内の小児科病原体定点医療機関及びその他の医療機関からの百日咳を疑う患者検体について、LAMP 法による百日咳菌遺伝子検査を実施している。平成 26 年は鼻汁、後鼻腔ぬぐい液、髄液などの患者 19 人について 20 検体(表中、No. 1 の患者については 2 検体の検査を実施)の検査を行い、4 件(20.0%)が陽性となった。患者の由来は表のとおりであり、No. 7-10、12、13 の 6 人については老人施設での集団感染が疑われた事例であったが、LAMP 法は全て陰性であった。その他の患者は 7 か月未満の乳児であり、DPT ワクチン歴は、1 回接種の一人を除き、未接種であった。なお、LAMP 法陽性の検体については、培養検査も合わせて行ったが、抗菌薬投与後の検体採取などの影響か百日咳菌は分離されなかった。

表 百日咳の患者情報

番号	検体採取月	性別	月齢(年齢)	主症状	DPT ワクチン接種歴	LAMP 結果	培養結果
1	3	男	1m	咳嗽	なし	陰性	N. T.
2	4	女	2m	発熱・上気道炎	なし	陽性	陰性
3	4	女	1m	咳嗽	なし	陽性	陰性
4	4	男	6m	嘔気・嘔吐	なし	陰性	N. T.
5	4	男	7m	発熱・上気道炎・咳	なし	陰性	N. T.
6	5	女	3m	咳嗽	なし	陰性	N. T.
7	5	女	(62y)	咳・咽頭痛	不明	陰性	N. T.
8	5	女	(90y)	発熱・ふるえ	不明	陰性	N. T.
9	5	女	(83y)	発熱・ふるえ・咳	不明	陰性	N. T.
10	5	女	(24y)	咳・咽頭痛	不明	陰性	N. T.
11	5	男	1m	無呼吸発作	なし	陰性	N. T.
12	5	女	(97y)	咳	不明	陰性	N. T.
13	5	男	(41y)	咳	不明	陰性	N. T.
14	7	男	3m	気管支炎・継続する咳嗽	DPT 1回	陰性	N. T.
15	7	男	1m	下気道炎・喘鳴	なし	陰性	N. T.
16	8	男	1m	下気道炎・咳嗽・チアノーゼ	なし	陽性	陰性
17	10	女	4m	咳嗽・チアノーゼ	なし	陰性	N. T.
18	11	男	1m	上気道炎	なし	陰性	N. T.
19	12	女	3m	咳嗽・下気道炎	なし	陽性	陰性

(松本裕子、太田嘉)

## (6) マイコプラズマ肺炎

### ① 神奈川県（横浜市・川崎市・横須賀市・相模原市及び藤沢市を除く）の肺炎マイコプラズマ検出状況

神奈川県衛生研究所

神奈川県域の小児科病原体定点医療機関および医療機関からのマイコプラズマ肺炎を疑う患者検体について、培養法およびPCR法による検査を実施している。平成26年1月から12月の検出状況は、PCRで27検体中10件(37.0%)が検出された。このうち分離培養では陽性が11件、陰性が16件となった。全国的に流行があった平成23～24年に比べると病原体検出数が大きく減少したが、流行のなかった年と同程度であった。肺炎マイコプラズマは、小児科領域においては重要な呼吸器感染症の原因菌の一つである。マイコプラズマ肺炎感染症の第一選択薬剤であるマクロライド系薬剤に耐性を示す肺炎マイコプラズマが、2000年以降国内外で検出されている。神奈川県においても23S rRNA遺伝子のドメインV領域の2063番目のアデニンAがグアニンGに点変異しているA2063Gが最も多く検出され、A2064Gも検出されている。この変異を持つ耐性株は、14員環マクロライドに高度耐性を示し、A2064Gは16員環マクロライドにも高度耐性を示す特徴がある。今後も病原体検出状況を継続して監視する必要がある。

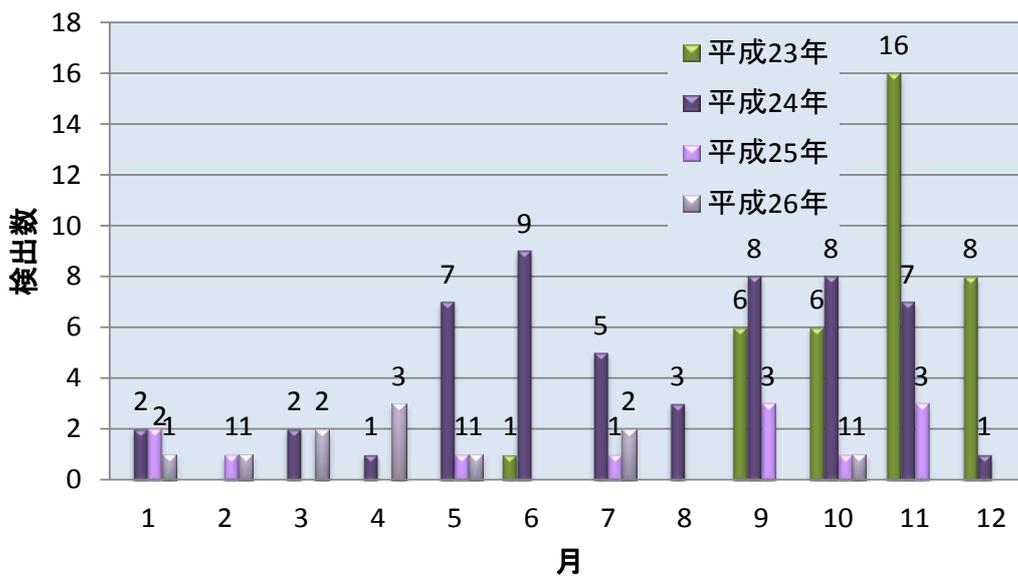


図 肺炎マイコプラズマ月別検出状況

(大屋日登美、相川勝弘、黒木俊郎)

### 3 その他の感染症

#### (1) つつが虫病

##### ① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）で発生したつつが虫病

神奈川県衛生研究所

神奈川県のつつが虫病患者発生数は、平成2年の112名をピークに減少傾向を示し、近年では毎年20名程度の患者数で推移している。

つつが虫病患者発生を季節別にみると、毎年秋期（9～11月）に患者が多いが、平成26年は6月1名、11月3名（計4名）であり、県内で感染が見られた株はKawasaki株が3例、Kuroki株が1例であった。

つつが虫病患者からの聞き取り調査で得られた感染推定地域は、例年、足柄上郡山北町、松田町および南足柄市の3地区に集中しているが、本年は、秦野市（3名）および厚木市（1名）であった。平成26年のつつが虫病患者感染時の行動も、昨年と同様に山地や平地の畑、田圃などでの農作業が多く、日常生活での感染の機会が多くみられた。

（鈴木理恵子、金城恵子、近藤真規子、黒木俊郎）

## < 予防接種実施状況 >

参考資料

予防接種法に基づく定期予防接種は、感染症の発生及びまん延の予防等、公衆衛生の向上を目的に、実施主体である市町村により行われている。

< 予防接種実施状況 >

		平成24年度			平成25年度		
		対象者数 (A)	接種者数 (B)	接種率 (B) / (A)	対象者数 (A)	接種者数 (B)	接種率 (B) / (A)
ジフテリア 百日せき 破傷風 不活化ポリオ (H25 ～)	1 期初回 1 回	86,671	54,287	62.6%	99,637	72,392	72.7%
	1 期初回 2 回	87,233	59,971	68.7%	100,365	71,527	71.3%
	1 期初回 3 回	87,860	66,531	75.7%	105,696	69,548	65.8%
	1 期追加	92,324	82,427	89.3%	76,327	7,821	10.2%
	2 期	88,825	59,307	66.8%	-	-	-
ポリオ (～H24)	1 回	98,992	16,202	16.4%	-	-	-
	2 回	95,008	24,271	25.5%	-	-	-
麻しん	1 期	78,186	76,165	97.4%	76,888	73,569	95.7%
	2 期	79,075	72,683	91.9%	78,930	72,379	91.7%
	3 期	82,685	68,656	83.0%	-	-	-
	4 期	83,053	54,188	65.2%	-	-	-
風しん	1 期	78,186	76,165	97.4%	76,888	73,569	95.7%
	2 期	79,075	72,683	91.9%	78,930	72,379	91.7%
	3 期	82,685	68,656	83.0%	-	-	-
	4 期	83,053	54,188	65.2%	-	-	-
日本脳炎	1 期初回 1 回	126,545	99,120	78.3%	95,689	81,951	85.6%
	1 期初回 2 回	126,980	101,127	79.6%	95,935	79,579	83.0%
	1 期追加	137,350	118,837	86.5%	104,339	85,843	82.3%
	2 期	113,181	43,803	38.7%	108,957	29,276	26.9%
インフルエンザ		1,965,595	798,456	40.6%	2,019,777	830,826	41.1%
内 訳	65歳以上	1,919,653	796,699	41.5%	1,978,205	495,060	25.0%
	予防接種法施行令 で定める60歳以上 65歳未満の者	45,942	1,757	3.8%	41,572	1,183	2.8%

「地域保健・健康増進事業報告（地域保健編）」（厚生労働省）のデータを修正・加工して作成  
 (※)ジフテリア・百日せき・破傷風の1期初回及び追加については、DPTでの接種者数を計上している。(H24)  
 (※)ジフテリア・百日せき・破傷風・不活化ポリオの1期初回及び追加については、DPT-IPVでの接種者数を計上している。(H25)  
 (※)麻しん及び風しんは風しんワクチン及び麻しん風しん混合ワクチンの接種者数を計上。3・4期はH24まで。  
 (※)インフルエンザは年齢不詳の市町村があるため、総数と年齢別の計が一致しない。

(健康危機管理課)

## <感染症関係機関>

平成 27 年 4 月現在

機 関 名	所 在 地	電 話
横浜市健康福祉局健康安全部健康安全課	横浜市中区港町 1-1	045 (671) 2463
横浜市鶴見福祉保健センター	横浜市鶴見区鶴見中央 3-20-1	045 (510) 1827
横浜市神奈川福祉保健センター	横浜市神奈川区広台太田町 3-8	045 (411) 7138
横浜市西福祉保健センター	横浜市西区中央 1-5-10	045 (320) 8439
横浜市中福祉保健センター	横浜市中区日本大通り 35	045 (224) 8332
横浜市南福祉保健センター	横浜市南区花之木町 3-48-1	045 (743) 8241
横浜市港南福祉保健センター	横浜市港南区港南中央通 10-1	045 (847) 8436
横浜市保土ヶ谷福祉保健センター	横浜市保土ヶ谷区川辺町 2-9	045 (334) 6344
横浜市旭福祉保健センター	横浜市旭区鶴ヶ峰 1-4-12	045 (954) 6146
横浜市磯子区福祉保健センター	横浜市磯子区磯子 3-5-1	045 (750) 2444
横浜市金沢福祉保健センター	横浜市金沢区泥亀 2-9-1	045 (788) 7840
横浜市港北区福祉保健センター	横浜市港北区大豆戸町 26-1	045 (540) 2362
横浜市緑福祉保健センター	横浜市緑区寺山町 118	045 (930) 2357
横浜市青葉福祉保健センター	横浜市青葉区市ヶ尾町 31-4	045 (978) 2438
横浜市都筑福祉保健センター	横浜市都筑区茅ヶ崎中央 32-1	045 (948) 2350
横浜市戸塚福祉保健センター	横浜市戸塚区戸塚町 16-17	045 (866) 8426
横浜市栄福祉保健センター	横浜市栄区桂町 303-19	045 (894) 6964
横浜市泉福祉保健センター	横浜市和泉町 4636-2	045 (800) 2444
横浜市瀬谷福祉保健センター	横浜市瀬谷区二ツ橋町 190	045 (367) 5744
横浜市衛生研究所	横浜市磯子区滝頭 1-2-17	045 (754) 9800
川崎市健康福祉局保健医療部疾病対策課	川崎市川崎区宮本町 1	044 (200) 2441
川崎区役所保健福祉センター	川崎市川崎区東田町 8	044 (201) 3223
幸区役所保健福祉センター	川崎市幸区戸手本町 1-11-1	044 (556) 6681
中原区役所保健福祉センター	川崎市中原区小杉町 3-245	044 (744) 3271
高津区役所保健福祉センター	川崎市高津区下作延 2-8-1	044 (861) 3321
宮前区役所保健福祉センター	川崎市宮前区宮前平 2-20-5	044 (856) 3270
多摩区役所保健福祉センター	川崎市多摩区登戸 1775-1	044 (935) 3306
麻生区役所保健福祉センター	川崎市麻生区万福寺 1-5-1	044 (965) 5163
川崎市健康安全研究所	川崎市川崎区殿町 3-25-13	044 (276) 8250
相模原市保健所	相模原市中央区富士見 6-1-1	042 (754) 1111
相模原市衛生研究所	相模原市中央区富士見 1-3-41	042 (769) 8348
横須賀市保健所	横須賀市西逸見町 1-38-11	046 (822) 4300
横須賀市健康安全科学センター	横須賀市日の出町 2-12	046 (822) 4057
藤沢市保健所	藤沢市鵜沼 2131-1	0466 (50) 3592

機 関 名	所 在 地	電 話
神奈川県保健福祉局保健医療部健康危機管理課	横浜市中区日本大通り 1	045 (210) 4793
平塚保健福祉事務所	平塚市豊原町 6-21	0463 (32) 0130
鎌倉保健福祉事務所	鎌倉市由比ガ浜 2-16-13	0467 (24) 3900
茅ヶ崎保健福祉事務所	茅ヶ崎市茅ヶ崎 1-8-7	0467 (85) 1171
厚木保健福祉事務所大和センター	大和市中央 1-5-26	046 (261) 2948
小田原保健福祉事務所	小田原市荻窪 350-1	0465 (32) 8000
鎌倉保健福祉事務所三崎センター	三浦市三崎町六合 32	046 (882) 6811
平塚保健福祉事務所秦野センター	秦野市曾屋 2-9-9	0463 (82) 1428
厚木保健福祉事務所	厚木市水引 2-3-1	046 (224) 1111
小田原保健福祉事務所足柄上センター	足柄上郡開成町吉田島 2489-2	0465 (83) 5111
神奈川県衛生研究所	茅ヶ崎市下町屋 1-3-1	0467 (83) 4400
横浜検疫所	横浜市中区海岸通 1-1	045 (201) 4458
東京検疫所川崎検疫所支所	川崎市川崎区東扇島 6-10	044 (277) 1856
横浜検疫所横須賀・三浦出張所	横須賀市田浦港無番地	045 (201) 4456
輸入食品・検疫検査センター	横浜市金沢区長浜 107-8	045 (701) 9502
横浜市立市民病院	横浜市保土ヶ谷区岡沢町 56	045 (331) 1961
川崎市立川崎病院	川崎市川崎市新川通 12-1	044 (233) 5521
横須賀市立市民病院	横須賀市長坂 1-3-2	046 (856) 3136
藤沢市民病院	藤沢市藤沢 2-6-1	0466 (25) 3111
平塚市民病院	平塚市南原 1-19-1	0463 (32) 0015
相模原協同病院	相模原市緑区橋本 2-8-18	046 (722) 4291
厚木市立病院	厚木市水引 1-16-36	046 (221) 1570
神奈川県立足柄上病院	足柄上郡松田町松田惣領 866-1	0465 (83) 0351



神奈川県衛生研究所

茅ヶ崎市下町屋 1 - 3 - 1

〒253-0087 電話 (0467) 83-4400 (代表)